

2018年度

# 福祉に関する県民意識調査 報 告 書

2019（平成31年）3月

二〇一八年度

福祉に関する県民意識調査報告書

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会



この報告書は、赤い羽根共同募金の配分金により作成したものです。

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

2018年度 山口県内福祉に関する県民意識調査報告書

〈目 次〉

◆はじめに	1
第1章 本事業の実施概要について	
1 本事業の実施目的	2
2 本事業の実施内容	2
第2章 県民福祉意識等に関する調査について	
1 調査の概要	3
2 注記	3
3 集計・分析	3
【調査結果の概要】	4
第3章 考察と課題	44
第4章 県民福祉意識の現状について	49
1 調査結果のまとめ	49
2 災害時の備えについて	52
◆資料編	59
1 「福祉に関する県民意識調査」調査票	60
2 「福祉に関する県民意識等実態調査」結果（単純集計結果）	72
3 「福祉に関する県民意識等実態調査」結果（経年比較）	94
4 県民福祉意識等に関する調査研究委員会 協議経過 等	122

## はじめに

山口県では、昭和61年から県・市町社会福祉協議会を中心として「困ったときにお互いが助け合える組織をつくろう」というスローガンのもとに、「福祉の輪づくり運動」を展開しています。こうした運動の中で、住民が抱える様々な福祉課題に対し、住民参加による解決を目指した地域福祉活動（「地区社会福祉協議会活動」、「自治会福祉部活動」、「ふれあい・いきいきサロン」など）が展開されています。

しかし、少子高齢化や核家族化、住民相互の関係の希薄化等の地域社会の変化に伴い、これまで行われていた地域福祉活動の維持や継続、近隣住民相互の支え合いが難しくなっている地域もあります。

こうした状況の中、山口県社会福祉協議会（以下「県社協」という。）では、「住み慣れた地域で誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）づくり」という基本理念のもとに、市町社会福祉協議会と連携しながら地域福祉を進めています。

また、一人一人の暮らしへの安心感や、豊かさが担保できるようなまちづくりをすすめていくためには、関係機関との協働を意識しながら地域の福祉活動を進めていくことが必要であるという認識のもと福祉の輪づくり運動を展開しています。

本会では、地域を基盤とした地域福祉を進めていくために、福祉や地域の活動等について県民の意識や活動等の実態把握を目的として、18歳以上の県民を対象として福祉に関する実態調査を行いました。

なお、本調査は、県社協で平成31年度に策定する第6次福祉の輪づくり運動推進県域活動計画（第6次ネットワークプランやまぐち）の基礎データとしても活用するとともに、今後5年ごとに本調査を実施し、県民の意識や活動の変化の確認を行う予定です。

本報告書が、地域福祉活動に関わる方々に共有され、山口県における地域福祉のさらなる向上に繋げていくための基礎資料として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、「福祉に関する県民意識調査」アンケートの回答に御協力いただきました山口県民の皆様、また、本報告書をまとめるにあたり、熱心に御協議いただきました委員の皆様にお礼を申し上げますとともに、報告書の執筆、監修をいただきました高野委員長に深く感謝申し上げます。

平成31年（2019年）3月

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

# 第1章 本事業の実施概要について

## 1 本事業の実施目的

地域にある様々な生活課題・福祉課題に対し、住民参加による解決を目指した福祉活動（「地区社会福祉協議会活動」、「見守り活動」、「ふれあい・いきいきサロン」など）の県内でのさらなる展開を図るために、山口県民を対象として、福祉や地域福祉活動等に関する意識や実態を調査するとともに、今後の地域福祉活動方針を策定する基礎資料とするために行うものです。

## 2 本事業の実施内容

山口県の地域性に即した地域福祉活動を計画的に推進していくために山口県社会福祉協議会では、福祉の輪づくり運動推進県域活動計画（ネットワークプランやまぐち）を策定しています。平成31年度に第6次福祉の輪づくり運動推進県域活動計画の策定を行うにあたり、その基礎データとして県民の福祉に対する意識やボランティア活動等への参加意欲等の現状を把握するために本調査を実施しました。

また、平成21年、平成25年に実施した調査と比較し、これまでの活動実態の振り返りを行うことができます（資料編 『3 「福祉に関する県民等実態調査」結果（経年比較）』 参照）。

なお、本調査は5年毎に実施し県民福祉意識の推移を蓄積し、山口県での地域福祉活動の推進状況を確認するための評価指針の一つとする予定です。

## 第2章 県民福祉意識等に関する調査について

### 1. 調査の概要

調査実施主体：社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

調査時期：2018（平成30）年6月

調査方法：自記式、郵送法

対象者抽出名簿：選挙人名簿（無作為抽出）

調査対象者：山口県内在住の18歳以上男女（年齢の上限は設けていません）

配票回収数：5,000票、回収数2,156票、回収率43.1%

調査対象地域：

圏域	市町名	対象者数	圏域	市町名	対象者数
岩国	岩国市	488	山口・防府	山口市	692
	和木町	21		防府市	407
柳井	柳井市	119	宇部 ・ 山陽小野田市	宇部市	603
	周防大島町	65		山陽小野田市	221
	上関町	11		美祢市	96
	田布施町	54	下関	下関市	963
	平生町	47	長門	長門市	129
周南	周南市	513	萩	萩市	182
	下松市	194		阿武町	13
	光市	182	合計		5,000

### 2. 注記

本調査報告書では、各設問ごとに、単純集計結果（グラフ）を示したうえで、そこから読み取れる内容を記述しています。さらに、設問によっては年齢層別（3区分：青年層、壮年層、高齢層）などのクロス集計を行い、その結果表を掲示しています。

クロス集計では、単純集計結果に含まれている「無効回答」、「未回答」の数値を除外したため、単純集計結果とクロス集計結果表の「合計」欄の数値とは異なることに注意が必要です。

### 3. 集計・分析

調査結果の分析、報告書の作成（第2章、第4章）は以下によって行われました。

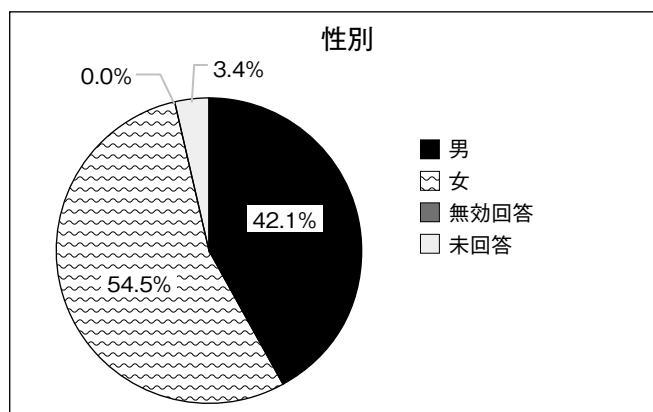
報告書作成：九州大学大学院人間環境学研究院 教授 高野和良

九州大学大学院人間環境学府 博士後期課程 井上智史

【調査結果の概要】

0. 回答者の性別と年齢

F 1 あなたの性別はどちらですか。



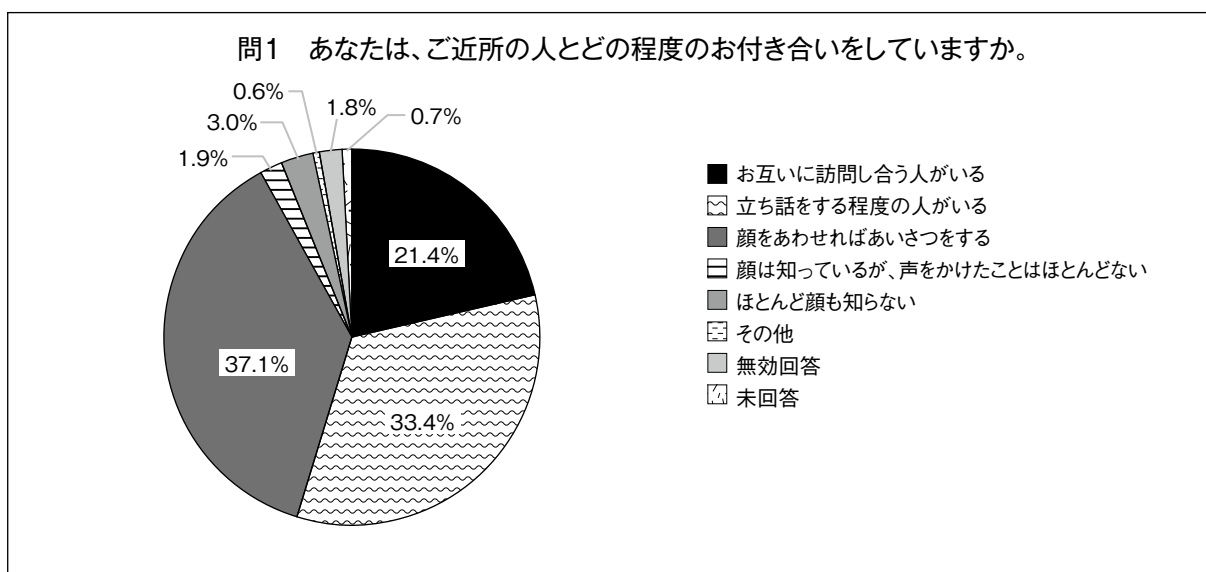
F 2 あなたは、現在おいくつですか。

年齢	度数	比率
18～24歳	39	1.8%
25～29歳	45	2.1%
30～34歳	68	3.2%
35～39歳	105	4.9%
40～44歳	129	6.0%
45～49歳	147	6.8%
50～54歳	143	6.6%
55～59歳	165	7.7%
60～64歳	225	10.4%
65～69歳	293	13.6%
70～74歳	275	12.8%
75～79歳	217	10.1%
80～84歳	158	7.3%
85～89歳	61	2.8%
90～94歳	19	0.9%
95歳以上	1	0.0%
無効回答	0	0.0%
未回答	66	3.1%
合計	2156	100.0%

- ・回答者の属性を性別、年齢別で見ると、男性よりも女性がやや多く、年齢分布では青年層（18～39歳:12.0%）が少なく、壮年層（40～64歳:37.5%）が4割弱、高齢層（65歳以上:47.5%）が5割弱を占める結果となりました。

- ・ 前回（2013年）、前々回調査（2009年）と比較して、男性の比率がやや低下しました（49.0% →46.2% →42.1%）。年齢では壮年層の割合が低下し、高齢層の割合が増加した前回調査から大きな変化は認められませんでした（壮年層：61.4% →39.7% →37.5%、高齢層：26.9% →48.5% →47.5%）。
- ・ 本アンケートの結果は、壮年層・高齢層と女性の意見がより強く反映されていると考えられ、結果の解釈にあたっては注意が必要です。

## 1. 近所づきあいの程度

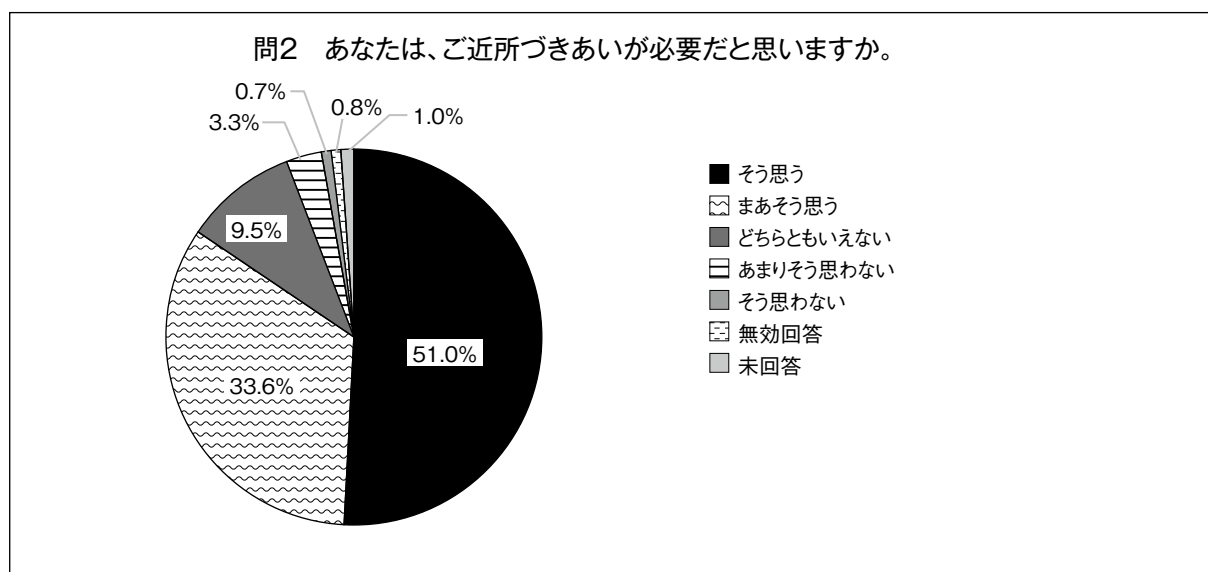


年齢3区分と近所づきあいの程度のクロス表

年齢3区分	近所づきあいの程度	近所付きあいの程度						合計
		お互いに訪問し合う人がいる	立ち話をする程度の人がある	顔をあわせればあいさつをする	顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない	ほとんど顔も知らない	その他	
青年層	度数	23	72	136	10	16	0	257
	年齢3区分の%	8.9%	28.0%	52.9%	3.9%	6.2%	0.0%	100.0%
壮年層	度数	112	285	349	20	31	3	800
	年齢3区分の%	14.0%	35.6%	43.6%	2.5%	3.9%	0.4%	100.0%
高齢層	度数	316	342	292	9	14	8	981
	年齢3区分の%	32.2%	34.9%	29.8%	0.9%	1.4%	0.8%	100.0%
合計	度数	451	699	777	39	61	11	2038
	年齢3区分の%	22.1%	34.3%	38.1%	1.9%	3.0%	0.5%	100.0%

- ・近所付きあいの程度についての回答では、「お互いに訪問し合う人がいる」が約2割(21.4%)、「立ち話をする程度の人がある」が3割強(33.4%)となり、あわせて半数を超える結果となりました。
- ・前回調査、前々回調査と比較すると「お互いに訪問し合う人がいる」の割合がやや低下している一方で(28.2%→26.1%→21.4%)、「顔をあわせればあいさつをする」の割合がやや増加しています(32.3%→34.4%→37.1%)。
- ・年齢階層別にみると、「お互いに訪問し合う人がいる」の割合は高齢層において高く(32.2%)、年齢が下がるにつれて壮年層(14.0%)、青年層(8.9%)と低くなっており、年齢が高い層ほど近所付きあいの程度がより深い傾向にあります。

## 2. 近所づきあいの必要性



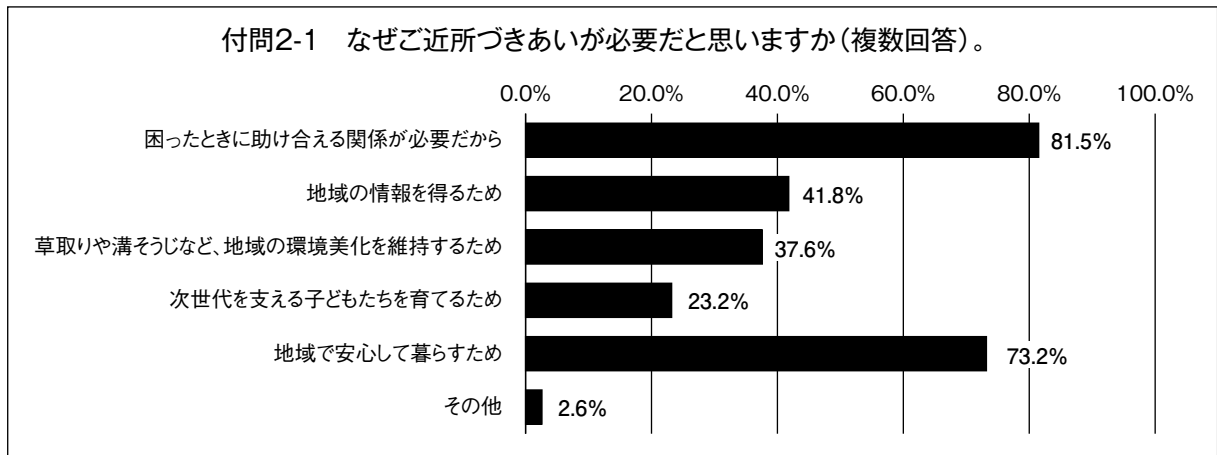
年齢3区分と近所づきあいが必要だと思うかのクロス表

年齢3区分		近所付き合いが必要だと思うか					合計
		そう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	
青年層	度数	71	131	36	14	4	256
	年齢3区分の%	27.7%	51.2%	14.1%	5.5%	1.6%	100.0%
壮年層	度数	342	331	100	26	7	806
	年齢3区分の%	42.4%	41.1%	12.4%	3.2%	0.9%	100.0%
高齢層	度数	656	244	62	26	5	993
	年齢3区分の%	66.1%	24.6%	6.2%	2.6%	0.5%	100.0%
合計	度数	1069	706	198	66	16	2055
	年齢3区分の%	52.0%	34.4%	9.6%	3.2%	0.8%	100.0%

- ・「ご近所づきあいが必要だと思いますか」との問いに対しては、「そう思う」が約5割（51.0%）、「まあそう思う」が3割強（33.6%）となり、8割を超える人が近所づきあいの必要性を認識しています。
- ・前回調査、前々回調査と比較すると、「そう思う」の割合が低下し（65.6%→59.8%→51.0%）、「まあそう思う」の割合がやや増加しています（26.0%→29.5%→33.6%）。
- ・年齢階層別にみると、「そう思う」の割合は高齢層において高く（66.1%）、年齢が下がるにつれて壮年層（42.4%）、青年層（27.7%）と低くなっており、年齢が高いほど近所付き合いの必要性を強く感じている傾向がみられます。ただし、青年層においても「そう思う」、「ややそう思う」の回答を合わせると、その割合は約8割（78.9%）に達しており、若い年齢層の人々にも近所付き合いの必要性は一定程度、共有されているといえます。
- ・年齢階層別の回答について前回調査、前々回調査と比較すると、「そう思う」の回答割合が青年層（48.5%→35.9%→27.7%）、壮年層（61.9%→51.9%→42.4%）、高齢層（81.7%

→73.7%→66.1%) のいずれの年齢層でも低下しています。近所付き合いの必要性は一定程度、共有されているものの、その必要性を強く認識している人の割合は年齢層にかかわらず低下しています。

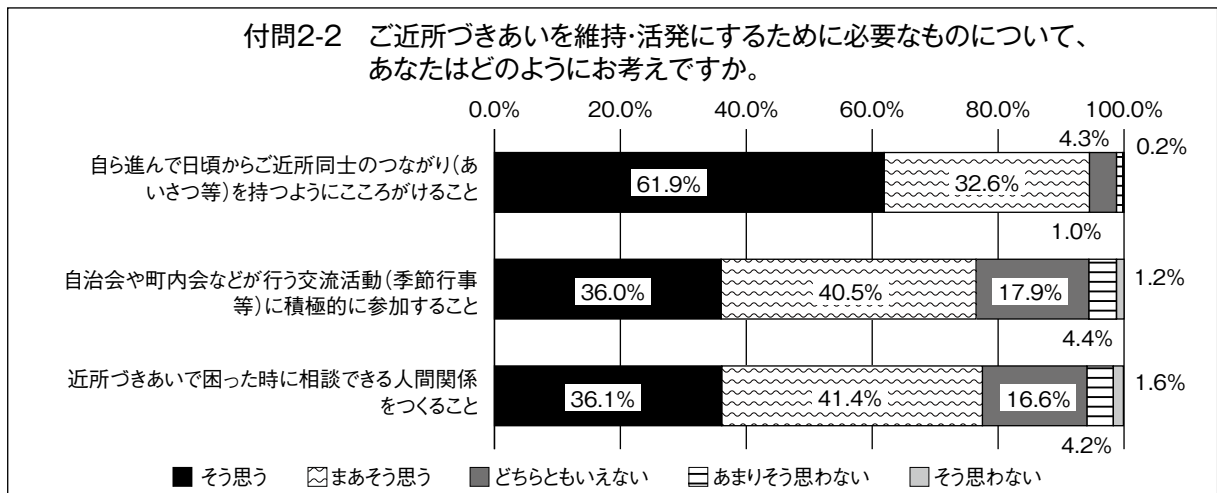
## 2-1. 近所づきあいが必要な理由



・「ご近所づきあいが必要だと思いますか」という問いに対して「そう思う」「まあそう思う」と回答した人に、近所づきあいが必要な理由をたずねたところ、「困ったときに助け合える関係が必要だから」が約8割(81.5%)で最も多く、次いで「地域で安心して暮らすため(防犯や防災のため)」が7割強(73.2%)となりました。

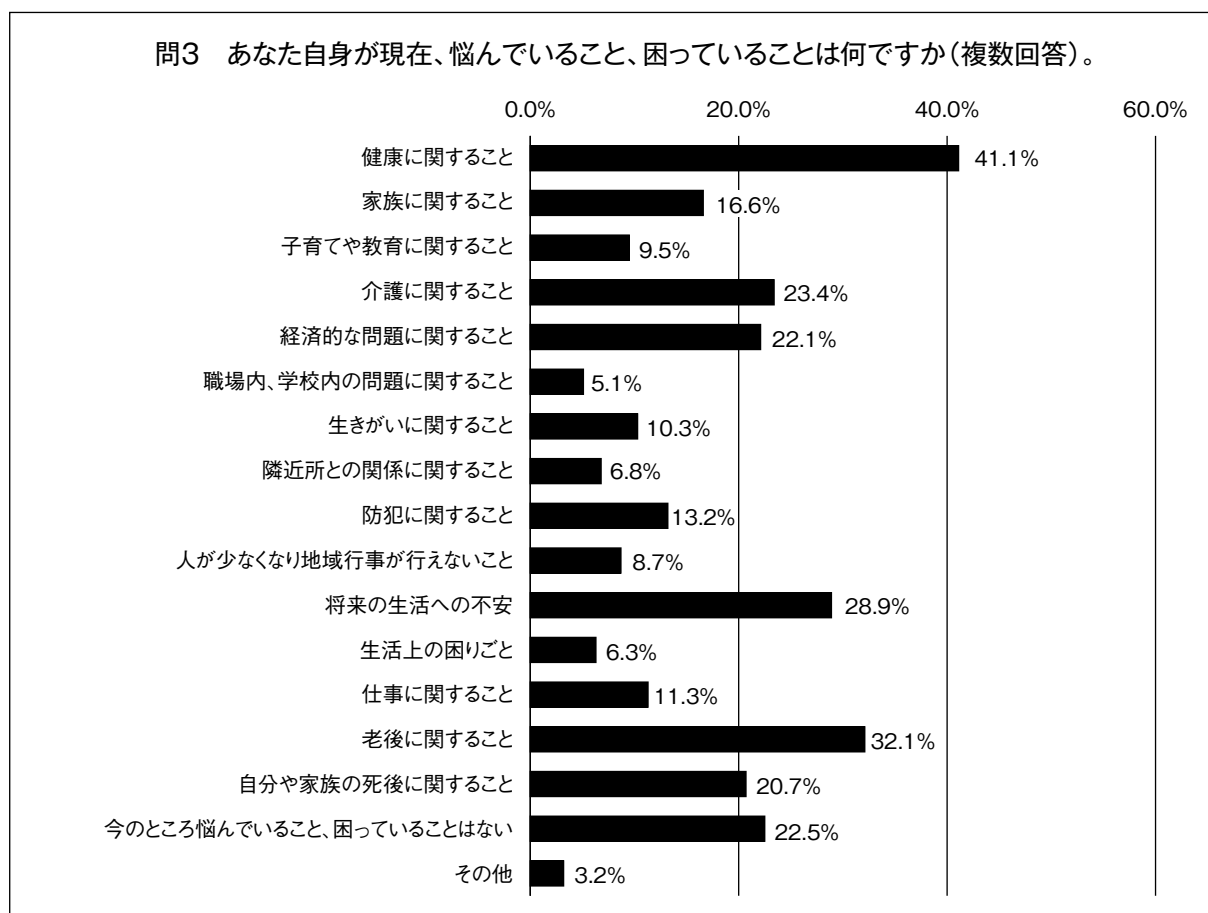
・前回調査、前々回調査と比較して、近所づきあいが必要な理由について大きな変化はありませんでした。

## 2-2. ご近所付き合いを維持・活発にするために必要なもの



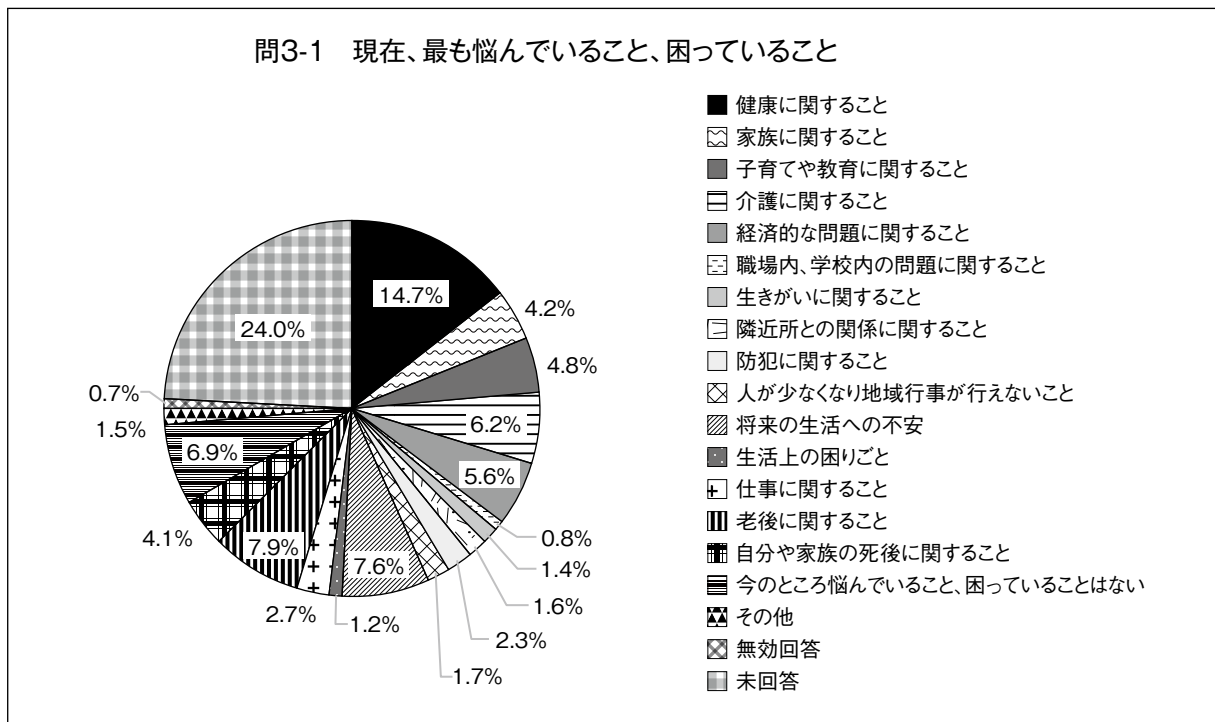
・「ご近所づきあいが必要だと思いますか」という問いに対して「そう思う」「まあそう思う」と回答した人に、「近所づきあいを維持・活発にするために必要なもの」についてたずねました。回答者の中で各設問への肯定層(「そう思う」「まあそう思う」の合計)の割合は、「自ら進んで日頃からご近所同士のつながり(あいさつ等)を持つようにこころがけること」が9割強(94.5%)、「自治会や町内会などが行う交流活動(季節行事等)に積極的に参加すること」(76.5%)、「近所づきあいで困った時に相談できる人間関係をつくること」(77.5%)がともに7割を超えました。

### 3. 現在、悩んでいること、困っていること



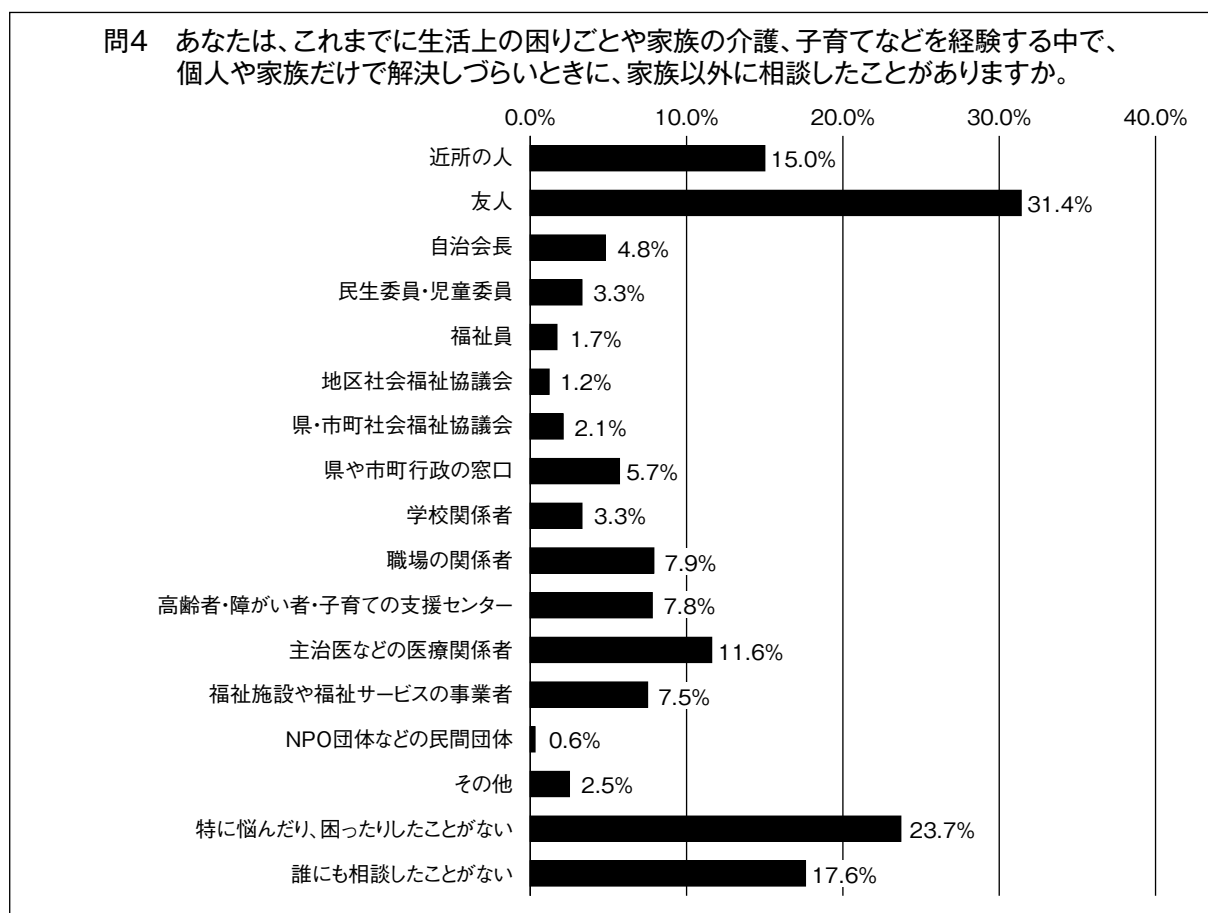
- ・「あなた自身が現在、悩んでいること、困っていることは何ですか」という問いについての回答では、「健康に関すること」(41.1%)が最も多く、次いで回答の割合が多い順に「老後に関すること」(32.1%)、「将来の生活への不安」(28.9%)、「介護に関すること」(23.4%)、「経済的な問題に関すること」(22.1%)となりました。一方、「今のところ悩んでいること、困っていることはない」という回答も約2割(22.5%)ありました。
- ・「老後に関すること」は今回新たに加わった項目ですが、「健康に関すること」、「将来の生活への不安」、「介護に関すること」、「経済的な問題に関すること」4項目について回答割合が高いという傾向は、前回調査、前々回調査と同様でした。

### 3-1. 現在最も悩んでいること、困っていること



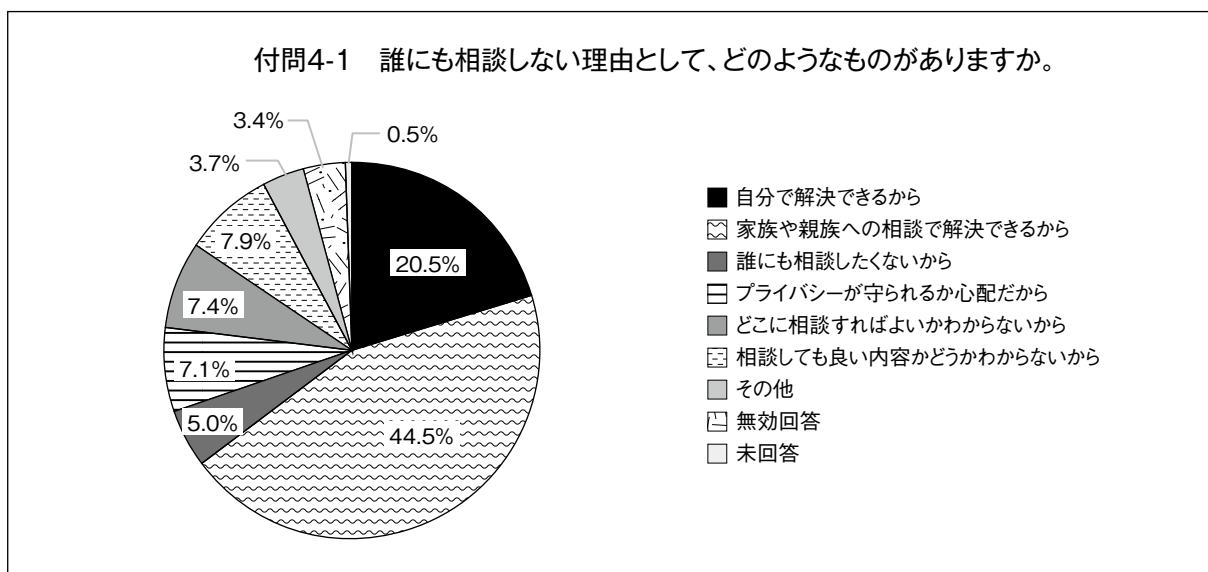
- ・問3で「現在、悩んでいること、困っていること」として回答した項目について、そのうち「最も悩んでいること、困っているもの」についてたずねたところ、ここでも「健康に関すること」(14.7%)が最も多く、次いで回答が多い順に「老後に関すること」(7.9%)、「将来の生活への不安」(7.6%)となりました。

#### 4. 生活上の困りごとの相談先



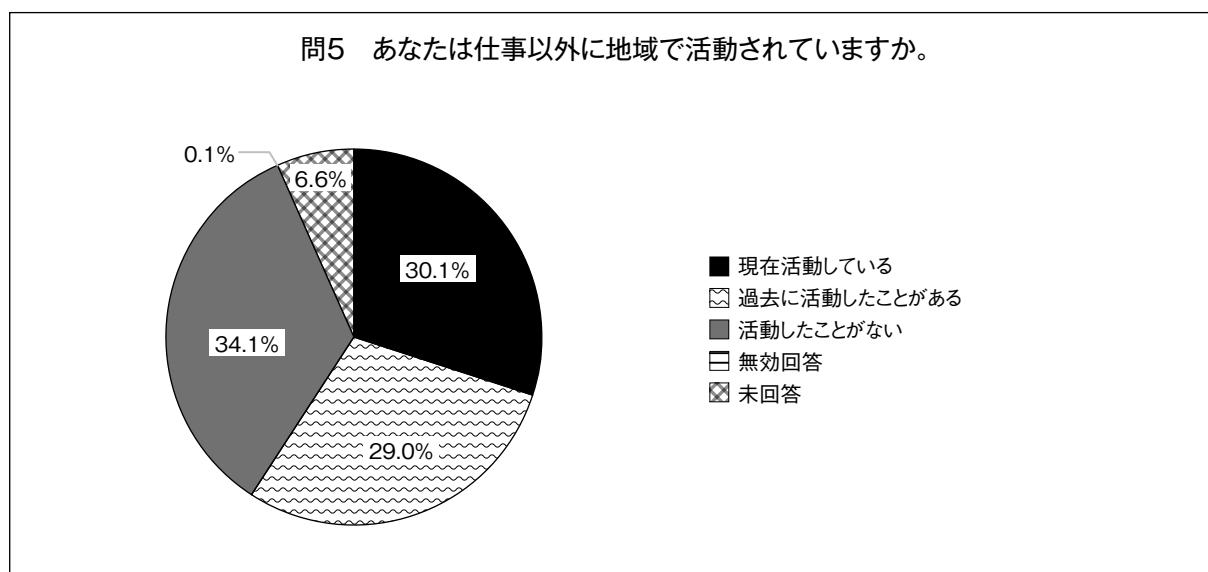
- ・生活上の困りごとの家族以外の相談先についてたずねたところ、「友人」が最も多く約3割（31.4%）となり、次いで「近所の人」（15.0%）となりました。一方、「誰にも相談したことがない」が2割弱（17.6%）となり、困りごとをかかえていても、家族のほかには相談した経験のない人も一定程度いることがわかります。また、「特に悩んだり、困ったりしたことがない」という回答は2割強（23.7%）となりました。
- ・「友人」は今回調査から新たに加わった選択肢ですが、他の選択肢と比較して突出して最も高い割合となりました。
- ・社会福祉協議会について、前回調査、前々回調査では「社会福祉協議会」という選択肢でたずねており、前々回調査：3.0%→前回調査：2.1%という結果になっていました。今回調査では「地区社会協議会」と「県・市町村社会福祉協議会」とに分けて選択肢を設けた結果、「地区社会協議会」（1.2%）、「県・市町村社会福祉協議会」（2.1%）となりました。

#### 4-1. 誰にも相談しない理由



- ・生活上の困りごとの家族以外の相談先について「誰にも相談したことがない」と回答した人に、「誰にも相談しない理由」をたずねたところ、「家族や親族への相談で解決できるから」が4割強（44.5%）で最も多く、次いで「自分で解決できるから」が約2割（20.5%）となりました。

## 5. 仕事以外の地域での活動

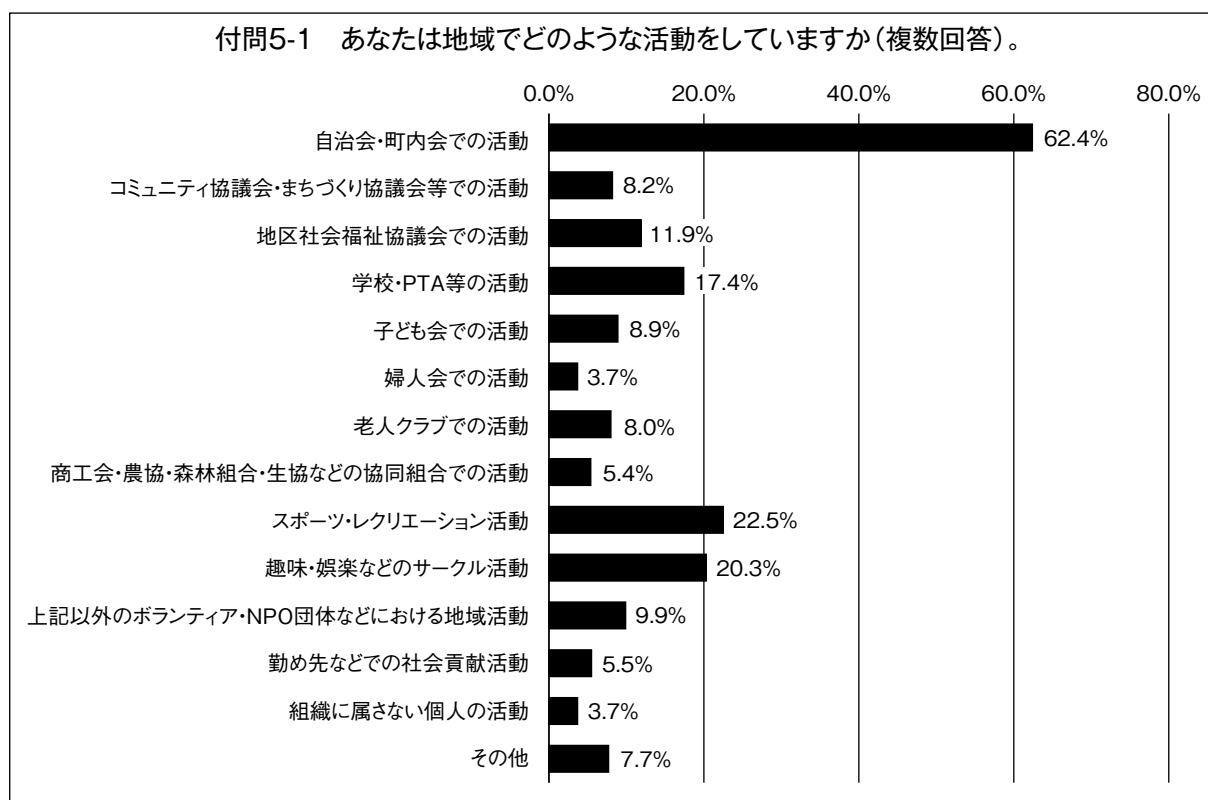


年齢3区分と仕事以外で地域で活動しているかのクロス表

		仕事以外で地域で活動しているか			合計	
		現在活動している	過去に活動したことがある	活動したことがない		
年齢3区分	青年層	度数	73	48	132	253
		年齢3区分の%	28.9%	19.0%	52.2%	100.0%
	壮年層	度数	263	250	276	789
		年齢3区分の%	33.3%	31.7%	35.0%	100.0%
	高齢層	度数	299	313	304	916
		年齢3区分の%	32.6%	34.2%	33.2%	100.0%
合計		度数	635	611	712	1958
		年齢3区分の%	32.4%	31.2%	36.4%	100.0%

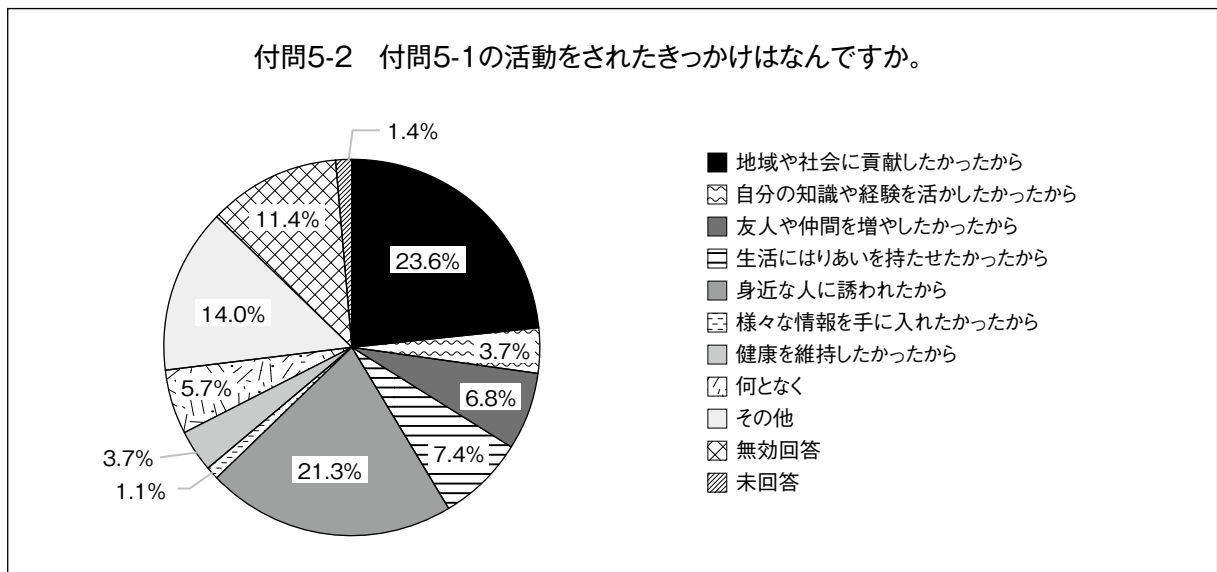
- ・ 仕事以外の地域での活動についての回答では、「現在活動している」(30.1%)と「過去に活動したことがある」(29.0%)がともに約3割となり、約6割(59.1%)が仕事以外での地域の活動の経験を有していることがわかります。一方、「活動したことがない」と回答した人も3割強(34.1%)いました。
- ・ 前回調査、前々回調査と比較して、仕事以外の地域での活動参加に大きな変化はみられませんでした。
- ・ 年齢階層別にみると、「活動したことがない」の割合が青年層において高い結果となりました。この結果は前回調査、前々回調査と同様の結果となりました。ただし、青年層での「現在活動している」回答の割合に注目すると、前々回調査：23.7%→前回調査19.5%→今回調査：28.9%となっており、今回調査が最も高い割合となりました。

## 5-1. 地域での活動内容



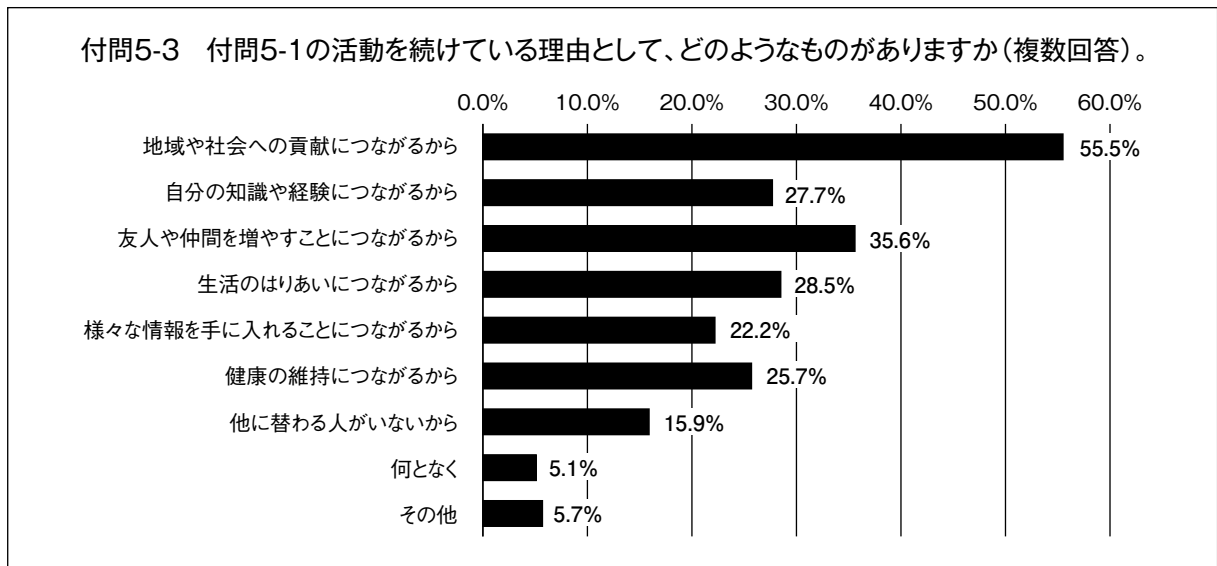
- ・地域での活動を「現在している」と回答した人に、活動内容についてたずねたところ、「自治会・町内会での活動」が最も多く約6割（62.4%）となり、「スポーツ・レクリエーション活動」（22.5%）、「趣味・娯楽などのサークル活動」（20.3%）がともに約2割となりました。
- ・前回調査、前々回調査と比較して、「自治会・町内会での活動」、「スポーツ・レクリエーション活動」、「趣味・娯楽などのサークル活動」の3項目の回答が多いという傾向に変化はありませんでした。

## 5-2. 地域での活動をしたきっかけ



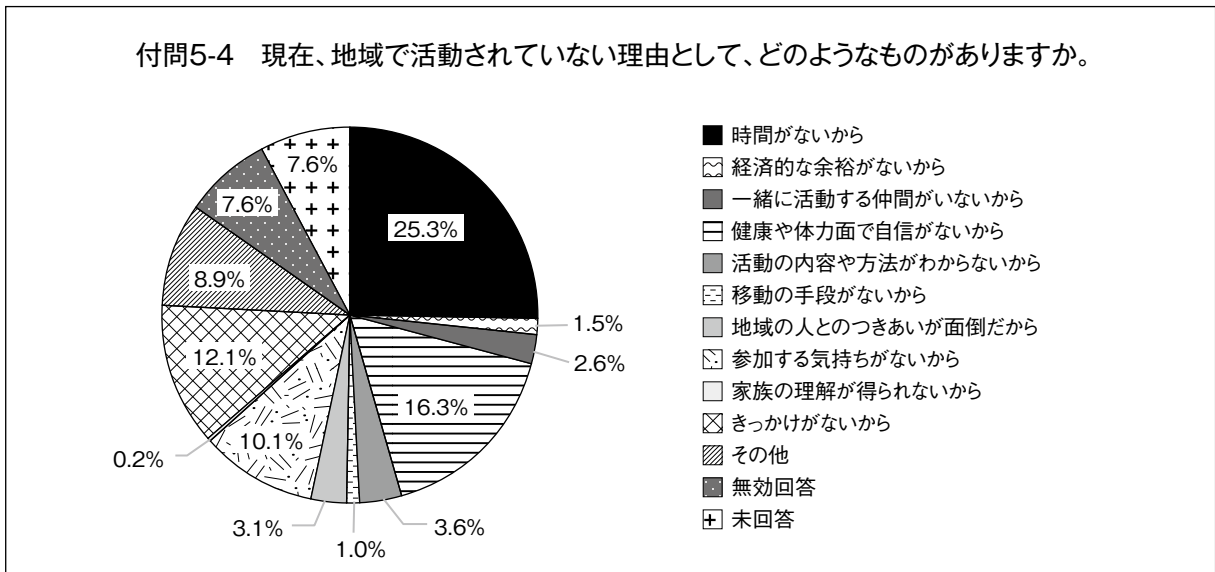
- ・ 地域での活動を「現在している」と回答した人に、活動のきっかけをたずねたところ、「地域や社会に貢献したかったから」が最も多く2割強（23.6%）となり、次いで「身近な人に誘われたから」が約2割（21.3%）となりました。

## 5-3. 地域での活動を継続する理由



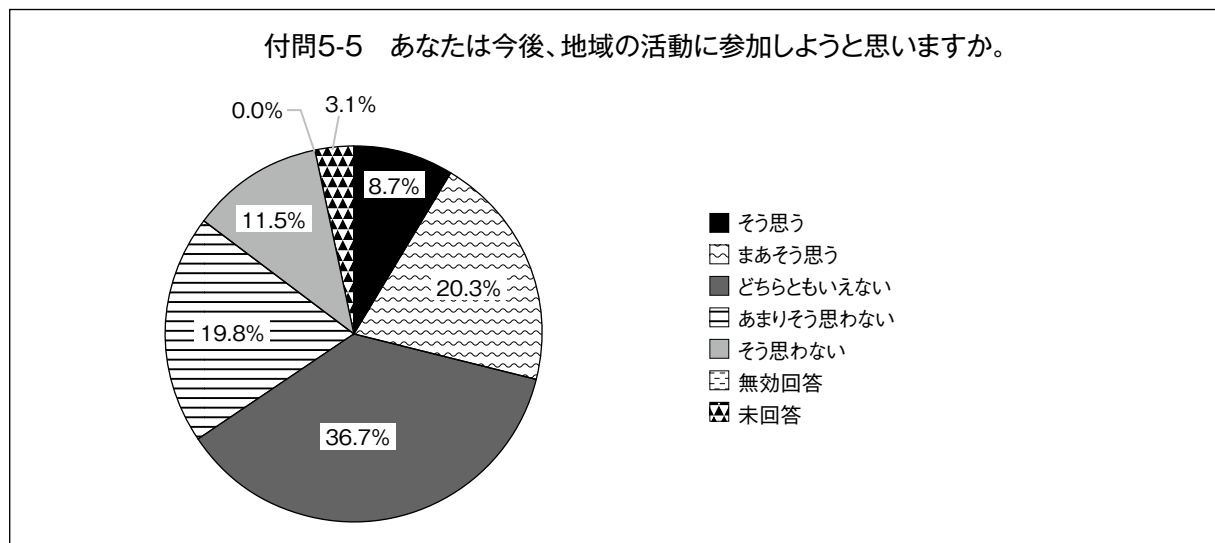
- ・ 地域での活動を「現在している」と回答した人に、活動を続けている理由を複数回答でたずねたところ、「地域や社会への貢献につながるから」の回答が最も多く半数を超える割合（55.5%）となりました。以下、回答が多い順に「友人や仲間を増やすことにつながるから」（35.6%）、「生活のはりあいにつながるから」（28.5%）、「自分の知識や経験につながるから」（27.7%）、「健康の維持につながるから」（25.7%）となりました。

#### 5-4. 地域での活動をしない理由



- ・地域での活動を現在していない人に、活動していない理由をたずねたところ、「時間がないから」(25.3%) が最も多く、次いで回答の多い順に「健康や体力面で自信がないから」(16.3%)、「きっかけがないから」(12.0%)、「参加する気持ちがないから」(10.1%) となりました。
- ・前回調査、前々回調査と比較すると、「時間がないから」や「健康や体力面で自信がないから」が多い傾向は変わりませんでした。また、「きっかけがないから」は今回調査から新たに加わった選択肢ですが、それらに次ぐ回答割合となりました。

## 5-5. 地域での活動への参加意欲

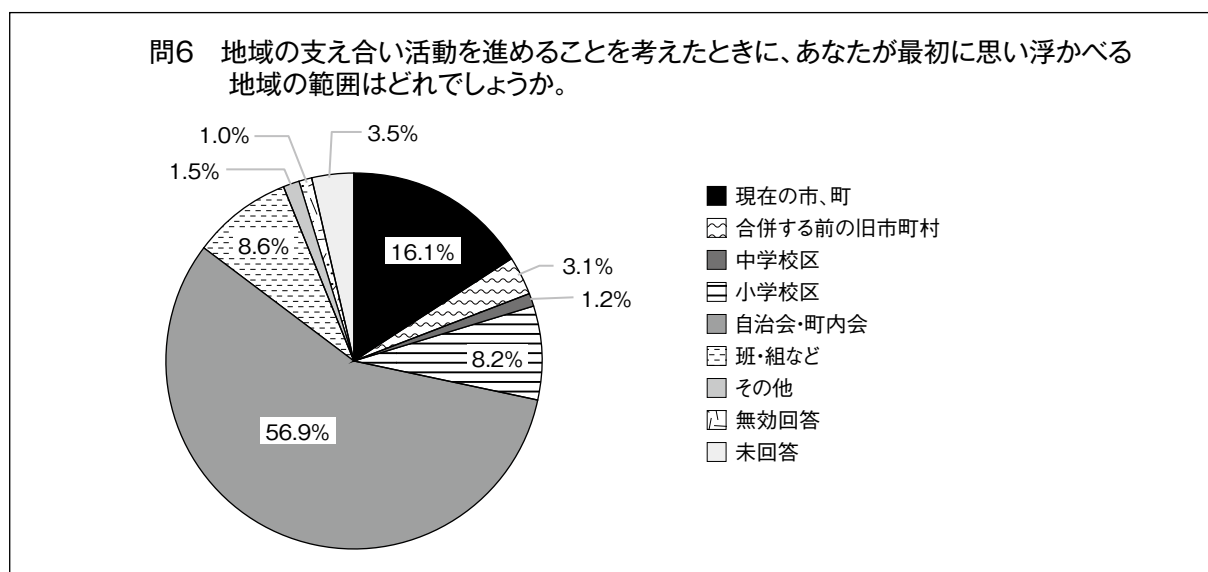


年齢3区分と今後地域の活動に参加しようと思うかのクロス表

		今後地域の活動に参加しようと思うか					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない		
年齢3区分	青年層	度数	9	43	73	33	21	179
		年齢3区分の%	5.0%	24.0%	40.8%	18.4%	11.7%	100.0%
	壮年層	度数	36	140	208	91	43	518
		年齢3区分の%	6.9%	27.0%	40.2%	17.6%	8.3%	100.0%
	高齢層	度数	68	87	207	139	87	588
		年齢3区分の%	11.6%	14.8%	35.2%	23.6%	14.8%	100.0%
合計		度数	113	270	488	263	151	1285
		年齢3区分の%	8.8%	21.0%	38.0%	20.5%	11.8%	100.0%

- ・地域での活動を現在していない人に、今後の活動の意向をたずねたところ、肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）の割合は約3割（29.0%）でした。
- ・前回調査、前々回調査と比較すると、肯定層の割合は一貫した傾向ではないもののやや低下しており（35.7%→38.1%→29.0%）、現在活動していない人に限定すると、地域活動への参加意欲が低下していることがうかがえます。
- ・年齢階層別にみると、肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）の割合は壮年層が最も高く（33.9%）、青年層（29.0%）と高齢層（26.4%）の順に低くなっています。ただし、強い肯定を示す「そう思う」の回答割合は、青年層（5.0%）と壮年層（6.9%）において低く、高齢層（11.6%）において高くなっています。
- ・年齢階層別の回答について前回調査、前々回調査と比較すると、肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）の割合が青年層（35.6%→45.1%→29.0%）、壮年層（36.1%→36.2%→34.0%）、高齢層（35.3%→37.5%→26.4%）となり、一貫した傾向ではないものの青年層と高齢層でやや低下しています。

## 6. 地域の支え合い活動の際の「地域の範囲」

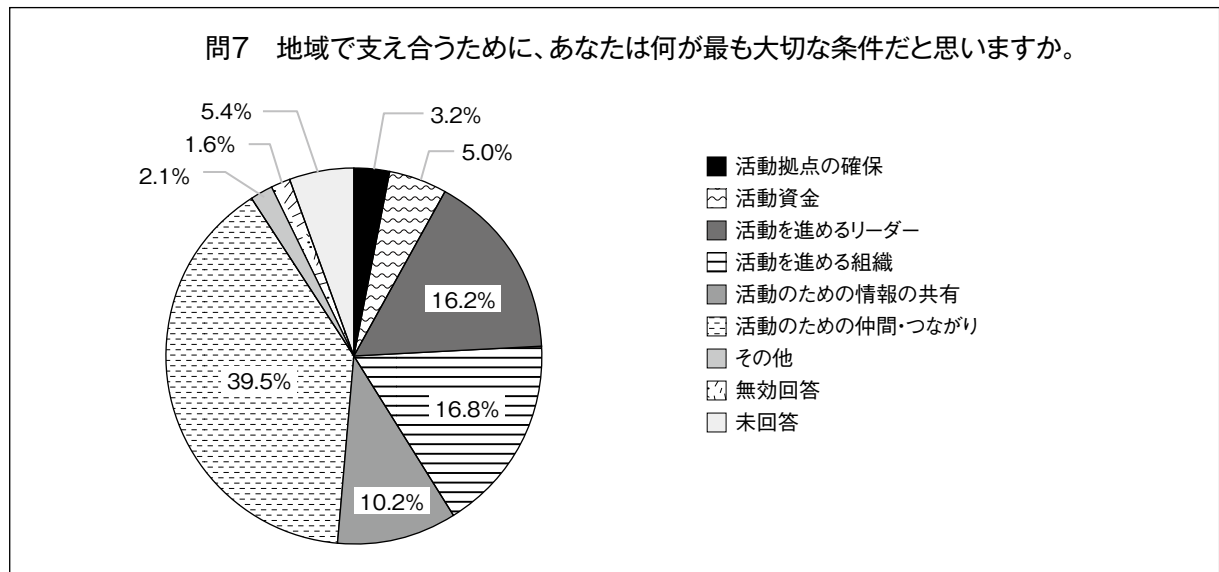


年齢3区分と最初に思う浮かべる地域の範囲のクロス表

		最初に思い浮かべる地域の範囲							合計	
		現在の市、町	合併する前の旧市町村	中学校区	小学校区	自治会・町内会	班・組など	その他		
年齢3区分	青年層	度数	48	7	3	40	133	16	5	252
	年齢3区分の%		19.0%	2.8%	1.2%	15.9%	52.8%	6.3%	2.0%	100.0%
	壮年層	度数	130	31	15	86	454	61	13	790
	年齢3区分の%		16.5%	3.9%	1.9%	10.9%	57.5%	7.7%	1.6%	100.0%
	高齢層	度数	163	29	7	41	604	101	12	957
	年齢3区分の%		17.0%	3.0%	0.7%	4.3%	63.1%	10.6%	1.3%	100.0%
合計	度数	341	67	25	167	1191	178	30	1999	
	年齢3区分の%		17.1%	3.4%	1.3%	8.4%	59.6%	8.9%	1.5%	100.0%

- ・地域の支え合い活動を進めることを考えたときに、最初に思い浮かべる地域の範囲についての回答をみると、「自治会・町内会」が半数を超える割合（56.9%）となりました。以下、回答の多い順に「現在の市、町」（16.1%）、「班・組など」（8.6%）、「小学校区」（8.2%）となりました。
- ・前回調査、前々回調査と比較すると、「自治会・町内会」の割合が半数を超え最も多い回答となった点については同様の結果となりました。ただし、「班・組」の回答をみると、前々回調査：11.7%→前回調査：15.4%→今回調査8.6%となり一貫した傾向ではないもののやや低下しており、一方、「現在の市、町」（12.8%→12.6%→16.1%）、「小学校区」（6.9%→4.4%→8.2%）はやや増加していることから、より広い範囲を「地域の範囲」として想定するように変化してきている可能性があります。
- ・年齢階層別にみると、高齢層では「班・組など」や「自治会・町内会」といったより狭い範囲での地域が想定され、青年層においては「現在の市、町」や「小学校区」などより広い範囲での地域が想定される傾向にあることがわかります。

## 7. 地域で支え合うための条件



年齢3区分と地域で支え合うために最も大切な条件のクロス表

		活動拠点の確保	活動資金	活動を進めるリーダー	活動を進める組織	活動のための情報の共有	活動のための仲間・つながり	その他	合計
年齢3区分	青年層	9	20	23	48	42	103	4	249
	年齢3区分の%	3.6%	8.0%	9.2%	19.3%	16.9%	41.4%	1.6%	100.0%
壮年層	度数	22	42	131	160	88	313	20	776
	年齢3区分の%	2.8%	5.4%	16.9%	20.6%	11.3%	40.3%	2.6%	100.0%
高齢層	度数	38	44	186	148	87	401	18	922
	年齢3区分の%	4.1%	4.8%	20.2%	16.1%	9.4%	43.5%	2.0%	100.0%
合計	度数	69	106	340	356	217	817	42	1947
	年齢3区分の%	3.5%	5.4%	17.5%	18.3%	11.1%	42.0%	2.2%	100.0%

地域福祉活動の経験の有無と地域で支え合うために最も大切な条件のクロス表

		活動拠点の確保	活動資金	活動を進めるリーダー	活動を進める組織	活動のための情報の共有	活動のための仲間・つながり	その他	合計
地域福祉活動の経験	ある	29	29	128	102	33	260	12	593
	地域福祉活動の経験の%	4.9%	4.9%	21.6%	17.2%	5.6%	43.8%	2.0%	100.0%
ない	度数	39	74	212	252	183	559	32	1351
	地域福祉活動の経験の%	2.9%	5.5%	15.7%	18.7%	13.5%	41.4%	2.4%	100.0%
合計	度数	68	103	340	354	216	819	44	1944
	地域福祉活動の経験の%	3.5%	5.3%	17.5%	18.2%	11.1%	42.1%	2.3%	100.0%

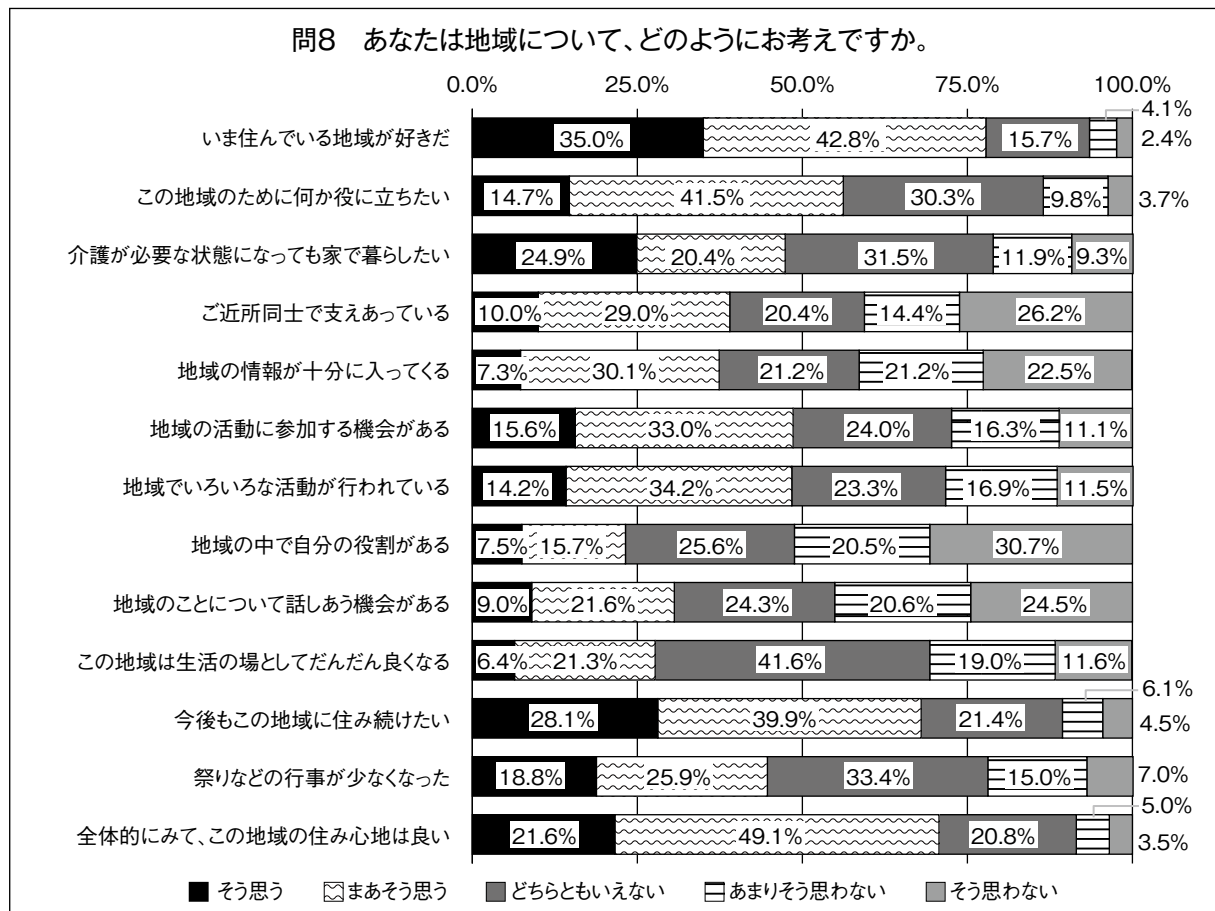
・地域で支え合うための最も大切な条件についての回答をみると、「活動のための仲間・つながり」が約4割（39.5%）で最も高い割合となりました。次いで、回答が多い順に「活動を進める組織」（16.8%）、「活動を進めるリーダー」（16.2%）、「活動のための情報の共有」（10.2%）となりました。

・前回調査、前々回調査と比較すると、「活動のための仲間・つながり」、「活動を進める組

織」、「活動を進めるリーダー」の3項目の回答が多いという傾向に変化はありませんでした。前回調査で増加した「活動のための情報の共有」は、前回調査と同様の回答割合となりました（5.8%→10.0%→10.2%）。

- ・年齢階層別にみると、年齢層が高いほど「活動を進めるリーダー」の回答割合が高い傾向にあります。一方、「活動のための情報共有」は年齢層が若いほど回答割合が高い傾向にあります。
- ・地域福祉活動の経験の有無別に回答をみると、地域福祉活動の経験がある層で「活動を進めるリーダー」、「活動拠点の確保」の回答割合が高くなりました。また、地域福祉活動の経験がない層で「活動のための情報共有」の回答割合が高くなりました。

## 8. 地域意識



### 年齢3区分と介護が必要な状態になっても家で暮らしたいのクロス表

介護が必要な状態になっても家で暮らしたい

		そう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	合計	
年齢3区分	青年層	度数	33	56	98	48	22	257
		年齢3区分の%	12.8%	21.8%	38.1%	18.7%	8.6%	100.0%
壮年層	度数	140	195	279	107	84	805	
		年齢3区分の%	17.4%	24.2%	34.7%	13.3%	10.4%	100.0%
高齢層	度数	342	208	264	89	84	987	
		年齢3区分の%	34.7%	21.1%	26.7%	9.0%	8.5%	100.0%
合計	度数	515	459	641	244	190	2049	
		年齢3区分の%	25.1%	22.4%	31.3%	11.9%	9.3%	100.0%

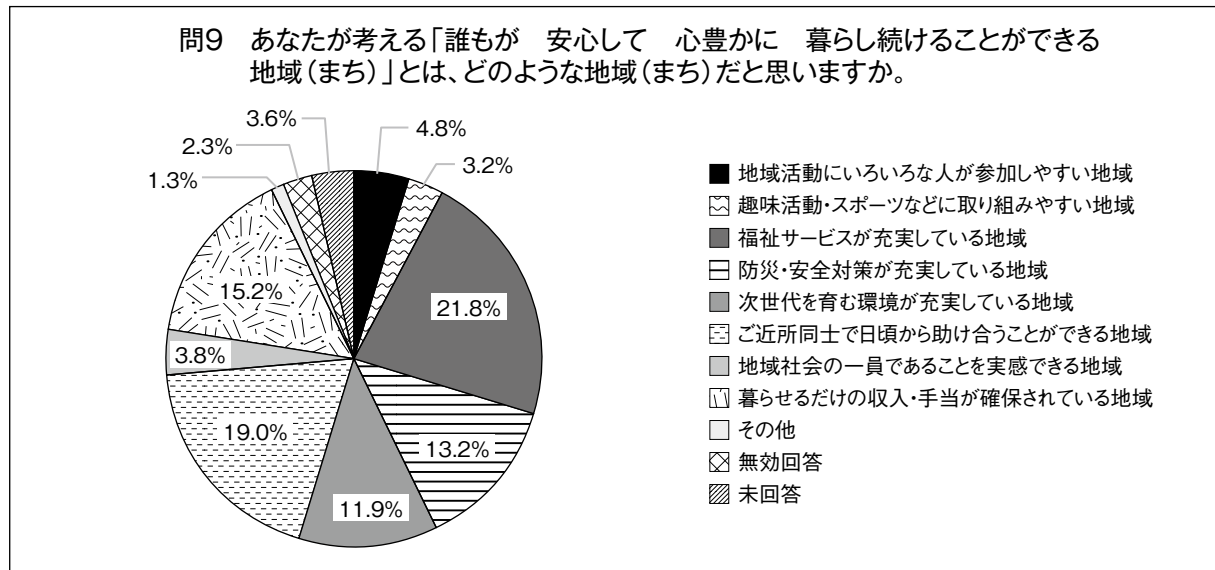
### 年齢3区分とご近所同士でさえあっているのクロス表

ご近所同士でさえあっている

		そう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	合計	
年齢3区分	青年層	度数	11	55	109	45	37	257
		年齢3区分の%	4.3%	21.4%	42.4%	17.5%	14.4%	100.0%
壮年層	度数	54	206	300	150	94	804	
		年齢3区分の%	6.7%	25.6%	37.3%	18.7%	11.7%	100.0%
高齢層	度数	169	298	276	126	89	958	
		年齢3区分の%	17.6%	31.1%	28.8%	13.2%	9.3%	100.0%
合計	度数	234	559	685	321	220	2019	
		年齢3区分の%	11.6%	27.7%	33.9%	15.9%	10.9%	100.0%

- ・「あなたは地域について、どのようにお考えですか」に対する各回答について、肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）の割合をみると、「いま住んでいる地域が好きだ」が8割弱（77.8%）、「全体的にみて、この地域の住み心地は良い」が約7割（70.7%）、「今後もこの地域に住み続けたい」が7割弱（68.0%）となり、多くの人が地域に愛着を持ち、住み続けたいと思っていることがわかります。また、「この地域のために何か役に立ちたい」についても肯定層が6割弱（56.2%）となりました。
- ・一方、肯定層の割合が低い項目をみると「地域の中で自分の役割がある」（23.2%）、「この地域は生活の場としてだんだん良くなる」（27.7%）、「地域のことについて話し合う機会がある」（30.6%）となりました。
- ・前回調査と比較すると、肯定層の回答割合の上位4項目と下位3項目にあがった項目には変化がありませんでした。
- ・年齢階層別にみるとすべての項目で年齢層が高いほど「そう思う」の回答割合が高くなる傾向にあります。特徴的な項目をみると、「介護が必要になっても家で暮らしたい」、「ご近所で支えあっている」の項目でその傾向が顕著にみられます。

## 9. 誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）の条件



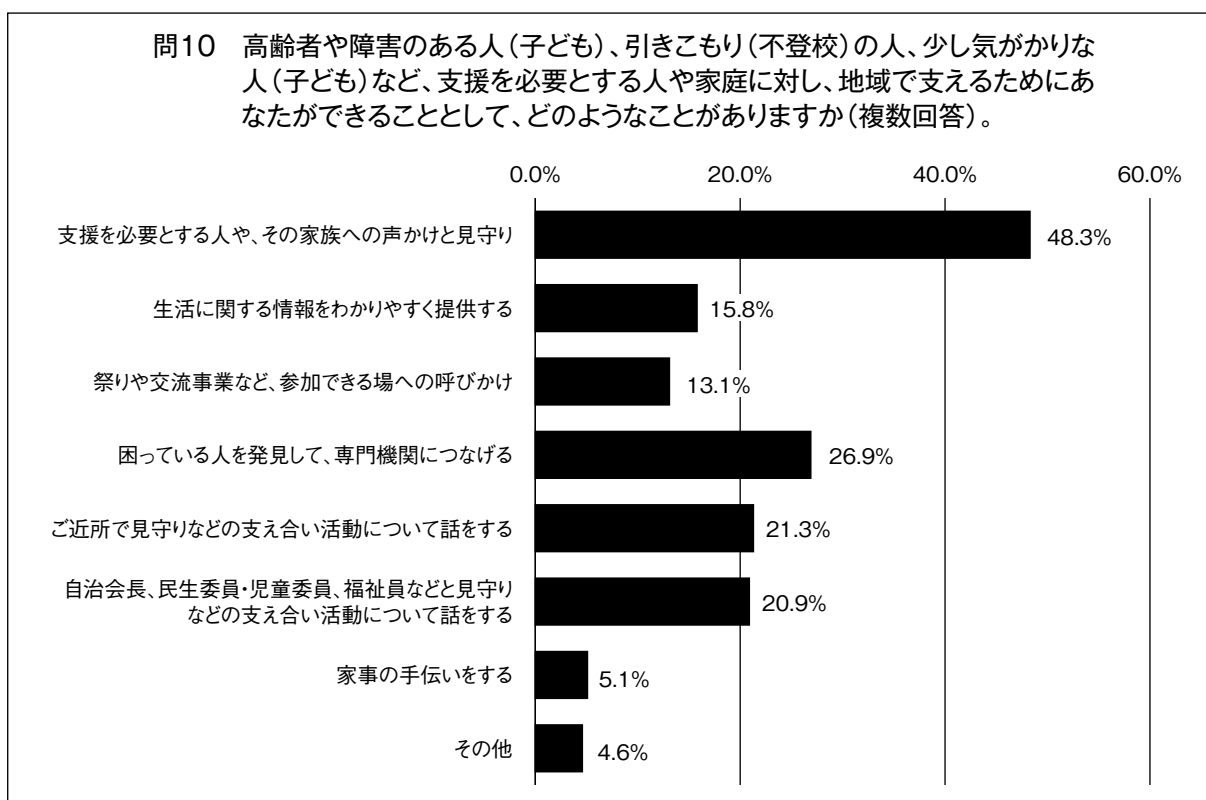
年齢3区分と「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）」とは、どのような地域（まち）かのクロス表

「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）」とは、どのような地域（まち）か

	地域活動にいろいろな人が参加しやすい地域（まち）	趣味活動・スポーツなどに取り組みやすい地域（まち）	福祉サービスが充実している地域（まち）	防災・安全対策が充実している地域（まち）	次世代を育む環境が充実している地域（まち）	ご近所同士で日頃から助け合えることができる地域（まち）	地域社会の一員であることを実感できる地域（まち）	暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域（まち）	その他	合計
年齢3区分 青年層 度数	11	12	33	40	64	33	7	45	4	249
年齢3区分の%	4.4%	4.8%	13.3%	16.1%	25.7%	13.3%	2.8%	18.1%	1.6%	100.0%
壮年層 度数	40	18	184	126	99	113	26	164	12	782
年齢3区分の%	5.1%	2.3%	23.5%	16.1%	12.7%	14.5%	3.3%	21.0%	1.5%	100.0%
高齢層 度数	52	37	244	105	85	255	45	111	10	944
年齢3区分の%	5.5%	3.9%	25.8%	11.1%	9.0%	27.0%	4.8%	11.8%	1.1%	100.0%
合計 度数	103	67	461	271	248	401	78	320	26	1975
年齢3区分の%	5.2%	3.4%	23.3%	13.7%	12.6%	20.3%	3.9%	16.2%	1.3%	100.0%

- ・「あなたが考える『誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）』とは、どのような地域（まち）だと思いますか」に対する回答をみると、回答割合が高い順に「福祉サービスが充実している地域」（21.8%）、「ご近所同士で日頃から助け合えることができる地域」（19.0%）がともに約2割、以下「暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域」（15.2%）、「防災・安全対策が充実している地域」（13.2%）、「次世代を育む環境が充実している地域」（11.9%）となりました。
- ・前回調査、前々回調査と比較すると、「福祉サービスが充実している地域」、「ご近所同士で日頃から助け合えることができる地域」、「暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域」、「防災・安全対策が充実している地域」、「次世代を育む環境が充実している地域」の5項目の回答が多いという傾向は変わりませんでした。
- ・年齢階層別にみると、「ご近所同士で日頃から助け合えることができる地域」は高齢層において高く（27.0%）、壮年層（14.5%）や青年層（13.3%）において低くなっています。「福祉サービスが充実している地域」も高齢層（25.8%）や壮年層（23.5%）において高く、青年層において低くなっています（13.3%）。一方、「次世代を育む環境が充実している地域」は青年層（25.7%）において高く、壮年層（12.7%）、高齢層（9.0%）と順に低くなっています。

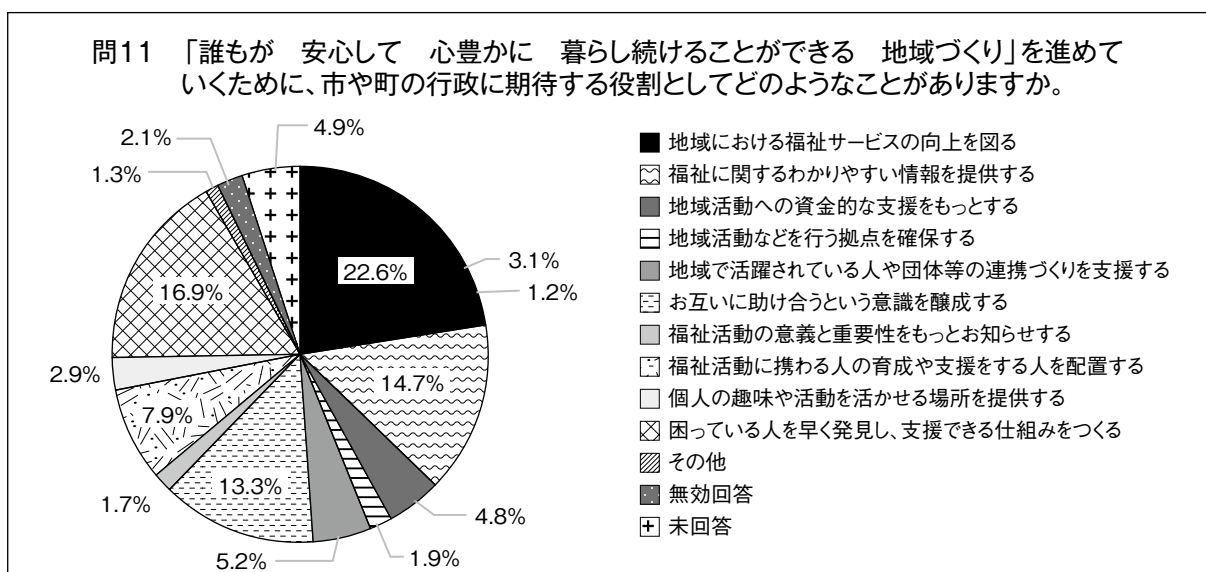
## 10. 支援を必要とする人に対して何ができるか



・「高齢者や障がいのある人(子ども)、引きこもり(不登校)の人、少し気がかりな人(子ども)など、支援を必要とする人や家庭に対し、地域で支えるためにあなたができることとして、どのようなことがありますか」に対する回答では、「支援を必要とする人や、その家族への声かけと見守り」が約半数(48.3%)となり、以下、回答の多い順に「困っている人を発見して、専門機関につなげる」(26.9%)、「ご近所で見守りなどの支え合い活動について話をする」(21.3%)、「自治会長、民生委員・児童委員、福祉員など見守りなどの支え合い活動について話をする」(20.9%)となりました。

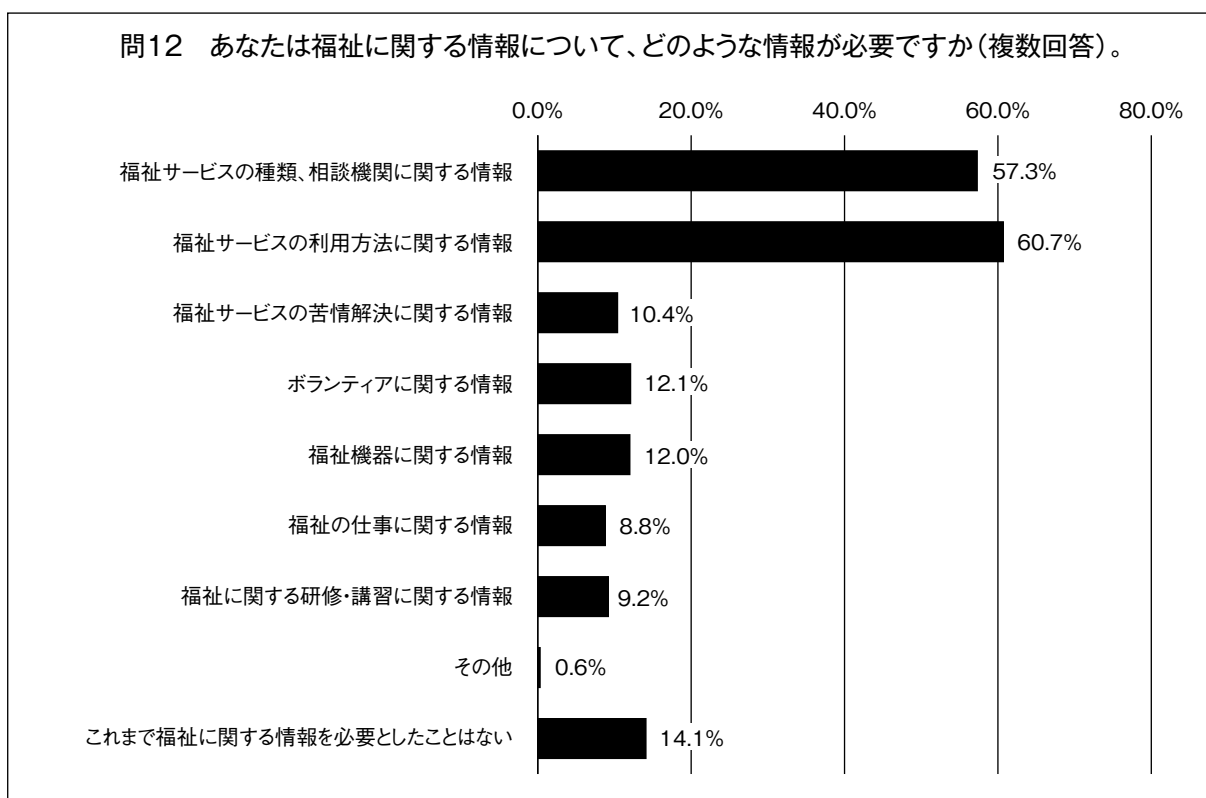
・前回調査、前々回調査と比較すると、「支援を必要とする人や、その家族への声かけと見守り」、「困っている人を発見して、専門機関につなげる」、「ご近所で見守りなどの支え合い活動について話をする」、「自治会長、民生委員・児童委員、福祉員など見守りなどの支え合い活動について話をする」の4項目の回答が多いという傾向は変わりませんでした。

## 11. 市や町の行政に期待する役割



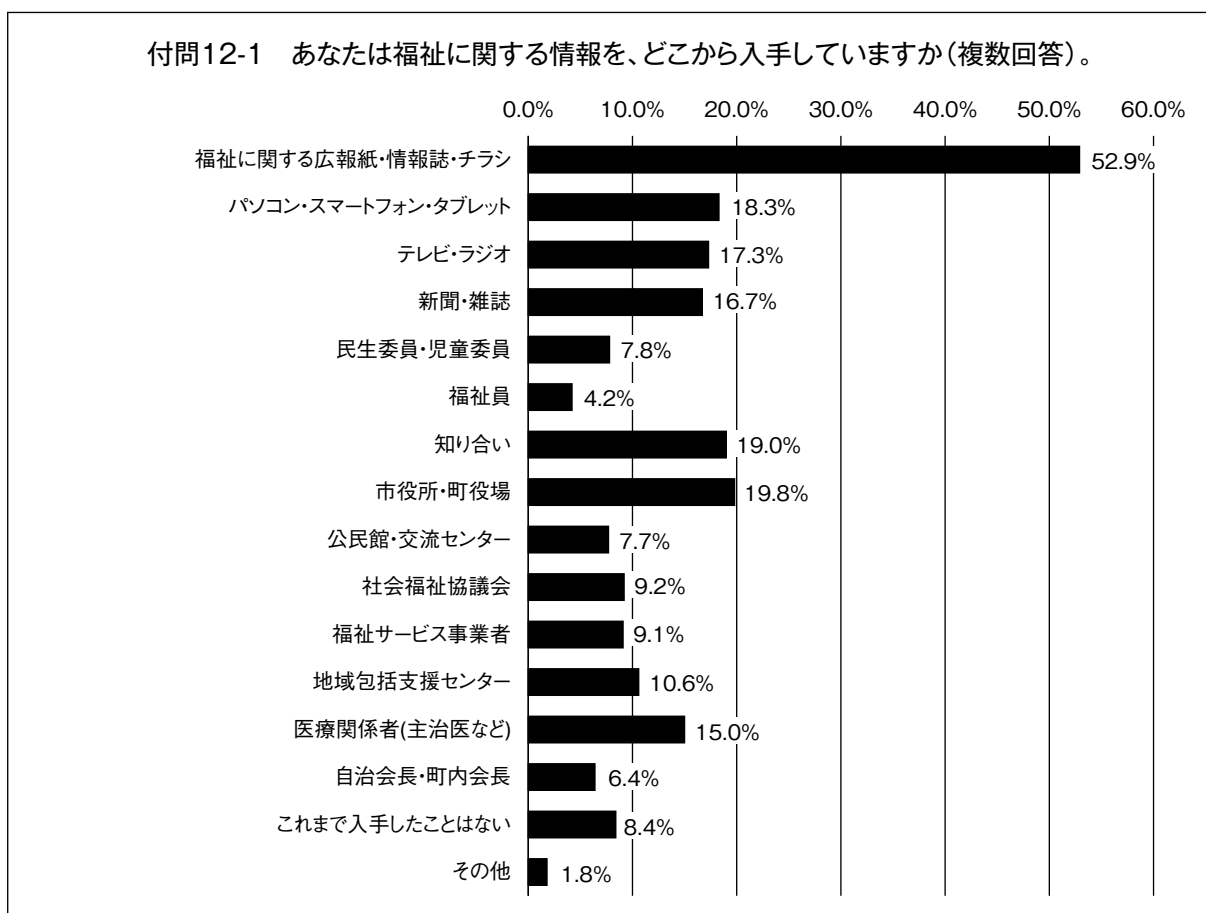
- ・『誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）づくり』を進めていくために、市や町の行政に期待する役割としてどのようなことがありますか」に対する回答をみると、「地域における福祉サービスの向上を図る」が約2割（22.6%）で最も多く、以下、回答が多い順に「困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる」（16.9%）、「福祉に関するわかりやすい情報を提供する」（14.7%）、「お互いに助け合うという意識を醸成する」（13.3%）となりました。
- ・前回調査、前々回調査と比較したところ、「地域における福祉サービスの向上を図る」、「困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる」、「福祉に関するわかりやすい情報を提供する」、「お互いに助け合うという意識を醸成する」の4項目の回答が多いという傾向は変わりませんでした。

## 12. 福祉に関する情報として必要なもの



- ・福祉に関するどのような情報が必要かという問いに対する回答をみると、「福祉サービスの利用方法に関する情報」は約6割（60.7%）で最も多く、「福祉サービスの種類、相談機関に関する情報」が6割弱（57.3%）となりました。一方、「これまで福祉に関する情報を必要としたことはない」と回答した人も1割強（14.1%）いました。
- ・前回調査、前々回調査と比較したところ、「福祉サービスの利用方法に関する情報」と「福祉サービスの種類、相談機関に関する情報」の2項目の回答が多い傾向は変わりませんでした。また、「これまで福祉に関する情報を必要としたことはない」と回答した人の割合も大きな変化はありませんでした（15.9%→14.2%→14.1%）。

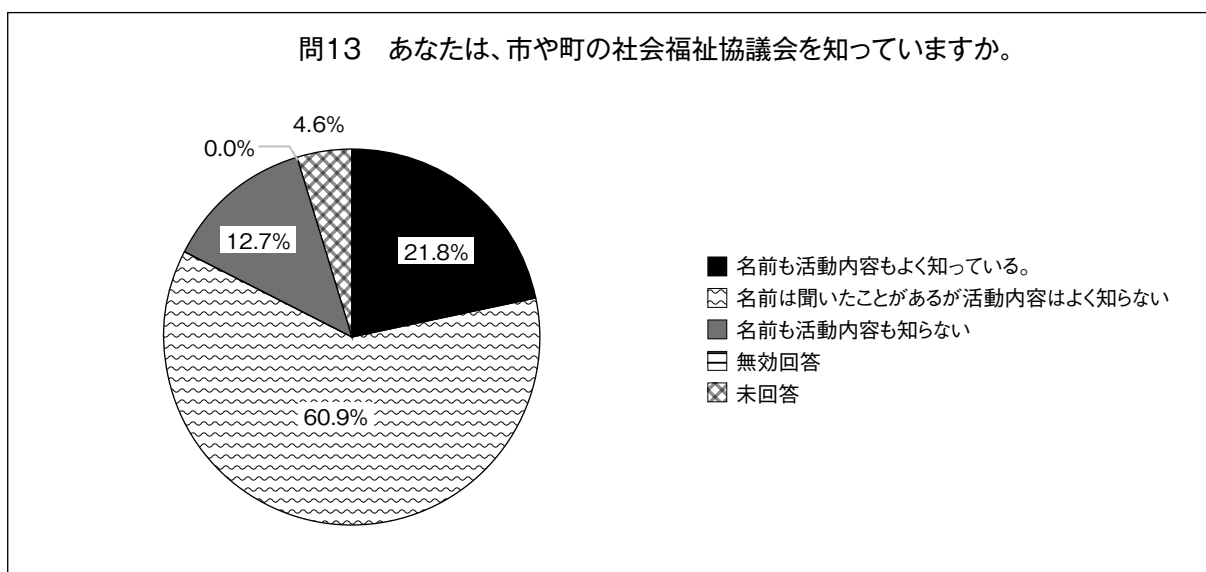
## 12-1. 福祉に関する情報の入手先



・福祉に関するどのような情報が必要かという問いに対して何らかの情報が必要と回答した人(問12の1～8の回答者)に、情報の入手先についてたずねました。回答をみると、「福祉に関する広報紙・情報誌・チラシ」が最も多く約半数(52.9%)となり、以下、回答の多い順に「市役所・町役場」(19.8%)、「知り合い」(19.0%)、「パソコン・スマートフォン・タブレット」(18.3%)、「テレビ・ラジオ」(17.3%)、「新聞・雑誌」(16.7%)、「医療関係者(主治医など)」(15.0%)となりました。

・前回調査・前々回調査と比較すると、「福祉に関する広報紙・情報誌・チラシ」の回答が最も多く、他の項目を大きく上回る回答割合となった点においては同様の結果となりました。一方、「新聞・雑誌」の回答は減少傾向にあります(29.5%→21.0%→16.7%)。また、インターネットを通じた情報の入手(前回調査までは「インターネット」、今回調査では「パソコン・スマートフォン・タブレット」に変更)の回答は前回調査、前々回調査と比較して高い割合となりました(15.9%→12.7%→18.3%)。

### 13. 市や町の社会福祉協議会の認知度

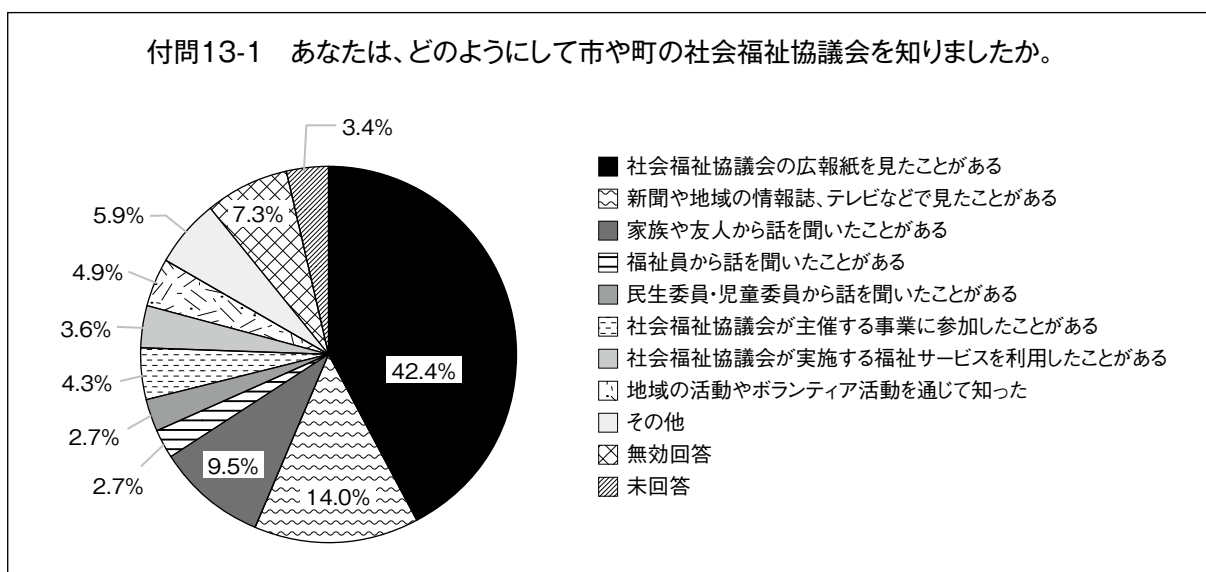


年齢3区分と市や町の社会福祉協議会を知っているかのクロス表

		市や町の社会福祉協議会を知っているか			合計	
		名前も活動内容もよく知っている	名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	名前も活動内容も知らない		
年齢3区分	青年層	度数	21	145	87	253
		年齢3区分の%	8.3%	57.3%	34.4%	100.0%
	壮年層	度数	153	522	115	790
		年齢3区分の%	19.4%	66.1%	14.6%	100.0%
	高齢層	度数	283	614	64	961
		年齢3区分の%	29.4%	63.9%	6.7%	100.0%
合計		度数	457	1281	266	2004
		年齢3区分の%	22.8%	63.9%	13.3%	100.0%

- ・市や町の社会福祉協議会の認知についての回答をみると、「名前も活動内容もよく知っている」が約2割（21.8%）にとどまり、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」が約6割（60.9%）、「名前も活動内容も知らない」が1割強（12.7%）となりました。
- ・前回調査、前々回調査と比較すると、「名前も活動内容もよく知っている」（21.1%→24.1%→21.8%）、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」（62.7%→60.4%→60.9%）、「名前も活動内容も知らない」（12.1%→10.9%→12.7%）となり、大きな変化はみられませんでした。
- ・年齢階層別にみると、「名前も活動内容もよく知っている」の回答割合は高齢層において高く（29.4%）、青年層において低くなっています（8.3%）。反対に、「名前も活動内容も知らない」の回答割合は青年層において高く（34.4%）、高齢層において低くなっています（6.7%）。

### 13-1. どのように市や町の社会福祉協議会を知ったか

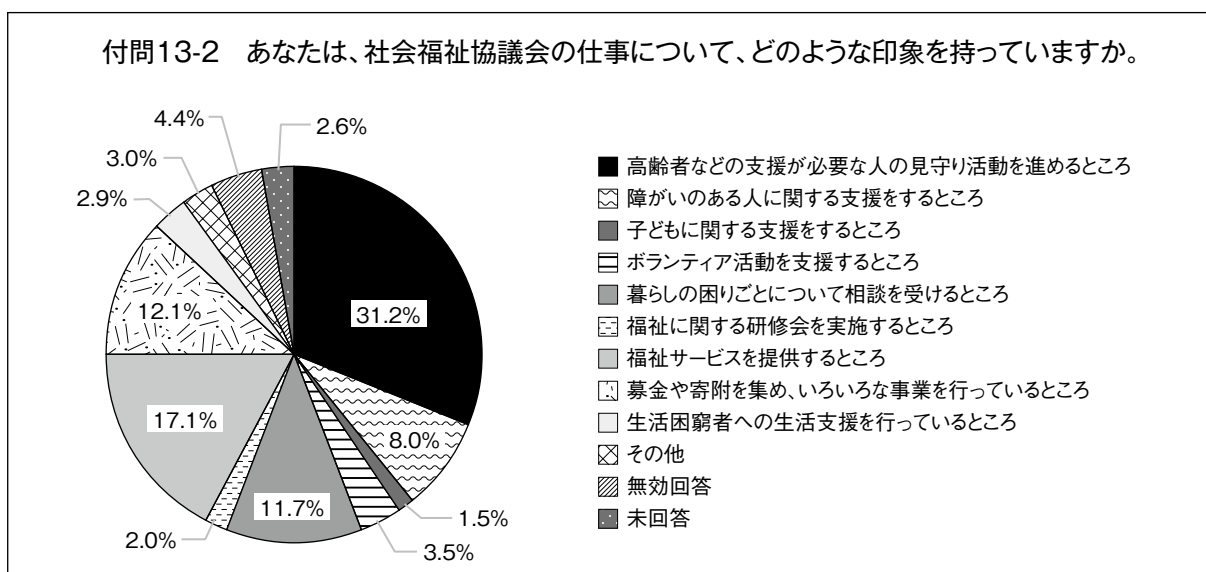


年齢3区分とどのようにして市や町の社会福祉協議会を知ったかのクロス表

		どのようにして市や町の社会福祉協議会を知ったか									
		社会福祉協議会の広報紙を見たことがある	新聞や地域の情報誌、テレビなどで見たことがある	家族や友人から話を聞いたことがある	福祉員から話を聞いたことがある	民生委員・児童委員から話を聞いたことがある	社会福祉協議会が主催する事業に参加したことがある	社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用したことがある	地域の活動やボランティア活動を通じて知った	その他	合計
年齢3区分	青年層	度数	50	39	30	4	2	4	6	5	18
	年齢3区分の%		31.6%	24.7%	19.0%	2.5%	1.3%	2.5%	3.8%	3.2%	11.4%
壮年層	度数	297	84	71	13	15	21	28	33	54	616
	年齢3区分の%		48.2%	13.6%	11.5%	2.1%	2.4%	3.4%	4.5%	5.4%	8.8%
高齢層	度数	388	122	66	30	31	48	29	34	30	778
	年齢3区分の%		49.9%	15.7%	8.5%	3.9%	4.0%	6.2%	3.7%	4.4%	3.9%
合計	度数	735	245	167	47	48	73	63	72	102	1552
	年齢3区分の%		47.4%	15.8%	10.8%	3.0%	3.1%	4.7%	4.1%	4.6%	6.6%

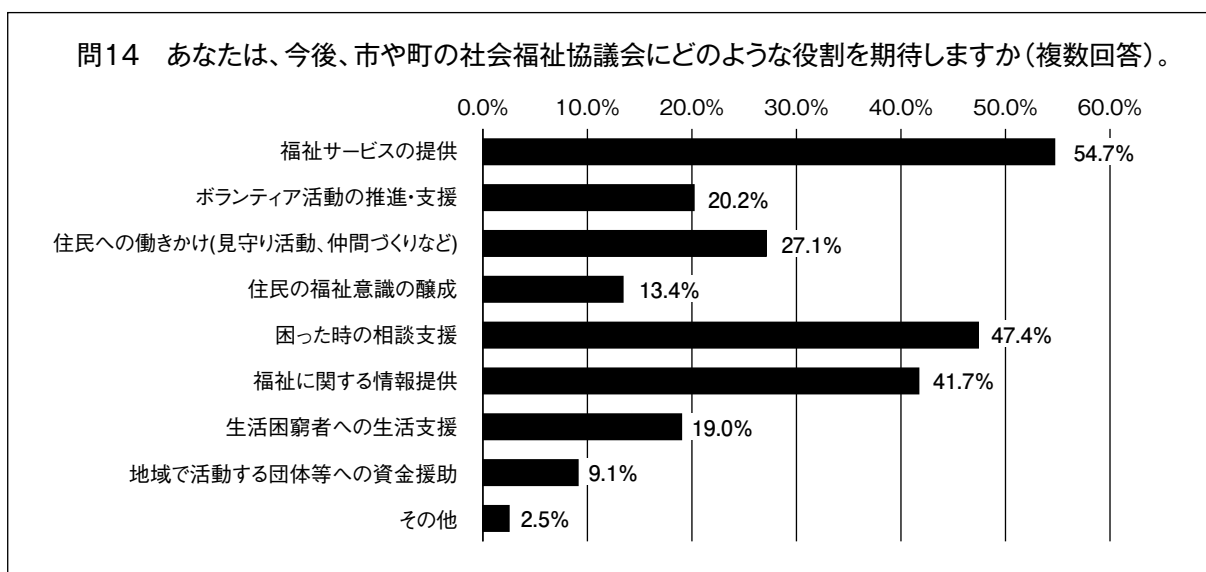
- ・市や町の社会福祉協議会について「名前も活動内容もよく知っている」、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」と回答した人に、どのようにして社会福祉協議会を知ったかをたずねました。回答をみると、「社会福祉協議会の広報紙を見たことがある」が約4割（42.4%）で最も多く、「新聞や地域の情報誌、テレビなどで見たことがある」が1割強（14.0%）となりました。
- ・年齢階層別にみると、「社会福祉協議会の広報紙を見た」は壮年層（48.2%）、高齢層（49.9%）において高く、青年層において低くなっています（31.6%）。一方で、「新聞や地域の情報誌、テレビなどで見たことがある」や「家族や友人から話を聞いたことがある」では、青年層で回答割合が高くなりました。

## 13-2. 社会福祉協議会の仕事への印象



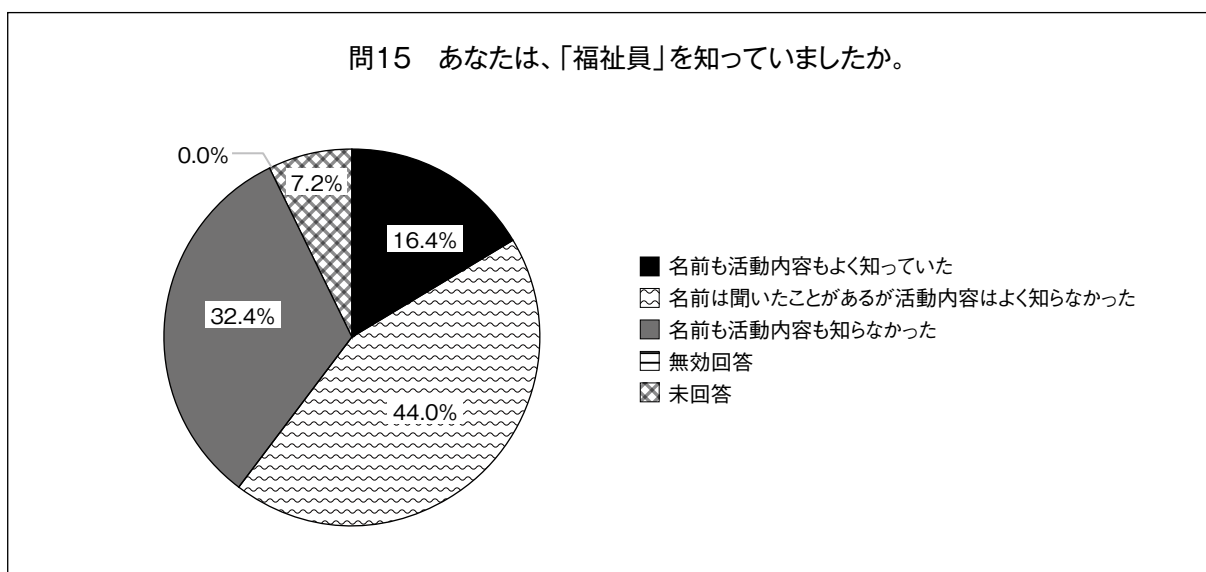
- ・市や町の社会福祉協議会について「名前も活動内容もよく知っている」、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」と回答した人に、社会福祉協議会の仕事への印象をたずねました。回答をみると、「高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところ」が約3割（31.2%）、以下回答の多い順に「福祉サービスを提供すところ」（17.1%）、「募金や寄附を集め、いろいろな事業を行っているところ」（12.1%）、「暮らしの困りごとについて相談を受てるところ」（11.7%）となりました。
- ・今回調査の選択肢にある「福祉サービスを提供すところ」は前回調査、前々回調査の「介護保険サービスを提供すところ」から変更されたものですが、2割弱（17.1%）の回答割合となりました（前々回調査：8.4%→前回調査：3.6%）。

#### 14. 市や町の社会福祉協議会に期待する役割



- ・ 今後、市や町の社会福祉協議会に期待する役割についての回答をみると、「福祉サービスの提供」が5割強 (54.7%)、「困ったときの相談支援」が5割弱 (47.4%)、「福祉に関する情報提供」が約4割 (41.7%) となりました。
- ・ 前回調査、前々回調査と比較すると、「福祉サービスの提供」、「困ったときの相談支援」、「福祉に関する情報提供」の3項目への回答割合が高い傾向に変化はありませんでした。

## 15. 「福祉員」の認知度

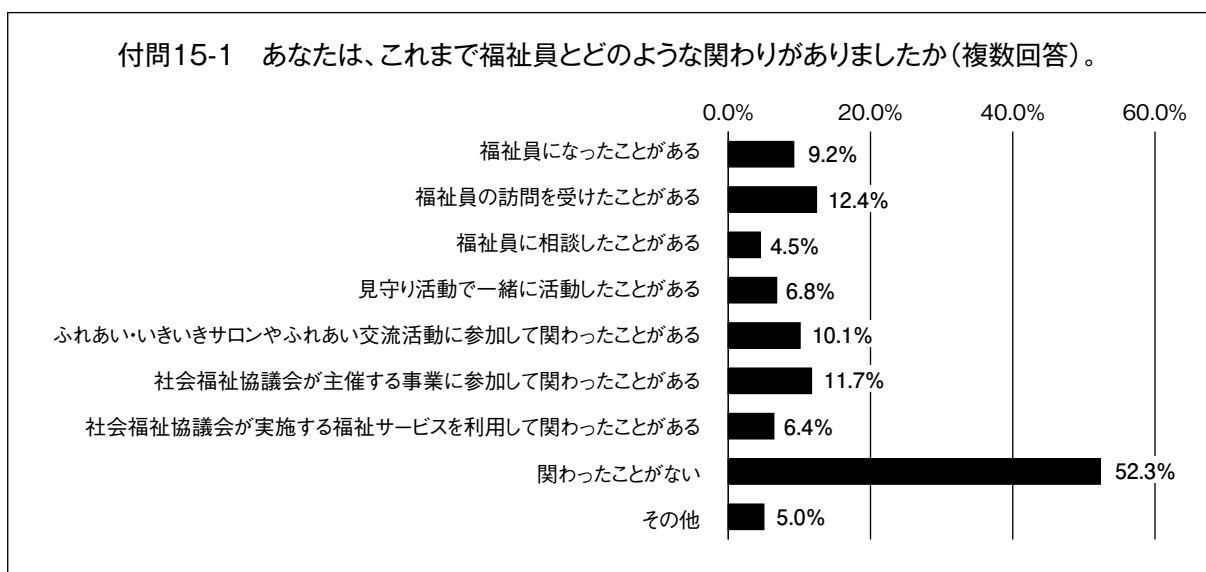


年齢3区分と福祉員を知っていたかのクロス表

		福祉員を知っていたか			合計
		名前も活動内容もよく知っていた	名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らなかった	名前も活動内容も知らなかった	
年齢3区分	青年層	度数	10	79	163
		年齢3区分の%	4.0%	31.3%	64.7%
	壮年層	度数	95	364	323
		年齢3区分の%	12.1%	46.5%	41.3%
	高齢層	度数	240	486	198
		年齢3区分の%	26.0%	52.6%	21.4%
合計		度数	345	929	684
		年齢3区分の%	17.6%	47.4%	34.9%

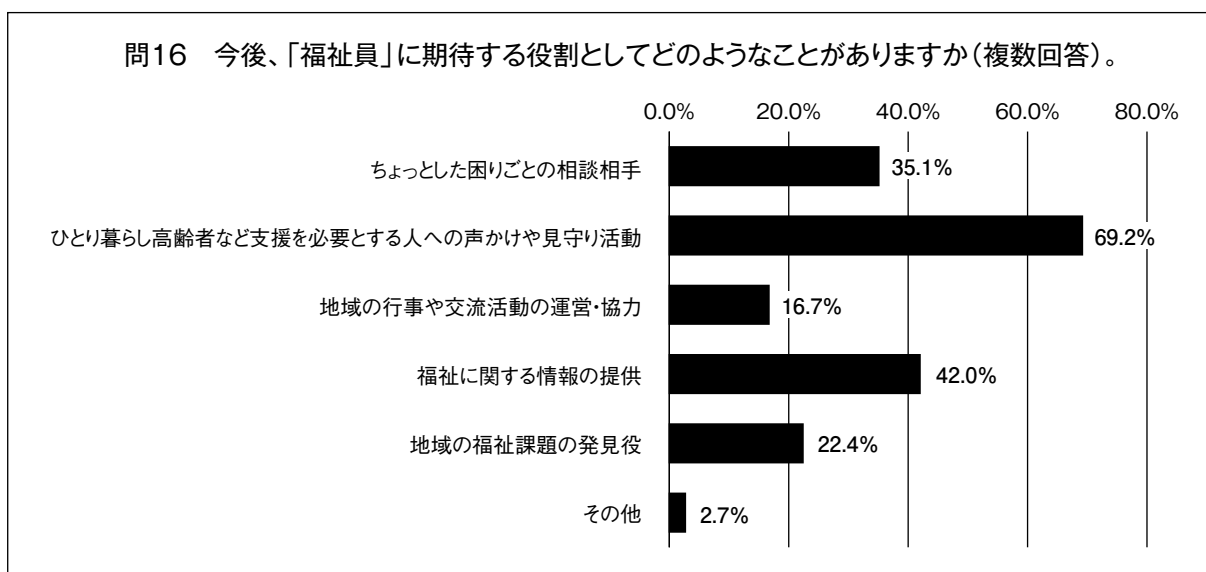
- ・「福祉員」の認知についての回答をみると、「名前も活動内容もよく知っていた」は2割弱（16.4%）にとどまり、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」が4割強（44.0%）、「名前も活動内容も知らない」が約3割（32.4%）となりました。
- ・前回調査、前々回調査と比較すると、「名前も活動内容もよく知っている」（14.8%→18.4%→16.4%）、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」（42.8%→42.8%→44.0%）、「名前も活動内容も知らない」（36.5%→34.4%→32.4%）となり、大きな変化はみられませんでした。
- ・年齢階層別にみると、「名前も活動内容もよく知っている」の回答割合は高齢層において高く（26.0%）、青年層において低くなっています（4.0%）。反対に、「名前も活動内容も知らない」の回答割合は青年層において高く（64.7%）、高齢層において低くなっています（21.4%）。

## 15-1. これまでの福祉員との関わり



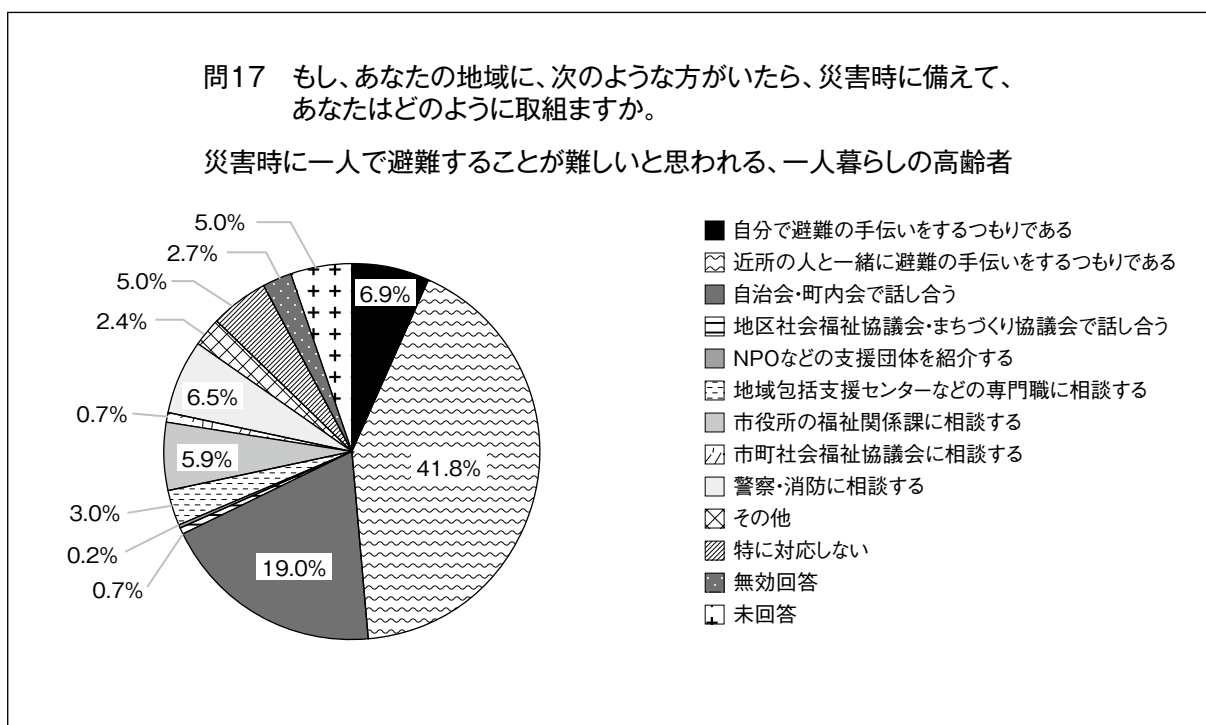
- ・福祉員について「名前も活動内容もよく知っている」、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」と回答した人に、これまでの福祉員との関わりについてたずねました。回答をみると、実際には「関わったことがない」は約半数（52.3%）となりました。
- ・前々回調査、前回調査と比較すると、「福祉員の訪問を受けたことがある」の回答が低下しています（20.2%→17.5%→12.4%）。

## 16. 今後「福祉員」に期待する役割



- ・ 今後、福祉員に期待する役割についての回答をみると、で「ひとり暮らし高齢者など支援を必要とする人への声かけや見守り活動」が約7割（69.2%）、「福祉に関する情報の提供」が約4割（42.0%）、「ちょっとした困りごとの相談相手」が3割強（35.1%）となりました。
- ・ 「地域の福祉課題の発見役」は今回調査から加わった設問ですが、約2割（22.4%）となりました。その他の設問については、前々回調査、前回調査と比較して大きな変化はありませんでした。

## 17. 災害時に一人で避難することが難しいと思われる、一人暮らし高齢者への取組み



### 地域福祉活動の経験の有無と災害時に一人で避難することが難しいと思われる一人暮らし高齢者がいたら、災害時に備えてどのように取り組むかのクロス表

災害時に一人で避難することが難しいと思われる一人暮らし高齢者がいたら、災害時に備えてどのように取り組むか

		自ら取り組む	話し合う	専門機関につなぐ	その他	特に対応しない	合計
地域福祉活動の経験	ある	309	165	89	13	9	585
	地域福祉活動の経験の%	52.8%	28.2%	15.2%	2.2%	1.5%	100.0%
地域福祉活動の経験	ない	719	248	250	37	95	1349
	地域福祉活動の経験の%	53.3%	18.4%	18.5%	2.7%	7.0%	100.0%
合計	度数	1028	413	339	50	104	1934
	地域福祉活動の経験の%	53.2%	21.4%	17.5%	2.6%	5.4%	100.0%

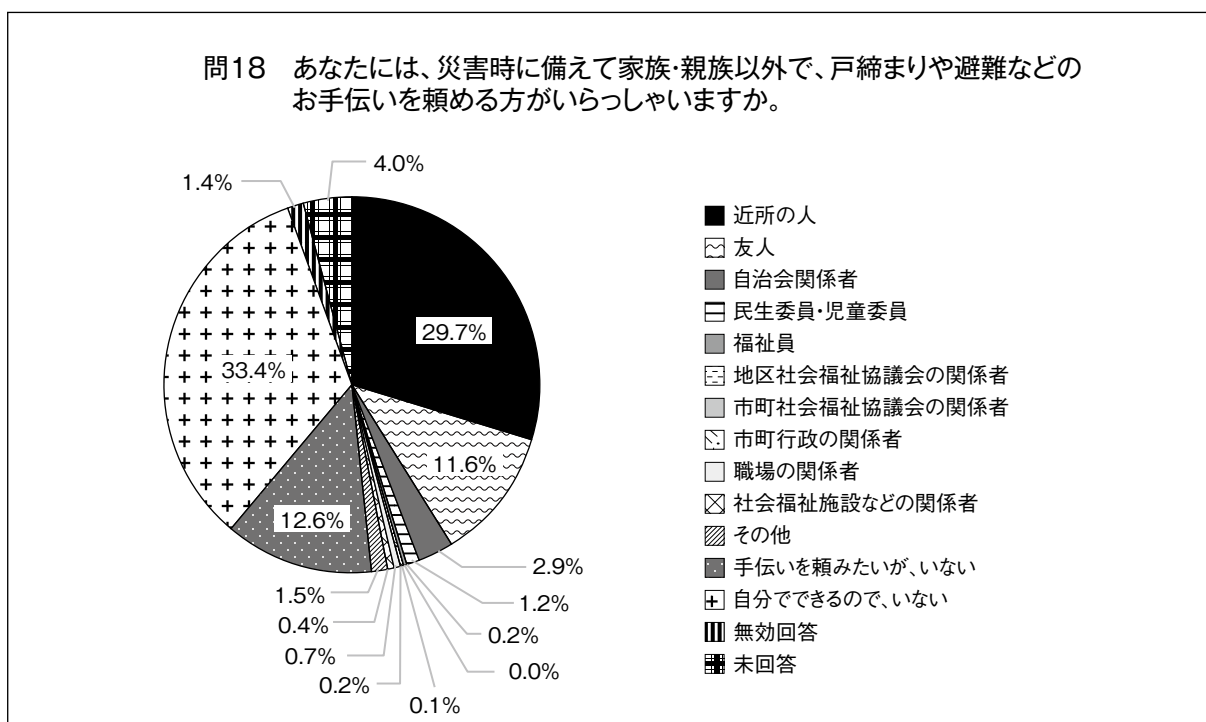
・地域に「災害時に一人で避難することが難しいと思われる、一人暮らし高齢者」がいる場合、どのように取り組むかをたずねました。回答をみると、「近所の人と一緒に避難の手伝いをするつもりである」が約4割（41.8%）、「自治会・町内会で話し合う」が約2割（19.0%）になりました。「特に対応しない」の回答は5.0%となりました。

・選択肢について合併し、地域福祉活動の経験の有無別に回答を分析しました。選択肢の合併は、「自分で避難の手伝いをするつもりである」と「近所の人と一緒に避難の手伝いをするつもりである」の回答を合併し〈自ら取り組む〉、「自治会・町内会で話し合う」と「地区社会福祉協議会・まちづくり協議会で話し合う」の回答を合併し〈話し合う〉、「NPOなどの支援団体を紹介する」、「地域包括支援センターなどの専門職に相談する」、「市役所の

福祉関係課に相談する」、「市町社会福祉協議会に相談する」、「警察・消防に相談する」の回答を合併し〈専門機関につなぐ〉とすることによって行いました。

- ・結果をみると、〈話し合う〉の回答割合が、地域福祉活動の経験がある層で高く（28.2%）、経験のない層で低くなりました（18.4%）。また、「特に対応しない」の回答割合は、地域福祉活動の経験がある人で低く（1.5%）、経験のない人で高くなりました（7.0%）。

## 18. 災害時に備えて家族・親族以外で戸締まりや避難の手伝いを頼める人



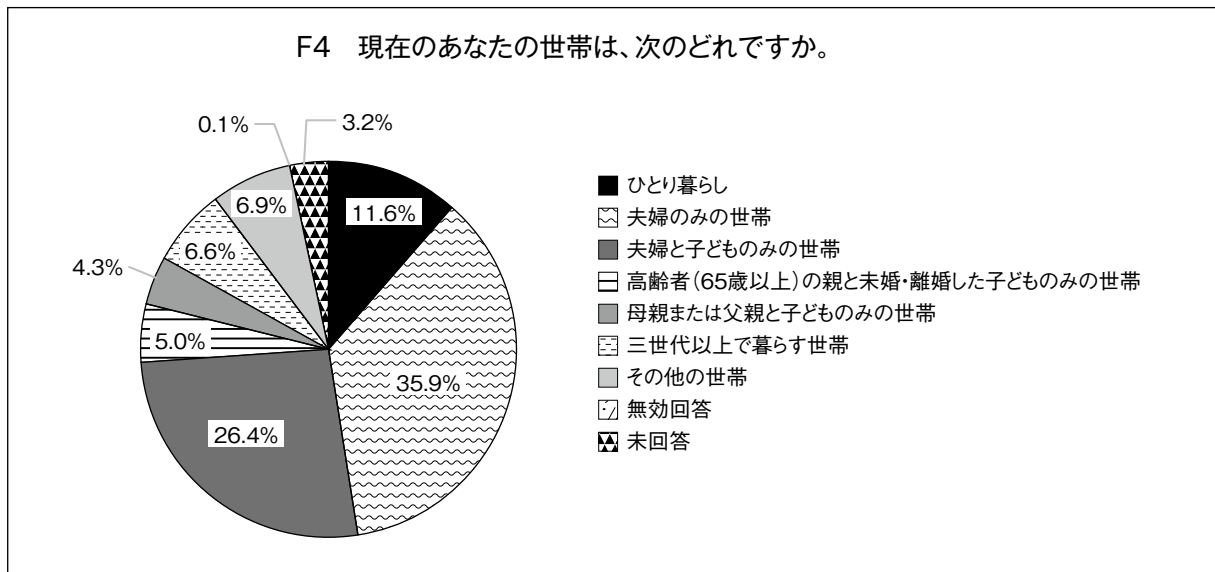
- ・ 家族・親族以外で災害時に備えて戸締まりや避難の手伝いを頼める人についての回答をみると、「近所の人」が約3割（29.7%）、「友人」が約1割（11.6%）となりました。一方で、「自分でできるので、いない」という人は3割強（33.4%）いました。
- ・ 手伝いを必要とする人の中で誰かに頼むことができる人は約8割（79.4%）、「手伝いを頼みたいが、いない」の回答は手伝いを必要とする人の中で約2割（20.6%）となりました。

【属性】

F 3 あなたが現在お住まいの地域はどこですか

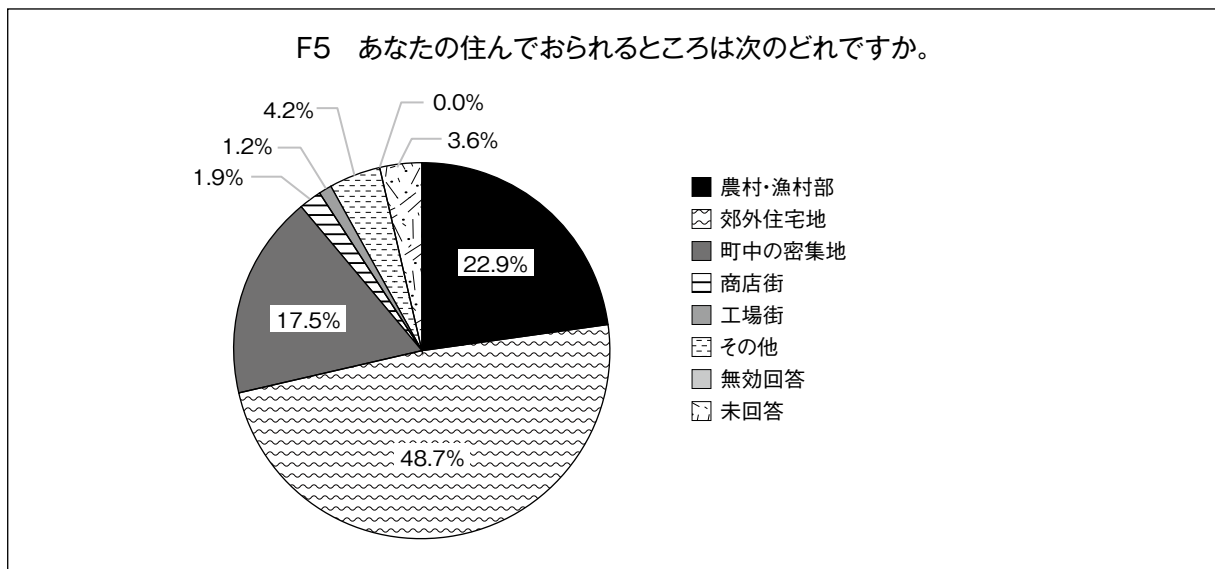
市町	度数	比率
下関市	375	17.4%
宇部市	243	11.3%
山口市	302	14.0%
萩市	74	3.4%
防府市	158	7.3%
下松市	92	4.3%
岩国市	186	8.6%
光市	93	4.3%
長門市	49	2.3%
柳井市	45	2.1%
美祢市	44	2.0%
周南市	243	11.3%
山陽小野田市	91	4.2%
周防大島町	35	1.6%
和木町	6	0.3%
上関町	4	0.2%
田布施町	32	1.5%
平生町	16	0.7%
阿武町	5	0.2%
無効回答	0	0.0%
未回答	63	2.9%
合計	2156	

F 4 現在のあなたの世帯は、次のどれですか。



・世帯構成は、「夫婦のみの世帯」(35.9%)が最も多く、次いで「夫婦と子どものみの世帯」(26.4%)、「ひとり暮らし」(11.6%)となりました。

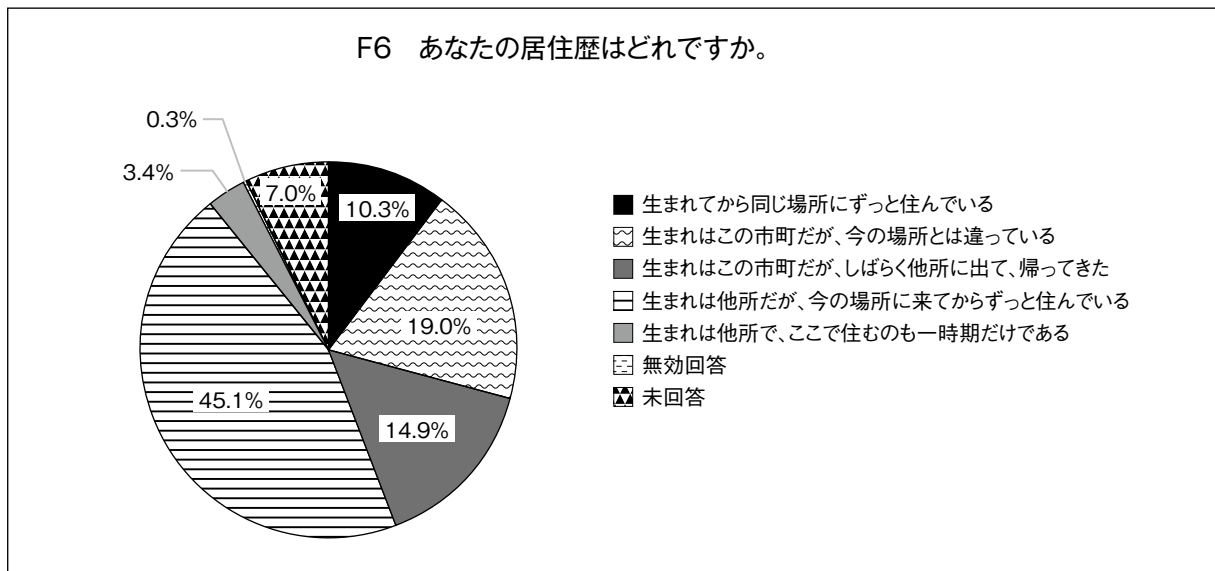
F 5 あなたの住んでおられるところは次のどれですか。



・現在の居住地は、「郊外住宅地」(48.7%)が最も多く、次いで「農村・漁村部」(22.9%)、「町中の密集地」(17.5%)などとなりました。

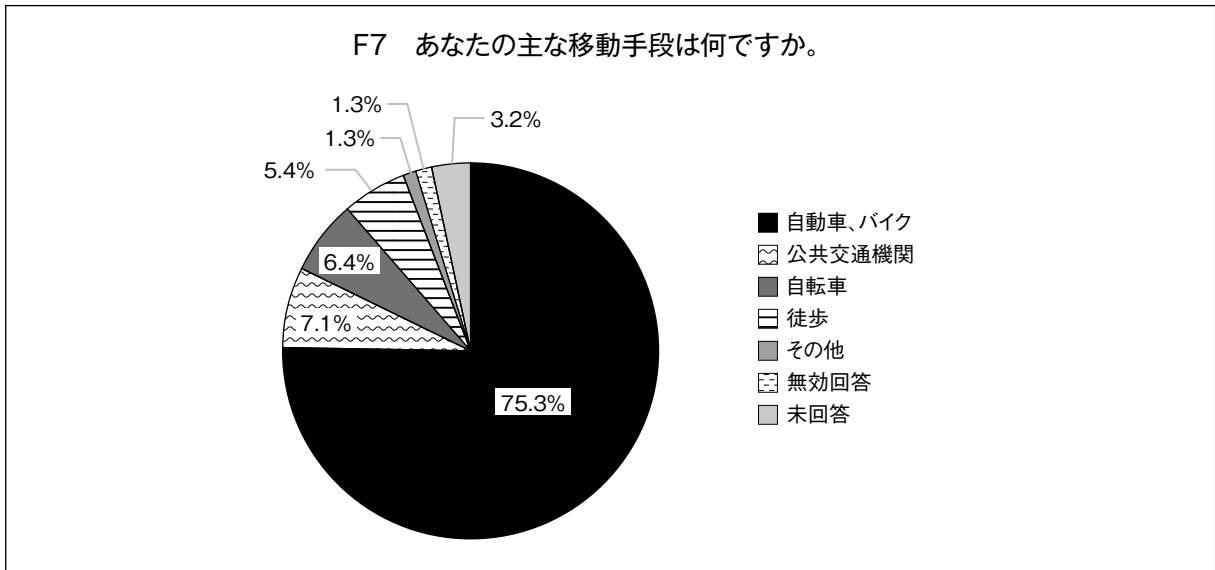
F 6 あなたの居住歴はどれですか。

居住年数	度数	比率
10年未満	352	16.3%
10～19年	334	15.5%
20～29年	279	12.9%
30～39年	306	14.2%
40～49年	295	13.7%
50～59年	143	6.6%
60年以上	201	9.3%
未回答	246	11.4%
合計	2156	



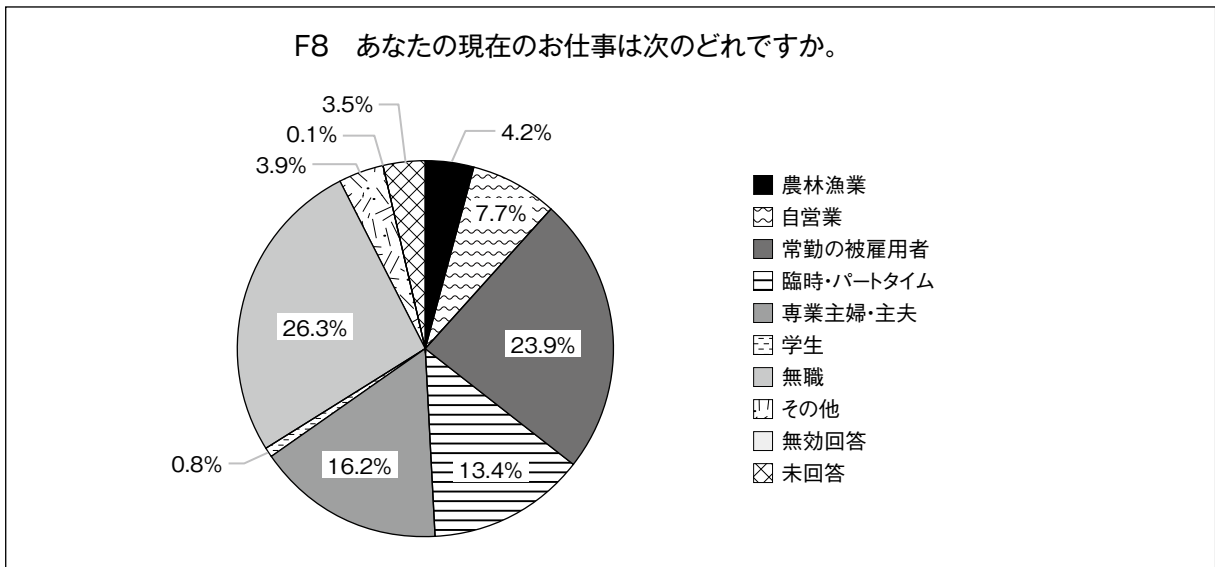
・居住歴は、「生まれは他所だが、今の場所に来てからずっと住んでいる」(45.1%) が最も多くなりました。

F 7 あなたの主な移動手段は何ですか。



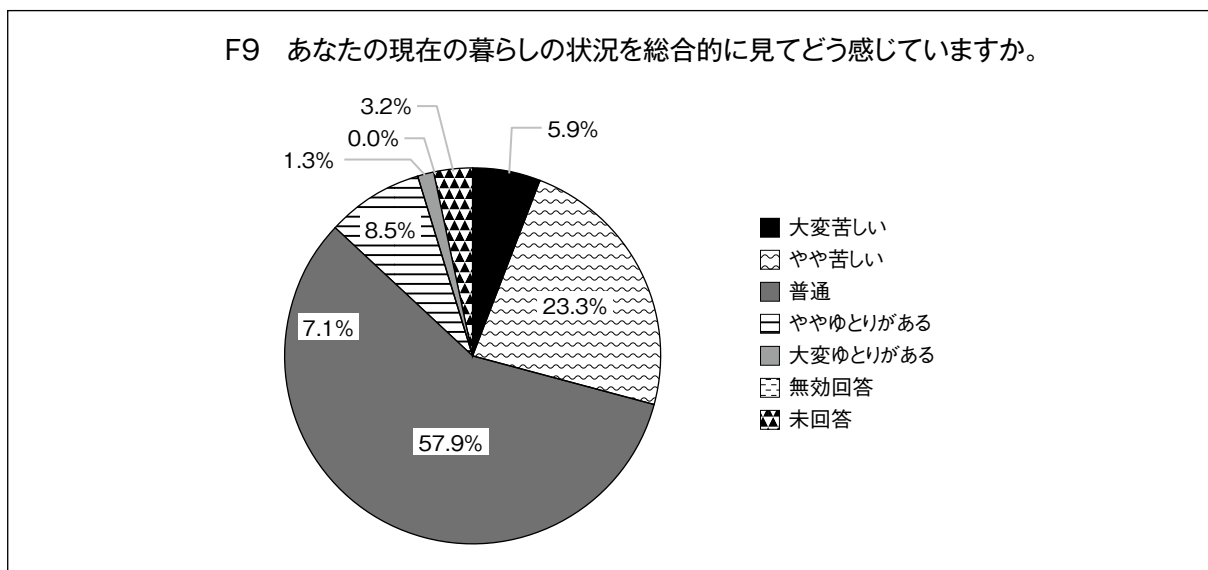
・主な移動手段は「自動車、バイク」(75.3%)が最も多く、次いで「公共交通機関」(7.1%)、「自転車」(6.4%)などとなりました。

F 8 あなたの現在のお仕事は次のどれですか。



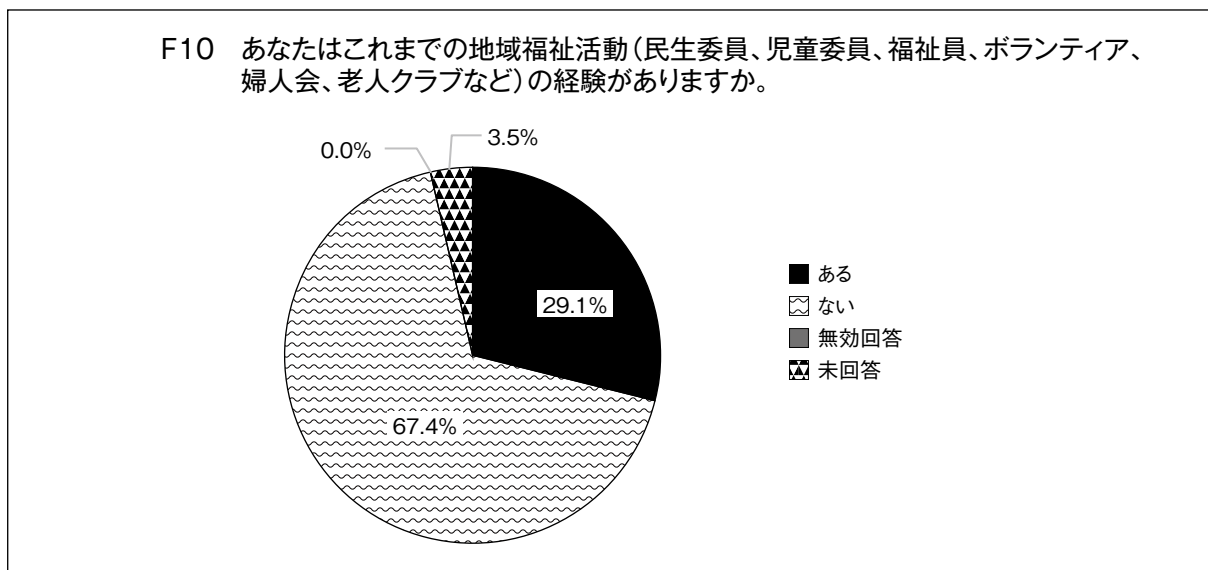
・現在の職業は、「無職」(26.3%)が最も多く、次いで「常勤の被雇用者(民間企業のサラリーマンや公務員など)」(23.9%)、「専業主婦・主夫」(16.2%)、「臨時・パートタイム」(13.4%)などとなりました。

F 9 あなたの現在の暮らしの状況を総合的に見てどう感じていますか。



・現在の暮らしの状況、「普通」(57.9%)が最も多く、次いで「やや苦しい」(23.3%)となりました。

F10 あなたはこれまでの地域福祉活動(民生委員、児童委員、福祉員、ボランティア、婦人会、老人クラブなど)の経験がありますか。



・地域活動の経験は、「ない」(67.4%)、「ある」(29.1%)で活動経験のない人の割合が高くなりました。

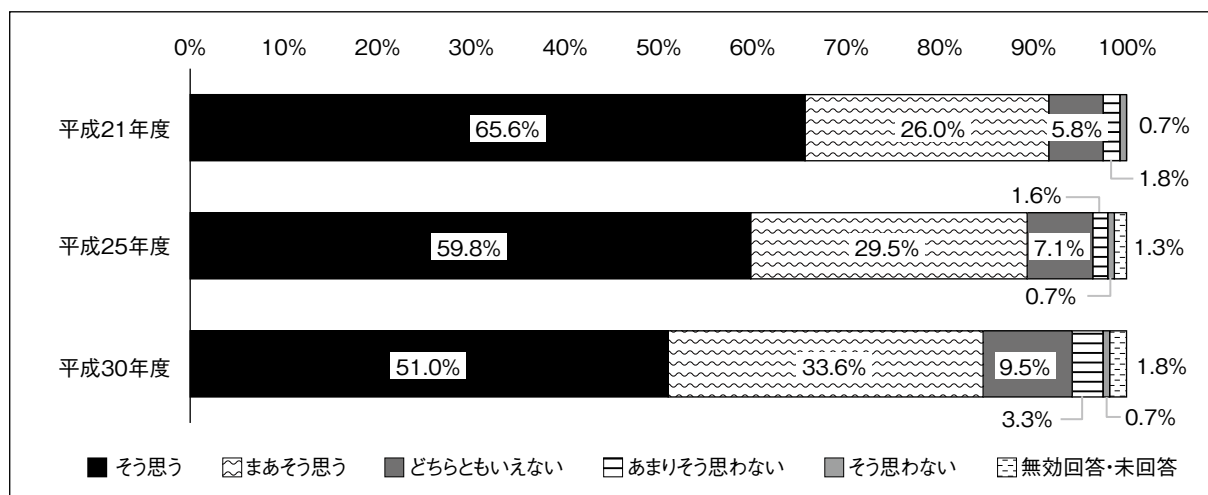
### 第3章 考察と課題

#### 【近所づきあいの必要性・程度の意識について】

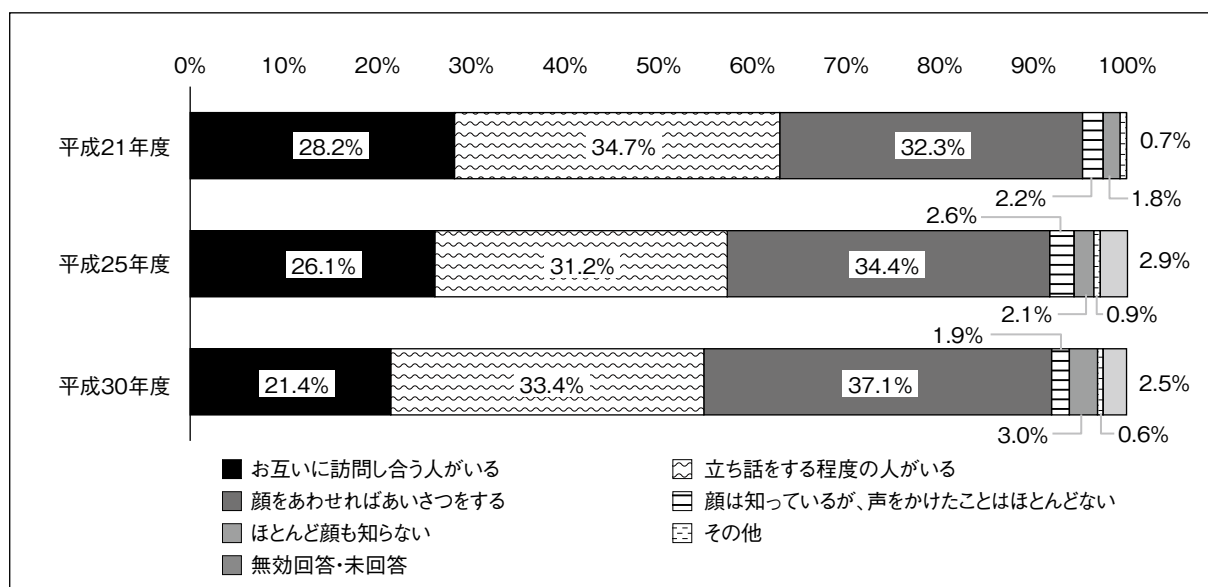
地域で安心・安全に暮らし続けるために、近所づきあいの必要性を感じている人（＝「そう思う」「まあそう思う」と回答した人）は8割（84.6%）を超えている（問2）が、前々回調査（91.6%）及び前回調査（89.3%）からは、やや低下している。

また、あいさつをする以外に積極的な関わり（互いに訪問し合う、立ち話をする）を持っている人は5割強（54.8%）（問1）で、前々回調査（62.9%）及び前回調査（57.3%）と比較して低下している。このように、県内における近所づきあいの必要性や程度は比較的高く意識されているように思われる一方で、前々回調査、前回調査と比較して近所づきあいの必要性や程度を強く肯定している割合は減少している。今後の動向を注視していく必要がある。

#### 近所づきあいの必要性



## 近所づきあいの程度



### 【生活上の困りごとの家族以外の相談先について】

生活上の困りごとの家族以外の相談先については、友人（31.4%）や近所の人（15.0%）（自治会長（4.8%）や民生委員・児童委員（3.3%）、福祉員（1.7%）を含む）等の割合が高く、困りごとがあったときにすぐに行政（5.7%）や社協（3.3%）へ相談するというよりは、友人や近所の人等が支えていることをうかがわせる結果となった（問4）。このことからある程度地域での支え合いの力があり、またその力が活かされていると考えられる。

しかし一方で「誰にも相談したことがない」と回答した人が2割弱（17.6%）おり（問4）、その理由として最も多かったのは、「家族や親族への相談で解決できるから」（44.5%）であったが、「どこに相談すればよいかわからないから」（7.4%）、「相談しても良い内容かどうかわからないから」（7.9%）という理由も、わずかではあるが挙げられている（付問4-1）。このように回答した人は、相談できる人が誰もいない状況におかれている、または今後おかれる可能性があることが推測される。誰にも相談できない状況に陥らせない、また、孤立しない地域をどのようにつくっていくべきなのかを考えるとともに、周囲に頼ることができない人、助けを求められない人への対応についても具体的に考える必要がある。

### 【地域活動への参加を増やす働きかけについて】

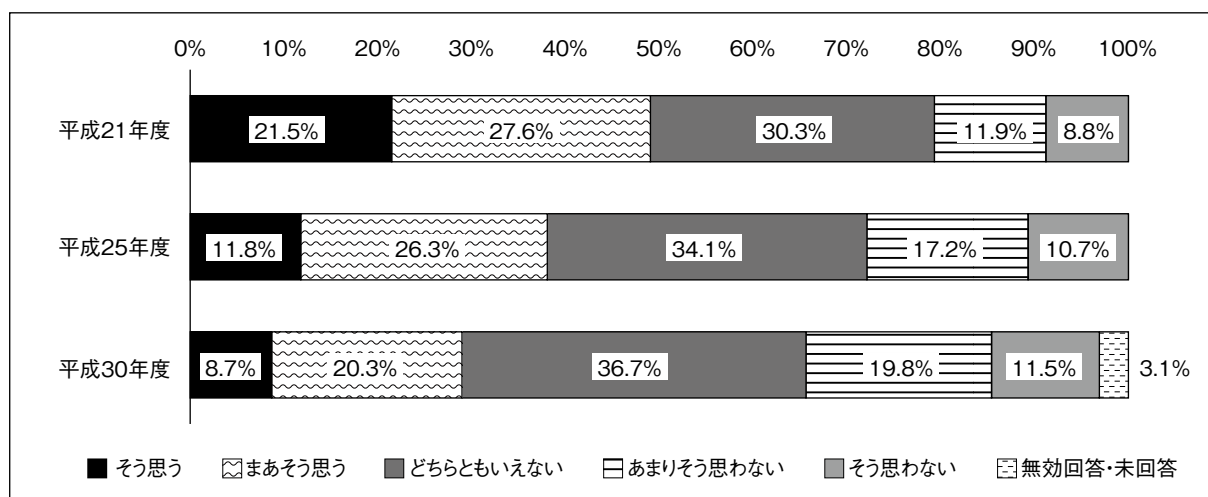
現在、地域で活動をしていない理由として、最も多くの支持を集めたのは「時間がないから」（25.3%）であったが、「きっかけがないから」という理由も1割強（12.1%）認められた（付問5-4）。周囲からの声かけを基本として、参加のきっかけをどうつくっていくかが課題である。

現在、地域で活動をしていない人の今後の地域での活動への参加については「どちらともいえない (36.7%)」と判断を保留する人の割合が4割弱となっている (付問5-5)。この背景には定年延長や廃止、再雇用 (継続雇用) 等による高齢者の就業者数の増加、また単身世帯や共働き世帯の増加が、地域活動への参加や継続を難しくしていることも考えられる。また、「空いた時間の中であれば」「決められた活動時間内であれば」といったように、プライベートな時間も大切にする、活動時間内で無駄なく活動できることを重要視する等、時間の使い方や地域活動の実施の仕方に対する意識等の変化が影響しているのではないかと考えられる。

しかし、例えば時間がないと思う人には短時間や単発の活動を依頼したり、健康や体力に自信がないと思う人には事務や調整等の作業を依頼したりといった工夫をすることで活動への参加につながる可能性がある。

地域の活動に参加しようと思っている人だけでなく、「どちらともいえない」と回答した人をどう地域の活動へ取り込んでいくかも課題である。

### 今後の地域活動への参加



### 【年齢層による意識の相違について】

地域で支え合うための条件として、各年齢層ともに仲間・つながりの存在が最も強く支持されているのは共通している。しかしその次に必要な条件として、高齢層は活動を進めるためのリーダーが必要と考え、青年層では活動を進める組織が必要と考えている (問7)。

また「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域 (まち) づくり」の姿として、高齢層では近隣での日常的な助け合いが地域に作られることを期待する人の割合が他の年齢層より高くなっている。一方で、青年層では次世代を育む環境整備が支持されている (問9)。

こうした年齢層ごとの状況をふまえて、様々な地域活動を行うにあたり、世代間の合意を図っていくための仕組みづくり (座談会等の開催等) を考える必要がある。

地域で支え合うための条件

順位	青年層	壮年層	高齢層
1位	仲間・つながり	仲間・つながり	仲間・つながり
2位	組織	組織	リーダー
3位	情報共有	リーダー	組織

「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）づくり」の姿

順位	青年層	壮年層	高齢層
1位	次世代を育む環境が充実している地域	暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域	ご近所同士で日頃から助け合うことができる地域
2位	暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域	福祉サービスの充実している地域	福祉サービスの充実している地域
3位	防災・安全対策が充実している地域	防災・安全対策が充実している地域	暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域

【福祉に関する情報発信について】

パソコンやスマートフォン、タブレット等で情報を得る人が増えてはいるが、福祉に関する情報は広報紙や情報誌、チラシといった紙媒体で情報を得る人が多い（付問12-1）。

また社協についての情報も広報紙から得る人が多いが、一方で新聞や雑誌から情報を得る人は減少傾向にある（付問13-1）。

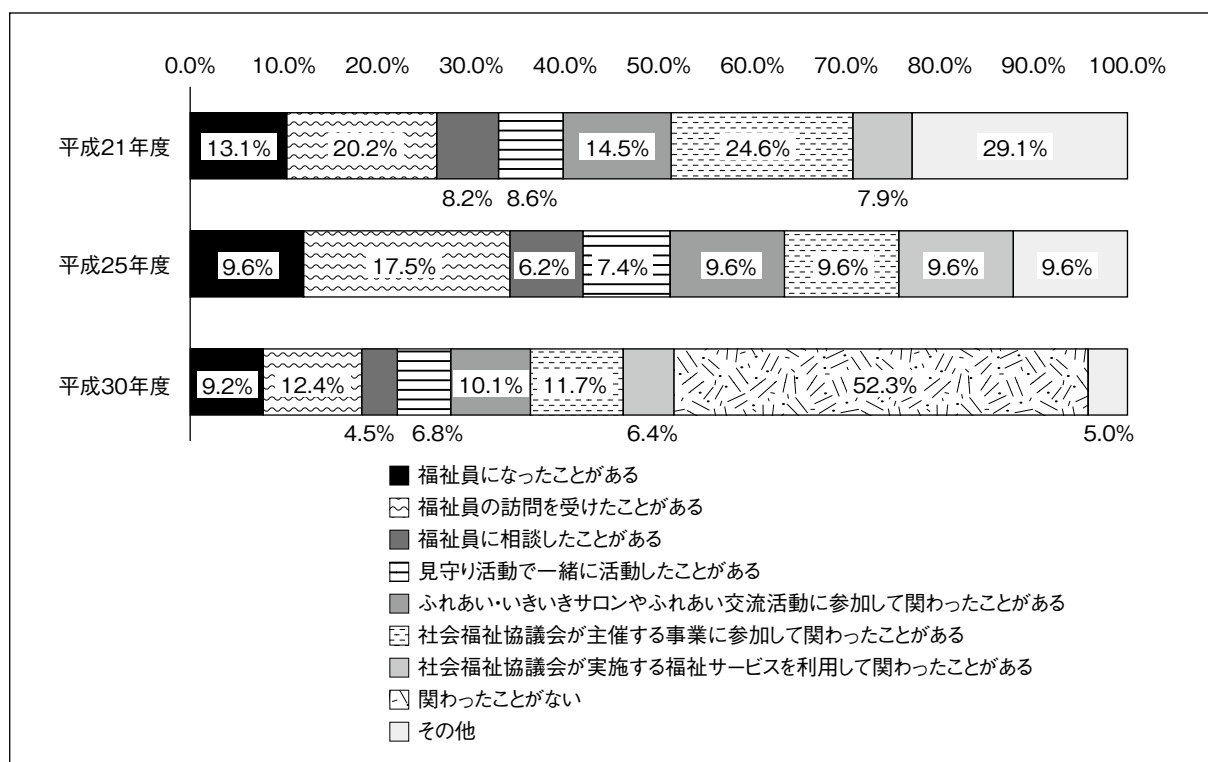
こうしたことから、情報を「誰に、何のために届けたいのか」という対象者及び目的を明確にし、それに合わせて広報媒体を選択する必要がある。

【福祉員の認知度について】

福祉員の認知度はこれまでの調査と比較して大きな変化はなく、依然として名前と活動内容を知らない人が多い状況である（問15）。また、福祉員を「知っている」または「名前を聞いたことがある」と回答した人のうち、約半数が実際には「関わったことがない」と回答し、「福祉員の訪問を受けたことがある（12.4%）」と回答した人も前々回調査（20.2%）及び前回調査（17.5%）から減少傾向にある（付問15-1）。

こうした背景には、福祉員が地域によっては自治会長や町内会長が福祉員を兼ねて活動をしていること、見守り活動を地域の状況に合わせた形（例えば、サロンでの見守りや、買物や散歩など普段の生活の中での声かけ・見守り等）で行っていることなどが考えられる。相談窓口の1つとしての福祉員の存在の周知は必要であり、福祉員には地域における声かけや見守り活動が最も期待されている（問16）が、地域の状況に合わせた活動の仕方を大事にし、またその活動の仕方も考えていく必要がある。

## 福祉員との関わり



### 【日頃の地域福祉活動を活かした災害時の取組について】

災害時に一人で避難することが難しいと思われる、一人暮らし高齢者への取組について、「自分で避難の手伝いをするつもりである」(6.9%)、「近所の人と一緒に避難の手伝いをするつもりである」(41.8%)という『自ら取り組む』という回答が併せて5割弱の割合であった(問17)。また「自治会・町内会で話し合う」(19.0%)、「地区社協・まちづくり協議会で話し合う」(0.7%)といった『地域で話し合う』という回答も含めると、7割弱の人が災害時には地域で協力して、地域全体の避難に取組もうとしていると考えられる。

また過去の災害事例をみても、初動の避難でご近所での助け合いが重要と言われていることから、こうした日頃の声かけや見守り、話し合いなどの地域福祉活動を活かした災害時に備えた取組が必要である。

## 第4章 県民福祉意識の現状について

### 1 調査結果のまとめ

九州大学大学院人間環境学研究院 教授 高野和良

「福祉に関する県民意識調査」（以下、県民福祉意識調査と省略）は、山口県社会福祉協議会によって2009年度から5年ごとに実施されてきました。第2回の2013年度に引き続き、第3回目（今回）の調査も、これまでの調査項目の継続調査を基本としつつ、「県民意識等に関する調査研究委員会」における検討を通じて、調査実施時点での社会状況を踏まえ、設問の見直しや追加を行いました。今回調査では、県内でも頻発する自然災害への対応に関する設問を追加しています。

県民福祉意識調査は、地域福祉活動への期待が高まる中で、山口県民の福祉意識や地域福祉活動の実態を継続して捉えることによって、今後の地域福祉活動の活動方針策定の貴重な基礎資料となっています。「第3章 考察と課題」において、今回調査で明らかとなった課題がすでに指摘されていることを踏まえ、ここでは、過去2回の調査結果と比較しながら、今回調査結果から得られた特徴的な知見を整理することとします。

#### ・近隣関係に対する意識の変化

さて、普段からの近隣関係があつてはじめて、地域福祉活動が円滑に展開されることは経験的に知られています。そこで、近所づきあいの状況を今回の調査結果からみると（問1）、普段から互いに訪ね合うという比較的深い関係（「お互いに訪問し合う人がいる」）は約2割（21.4%）、会えば会話する程度の関係（「立ち話をする程度の人がある」）が3割強（33.4%）となり、両方で全体の半数を超える結果となりました。また、面識が多少ある程度（「顔をあわせればあいさつする」）までを加えると、全体の9割（91.9%）を超えています。第1回調査（2009年）、第2回調査（2013年）と比較すると、比較的深い関係を持つ人の割合が低くなる一方で（第1回調査28.2% → 第2回調査26.1% → 今回調査21.4%、以下同様の順に記述）、会話する程度の関係を持つ人の割合が、やや高くなる傾向が認められました（32.3% → 34.4% → 37.1%）。また、年齢階層別にみると高齢層と比較して、青壮年層では近所づきあいがやや少ないことも分かりました。

8割を超える人々は、こうした近所づきあいが必要とはしていますが（問2）、過去調査と比較するとやや気になる傾向が認められます。必要性をより強く感じている人（「そう思う」）の割合が減少し（65.6% → 59.8% → 51.0%）、より緩やかに必要性を感じている人（「まあそう思う」）の割合が増加しつつあります（26.0% → 29.5% → 33.6%）。この傾向は、年齢階層に関わらず共通して認められました。近所づきあいの必要性の理由としては（問3）、困ったときに助け合える関係が必要であること、地域で安心して暮らすために必要であることなどが支持され、必要性を感じている人にとって、近所づきあいを維持し、活発にするためには、自ら進んで自発的に関係を保つこと、自治会・町内会の交流行事等に参加すること、近所づきあいに関して相談できる人間関係をつくることなどは、いずれも過半数

を大きく上回る支持を集めました（付問2-2）。

第3章でも指摘されていますが、全体としてみれば、近隣関係は維持されていますが、適度な距離を置いた近所づきあいが支持される方向への変化が、今後も拡大していくのかどうかは注視する必要があると思われます。

### ・地域活動参加と「きっかけ」

また、地域福祉活動との関係を把握する際には、近所づきあいとともに、地域での様々な活動の状況も確認しておく必要があります。今回調査では、現在活動している人の割合は3割程度で、経験者を含めて6割程度となり、過去調査と大きな変化はありませんでした（問5）。活動参加のきっかけは、地域や社会への貢献意欲がもっとも大きな支持を集め（23.6%）、次いで、身近な人に誘われて参加した人（21.3%）も少なくありません（付問5-2）。こうした傾向は前回調査でも確認されていましたが、地域貢献意欲があるにもかかわらず、活動参加に結びついていない人には、何らかの働きかけ（きっかけ）によって具体的な行動につながる必要があると思われます。そこで、今回調査では地域活動に参加しない理由に「きっかけがないから」という選択肢を追加して、この点を再確認することとしました（付問5-4）。その結果、時間的な余裕がないこと（25.3%）、健康や体力面での不安があること（16.3%）に続いて、きっかけがないから（12.1%）が支持を集めました。年齢階層別にみると、青年層では他の年齢層と比較して、きっかけがないことを理由とする人の割合が高くなっています。

	時間がないから	健康や体力面で 自信がないから	きっかけがないから
青年層（n=154）	35.7%	1.3%	22.1%
壮年層（n=456）	45.0%	6.4%	14.0%
高齢層（n=516）	14.1%	36.0%	12.2%

過去調査でも青壮年層では時間的な余裕の不足、高齢層では健康や体力不安が主な理由とされてきましたが、青年層の活動のきっかけをどのように提供していくのかについて検討が求められます。なお、時間的な余裕の不足や健康や体力面での不安層、また、判断保留層への対応としては、第3章で指摘されているように、多様な活動のあり方を提示するといった受け入れ側の対応も検討していく必要があると思われます。

さらに、現在、地域での活動に参加していない人に対して、今後の参加意欲を確認したところ（付問5-5）、過去調査と比較して、肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）の割合が、やや低くなりました（35.7% → 38.1% → 29.0%）。一方で、否定層（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計）も3割（31.3%）に達し、判断を保留する人も少なくありませんでした（36.7%）。過去調査と比較すると、肯定層の割合はやや低下しており、先に指摘した近所づきあいに関する変化と同様に、活動にやや距離をおく意識の状況は、今後も継続して確認すべきです。

## ・地域福祉活動と圏域設定

地域福祉活動計画、地域福祉計画などの策定が進むなか、地域福祉活動を行う際の活動単位として圏域設定が社会福祉協議会や行政によって進められてきました。一般的には、地域住民の地域福祉活動はより狭い（身近な）範囲で行うことが望ましいとされる一方で、様々な福祉サービス提供の拠点整備は、効率性の観点からも、より広域で設定されてきました。しかし、そもそも地域住民が、地域福祉活動を行う地域の範囲をどのように捉えているのかは十分に把握されてはいないようです。県民福祉意識調査では継続して、「地域の支え合い活動を進めることを考えたときに、最初に思い浮かべる地域の範囲」を確認していますが（問6）、今回調査では「自治会・町内会」（56.9%）、「現在の市、町」（16.1%）、「班・組など」（8.6%）、「小学校区」（8.2%）の順となりました。地域の支え合い活動（地域福祉活動）は、確かにより狭い範囲での実施が支持されています。しかし、年齢階層別にみると、各年齢層で「自治会・町内会」の範囲が半数を超えていることは共通していますが、青年層では、小学校区の範囲も他の年齢層と比較して支持を集めています。子供を育てている世代と重なる青年層では、小学校を介した地域での関係性の広がりや存在感が示されていると考えられます。先に地域活動へ参加していない青年層では、きっかけがないという理由が多く認められたことから、きっかけのひとつとして学校という場から地域活動へつなぐことも考えられて良いのではないのでしょうか。

福祉サービス提供の効率性も考慮した社会福祉協議会や行政が設定した地域福祉活動圏域と、地域住民が支持している地域範囲との関係は、十分に検討されているとはいえませんが、地域住民による地域福祉活動への参加促進や活動の継続性にとって、両者の関係をどのように設定していくことが効果的であるのかは、今後の検討が必要と思われます。

## 2 災害時の備えについて

九州大学大学院人間環境学府 博士後期課程 井上智史

### 1 はじめに

近年、日本では大規模な地震や豪雨災害などの災害が頻発しています。高齢者や障がい者、子ども、外国人などの人々は、自力での避難が難しい災害弱者と呼ばれており、これらの人々に対して、災害時にどのような支援を行うかが地域社会における課題となっています。

そのような背景のもと、今回の県民意識調査では、災害時の備えについての質問が設けられています。質問は2つの項目からなっており、1つ目は地域に「災害時に一人で避難することが難しいと思われる、一人暮らしの高齢者」がいる場合に、災害時に備えてどのように取り組むかという質問です。この質問は地域に自力避難が困難な高齢者がいる場合に、実際にどのように対応するつもりか、あるいは事前にどのような対応をするかを尋ねた項目です。

2つ目は、家族・親族以外で災害時に備えて戸締まりや避難の手伝いを頼める人がいるかという質問です。この質問は災害に備えた対応や避難についての手伝いを家族・親族以外に頼める人がいるかを回答者自身の立場から尋ねた項目です。

以下では、これらの質問に対する回答について、年齢や近所付き合いの程度との関連を中心に分析していきます。

### 2 地域の一人暮らし高齢者への取組み

まず、地域に「災害時に一人で避難することが難しいと思われる、一人暮らしの高齢者」がいる場合にどのように取り組むかという質問に対する回答を確認します（表1）。「近所の人と一緒に避難の手伝いをするつもりである」が最も多く、約4割（41.8%）、続いて「自治会・町内会で話し合う」が約2割（19.0%）になりました。「特に対応しない」の回答は5.0%となりました。

表1 災害時に一人で避難することが難しいと思われる、一人暮らし高齢者への取組み

	度数	パーセント
1 自分で避難の手伝いをするつもりである	149	6.9%
2 近所の人と一緒に避難の手伝いをするつもりである	902	41.8%
3 自治会・町内会で話し合う	409	19.0%
4 地区社会福祉協議会・まちづくり協議会で話し合う	16	0.7%
5 NPOなどの支援団体を紹介する	5	0.2%
6 地域包括支援センターなどの専門職に相談する	64	3.0%
7 市役所の福祉関係課に相談する	128	5.9%
8 市町社会福祉協議会に相談する	16	0.7%
9 警察・消防に相談する	141	6.5%
10 その他	51	2.4%
11 特に対応しない	108	5.0%
無効回答	59	2.7%
未回答	108	5.0%
合 計	2156	

続いて選択肢を合併し、回答を〈自ら取り組む〉、〈話し合う〉、〈専門機関につなぐ〉、「その他」、「特に対応しない」の5つに分類しました（図1）。選択肢の合併は「自分で避難の手伝いをするつもりである」と「近所の人と一緒に避難の手伝いをするつもりである」の回答を合併し〈自ら取り組む〉、「自治会・町内会で話し合う」と「地区社会福祉協議会・まちづくり協議会で話し合う」の回答を合併し〈話し合う〉、「NPOなどの支援団体を紹介する」、「地域包括支援センターなどの専門職に相談する」、「市役所の福祉関係課に相談する」、「市町社会福祉協議会に相談する」、「警察・消防に相談する」の回答を合併し〈専門機関につなぐ〉とすることによって行いました。

避難の支援に〈自ら取り組む〉人の割合は約半数（52.8%）、避難について事前に〈話し合う〉人の割合は約2割（21.4%）、避難が困難な高齢者を〈専門機関につなぐ〉人が2割弱（17.8%）となりました（図1では、無効回答と未回答を除いて比率を算出したため、表1の数値と異なります）。

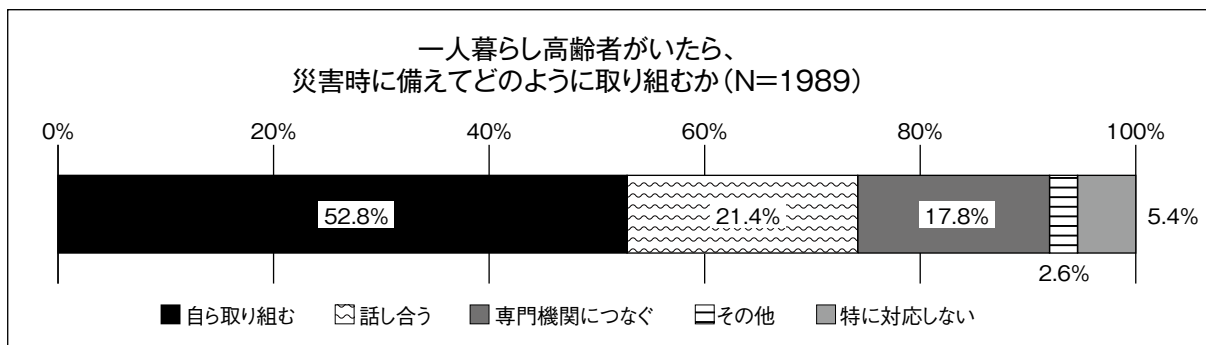


図1 災害時の一人暮らし高齢者への取組み（5分類）

災害時の一人暮らし高齢者への取組みについて、回答者の年齢階層別に比較したのが図2です。年齢が高い層で〈自ら取り組む〉、〈話し合う〉の回答割合が高くなり、反対に年齢が低い層で〈専門機関につなぐ〉、「特に対応しない」の回答割合が高くなっていることがわかります。年齢がより高い層で、地域住民が主体となった問題解決が支持されているといえるでしょう。

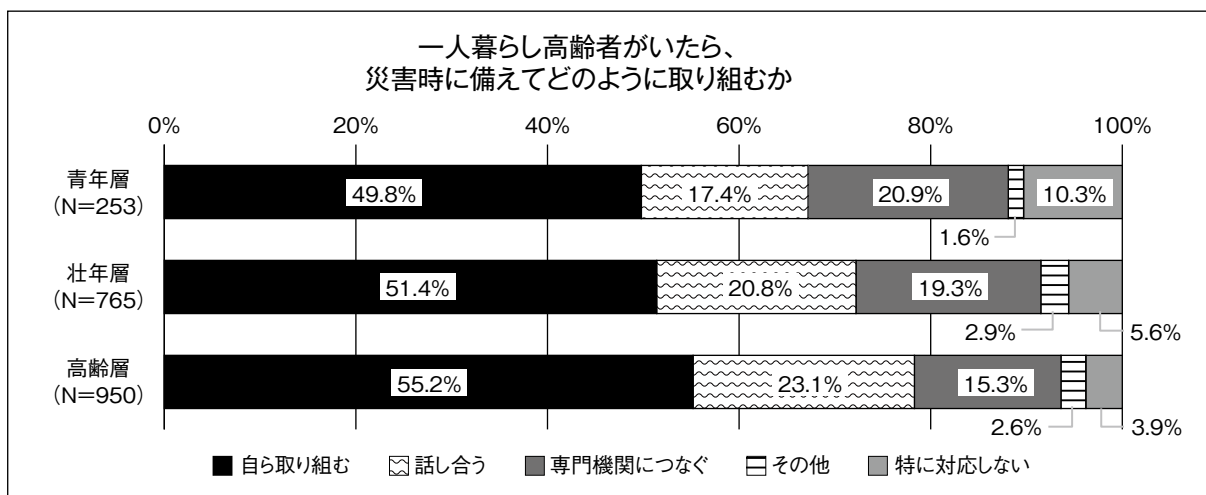


図2 災害時の一人暮らし高齢者への取組み×年齢階層

災害時の一人暮らし高齢者への取組みについて、回答者の近所付き合いの頻度別に比較したのが図3です。近所付き合いの頻度が高い層で〈自ら取り組む〉、〈話し合う〉の回答割合が高くなり、反対に近所付き合いの頻度が低い層で〈専門機関につなぐ〉、「特に対応しない」の回答割合が高くなっていることがわかります。近所付き合いがより頻繁な層で、地域住民が主体となった問題解決が支持されているといえるでしょう。また、災害時における避難困難者への支援という、非日常的な状況での住民同士の支え合いが、日常的な状況における近所づきあいと密接に関連していることがうかがえます。

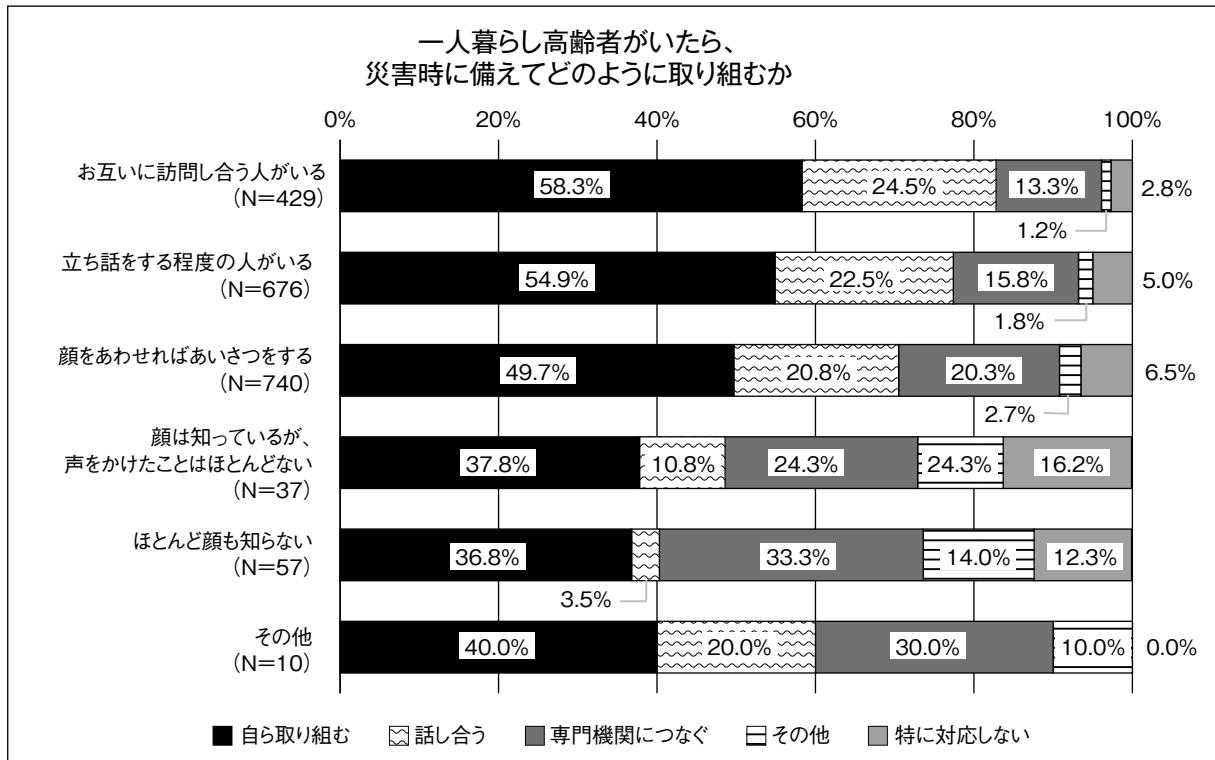


図3 災害時の一人暮らし高齢者への取組み×近所付き合いの頻度

### 3 家族・親族以外に頼れる人

次に、家族・親族以外で災害時に備えて戸締まりや避難の手伝いを頼める人がいるかどうかという質問に対する回答を確認します（表2）。「近所の人」が約3割（29.7%）、「友人」が約1割（11.6%）となりました。一方で、「自分でできるので、いない」という人は3割強（33.4%）いました。

また、手伝いを必要とする人の中で誰かに頼むことができる人は約8割（79.4%）、「手伝いを頼みたいが、いない」の回答は手伝いを必要とする人の中で約2割（20.6%）となりました。

表2 家族・親族以外で災害時に備えて戸締まりや避難の手伝いを頼める人

	度数	パーセント
1 近所の人	640	29.7%
2 友人	250	11.6%
3 自治会関係者	63	2.9%
4 民生委員・児童委員	26	1.2%
5 福祉員	4	0.2%
6 地区社会福祉協議会の関係者	0	0.0%
7 市町社会福祉協議会の関係者	3	0.1%
8 市町行政の関係者	4	0.2%
9 職場の関係者	16	0.7%
10 社会福祉施設などの関係者	8	0.4%
11 その他	32	1.5%
12 手伝いを頼みたいが、いない	272	12.6%
13 自分でできるので、いない	720	33.4%
無効回答	31	1.4%
未回答	87	4.0%
合計	2156	

以下では、「自治会関係者」、「民生委員・児童委員」、「福祉員」、「地区社会福祉協議会の関係者」、「市町社会福祉協議会の関係者」、「市町行政の関係者」、「職場の関係者」、「社会福祉施設などの関係者」、「その他」の選択肢を〈近所の人・友人以外〉として合併して分析を行います。

災害時に備えて家族・親族以外に頼れる人について、回答者の年齢階層別に比較したのが図4です。年齢が高い層で「近所の人」、〈近所の人・友人以外〉の回答割合が高くなり、反対に年齢が低い層で「友人」の回答割合が高くなっていることがわかります。また、「手伝いを頼みたいが、いない」の回答割合も年齢が低い層で高くなっています。

高齢層の約4割(39.2%)が「近所の人」を頼れると回答していることは特筆に値するでしょう。一方で、青年層で「手伝いを頼みたいが、いない」の回答割合が2割(20.0%)となり、全年齢層の中で最多となっていることも注意が必要です。

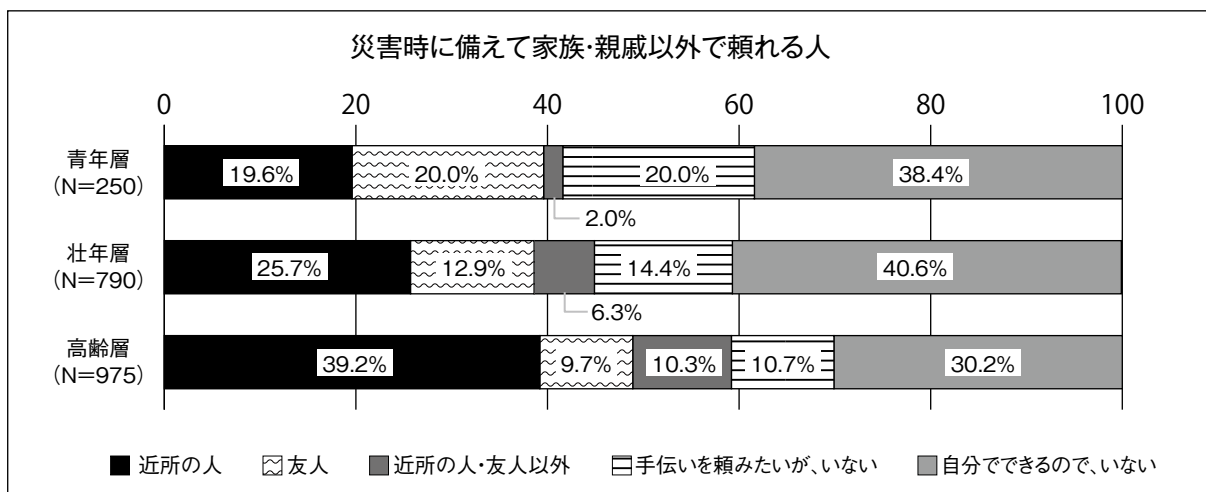


図4 災害時に備えて家族・親戚以外に頼れる人×年齢階層

また、〈近所の人・友人以外〉について年齢階層別にその内訳をみると（表3）、高齢層では「自治会関係者」（4.9%）、「民生委員・児童委員」（1.9%）が上位にあがり、壮年層では「自治会関係者」（1.9%）、「職場の関係者」（1.5%）が上位にあがりました（「地区社会福祉協議会の関係者」は回答がありませんでした）。

表3 〈近所の人・友人以外〉の内訳

	壮年層		高齢層	
	度数	パーセント	度数	パーセント
自治会関係者	15	1.9%	48	4.9%
民生委員・児童委員	6	0.8%	19	1.9%
福祉員	0	0.0%	4	0.4%
市町社会福祉協議会の関係者	2	0.3%	1	0.1%
市町行政の関係者	2	0.3%	2	0.2%
職場の関係者	12	1.5%	2	0.2%
社会福祉施設などの関係者	2	0.3%	5	0.5%
その他	11	1.4%	19	1.9%

災害時に備えて家族・親戚以外に頼れる人について、近所付き合いの頻度別に比較したのが図5です。近所付き合いの頻度が高い層で「近所の人」、の回答割合が高くなっていることがわかります。また、近所付き合いの頻度が低い層で「手伝いを頼みたいが、いない」の回答割合が高くなっています。

ここでも、災害時という非日常的な状況での住民同士の支え合いが、日常的な状況における近所づきあいと密接に関連していることがうかがえます。

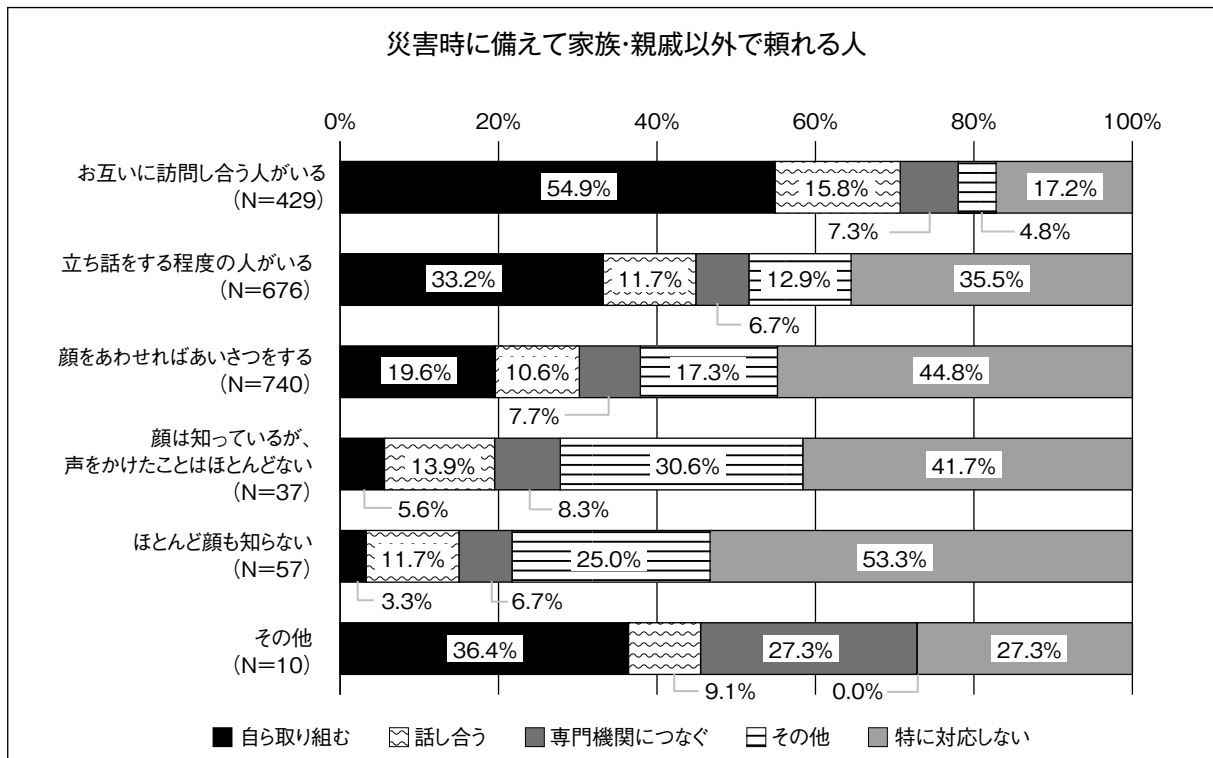


図5 災害時に備えて家族・親族以外に頼れる人×近所付き合いの頻度

#### 4 おわりに

災害時という非日常的な状況での地域における支え合いは、日常生活の近所づきあいと密接な関連があり、地域による災害弱者支援を行っていくためには、日常的な近隣関係をいかに醸成していくかが課題になります。

また、高齢者に対する支援も重要ですが、青年層の中にも、支援の必要性を認識しつつも支援を頼める相手がないという人が一定数いることがわかりました。青年層では、災害時に頼れる人として「近所の人」、「友人」以外をあげる回答者が少なく、その理由としては民生委員・児童委員や福祉員、社会福祉協議会などに対する認知度が低いことも考えられます。日常的な近隣関係の醸成にくわえ、それらの認知度を高めていくことも必要といえるでしょう。

## 資 料 編

- 1 「福祉に関する県民意識調査」調査票
- 2 「福祉に関する県民意識等実態調査」結果（単純集計結果）
- 3 「福祉に関する県民意識等実態調査」結果（経年比較）
- 4 「県民福祉意識等に関する調査研究委員会」協議経過 等

山口県「福祉に関する県民意識調査について」（ご協力のお願い）

平成30年6月

アンケートの記入方法

- 1 このアンケートは、個人を対象としておりますので、封筒の宛名の方ご本人様に回答をお願いしておりますが、筆記が困難な場合は、ご家族様などに代筆いただいても構いません。
- 2 回答は、あてはまる番号を選び、その番号を○印で囲んでください。なお、質問によって、「当てはまるものすべてに」、「ひとつだけ」等、回答の仕方が異なる場合がございますので、確認いただければ幸いです。
- 3 回答の記入にあたっては、鉛筆でもボールペンでも構いません。
- 4 全てに回答いただきましたら、同封の返信用封筒にて平成30年7月9日（月）までに、お手数ではございますが、返送くださいますようお願い申し上げます。

（本アンケートに関する問合せ先）

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

地域福祉部 地域福祉班

〒753-0072 山口市大手町9-6 TEL (083) 924-2828

担当：河内、遠藤（真）

【ご近所づきあいについてうかがいます。】

問1 あなたは、ご近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| 1 お互いに訪問し合う人がいる  | 2 立ち話をする程度の人がいる           |
| 3 顔をあわせればあいさつをする | 4 顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない |
| 5 ほとんど顔も知らない     | 6 その他（具体的に )              |

問2 あなたは、ご近所づきあいが必要だと思えますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 1 そう思う      | } ⇒ 次の付問2-1・付問2-2にお答えください。 |
| 2 まあそう思う    |                            |
| 3 どちらともいえない | } 問3にお答えください。              |
| 4 あまりそう思わない |                            |
| 5 そう思わない    |                            |

**問2で「1 そう思う」、「2 まあそう思う」とされた方におたずねします。**

付問2-1 なぜご近所づきあいが必要だと思えますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 困ったときに助け合える関係が必要だから
- 2 地域の情報を得るため
- 3 草取りや溝そうじなど、地域の環境美化を維持するため
- 4 次世代を支える子どもたちを育てるため
- 5 地域で安心して暮らすため（防犯や防災のため）
- 6 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

付問2-2 ご近所づきあいを維持・活発にするために必要なものについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中から当てはまるものの番号に○をつけてください。

	そう 思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	そう 思わない
・自ら進んで日頃からご近所同士の つながり（あいさつ等）を持つ ようにこころがけること	1	2	3	4	5
・自治会や町内会などが行う 交流活動（季節行事等）に積極的に 参加すること	1	2	3	4	5
・近所づきあいで困った時に相談 できる人間関係をつくること	1	2	3	4	5

**【悩みごと、困りごとについてうかがいます。】**

**※ すべての方におたずねします。**

問3 あなた自身が現在、悩んでいること、困っていることは何ですか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 健康に関すること
- 2 家族に関すること
- 3 子育てや教育に関すること
- 4 介護に関すること
- 5 経済的な問題に関すること
- 6 職場内、学校内の問題に関すること
- 7 生きがいに関すること
- 8 隣近所との関係に関すること
- 9 防犯に関すること
- 10 人が少なくなり地域の行事が行えないこと
- 11 将来の生活への不安
- 12 生活上の困りごと（ごみ出し、買物、掃除、食事など）
- 13 仕事に関すること
- 14 老後に関すること
- 15 自分や家族の死後に関すること（葬式のことや相続など）
- 16 今のところ悩んでいること、困っていることはない
- 17 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

付問3-1 現在、最も悩んでいること、困っていることについて、問3で○を付けた中から**ひとつだけ選び**、その番号を記入してください。

問3で選択した番号（ ）

問4 あなたは、これまでに生活上の困りごと（ごみ出し、買物、掃除、食事など）や家族の介護、子育てなどを経験する中で、**個人や家族だけで解決しづらいときに、家族以外に相談したことがありますか。**次の中から**あてはまる番号すべてに○をつけてください。**

- |                                     |                    |             |
|-------------------------------------|--------------------|-------------|
| 1 近所の人                              | 2 友人               | 3 自治会長      |
| 4 民生委員・児童委員                         | 5 福祉員*             | 6 地区社会福祉協議会 |
| 7 県・市町社会福祉協議会                       | 8 県や市町行政の窓口        |             |
| 9 学校関係者                             | 10 職場の関係者          |             |
| 11 高齢者・障がい者・子育ての支援センター（地域包括支援センター等） |                    |             |
| 12 主治医などの医療関係者                      | 13 福祉施設や福祉サービスの事業者 |             |
| 14 NPO 団体などの民間団体                    |                    |             |
| 15 その他（具体的に                         |                    |             |
| 16 特に悩んだり、困ったりしたことがない               |                    |             |
| 17 誰にも相談したことがない                     | ⇒ 次の付問4-1にお答えください。 |             |

**問5にお答えください。**

**※ 福祉員**

市町によっては「小地区福祉員」、「ふれあい推進員」、「福祉委員」等と呼ばれています。単位自治会程度の範囲に設置され、近隣の住民の皆さんに福祉活動への参加を働きかけたり、民生委員・児童委員やボランティア、地区・校区社会福祉協議会、市町社会福祉協議会などと協力して地域の福祉問題を発見し、解決する担い手です。

**問4で「17 誰にも相談したことがない」とされた方におたずねします。**

付問4-1 誰にも相談しない理由として、どのようなものがありますか。次の中から**当てはまる主な理由ひとつだけに○をつけてください。**

- 1 自分で解決できるから
- 2 家族や親族への相談で解決できるから
- 3 誰にも相談したくないから
- 4 プライバシーが守られるか心配だから
- 5 どこに相談すればよいかわからないから
- 6 相談しても良い内容かどうかわからないから
- 7 その他（具体的に

**【地域活動についてうかがいます。】**

問5 あなたは仕事以外に地域で活動されていますか。次の中から**当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。**

- |                |                                |
|----------------|--------------------------------|
| 1 現在活動している     | ⇒ 次の付問5-1・付問5-2・付問5-3にお答えください。 |
| 2 過去に活動したことがある | } 付問5-4・付問5-5にお答えください。         |
| 3 活動したことがない    |                                |

**問5で「1 現在活動している」とされた方におたずねします。**

付問5-1 あなたは地域でどのような活動をしていますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                                |                             |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 自治会・町内会での活動                  |                             |
| 2 コミュニティ協議会・まちづくり協議会等での活動      |                             |
| 3 地区社会福祉協議会での活動                | 4 学校・PTA等の活動                |
| 5 子ども会での活動                     | 6 婦人会での活動                   |
| 7 老人クラブでの活動                    | 8 商工会・農協・森林組合・生協などの協同組合での活動 |
| 9 スポーツ・レクリエーション活動              | 10 趣味・娯楽などのサークル活動           |
| 11 上記以外のボランティア・NPO団体などにおける地域活動 |                             |
| 12 勤め先などでの社会貢献活動               | 13 組織に属さない個人の活動             |
| 14 その他（具体的に                    | )                           |

付問5-2 付問5-1の活動をされたきっかけは何ですか。次の中から当てはまる主な理由ひとつだけに○をつけてください。

- |                   |                              |
|-------------------|------------------------------|
| 1 地域や社会に貢献したかったから | 2 自分の知識や経験を活かしたかった（積みたかった）から |
| 3 友人や仲間を増やしたかったから | 4 生活にはりあいを持たせたかったから          |
| 5 身近な人に誘われたから     | 6 様々な情報を手に入れたかったから           |
| 7 健康を維持したかったから    | 8 何となく                       |
| 9 その他（具体的に        | )                            |

付問5-3 付問5-1の活動を続けている理由として、どのようなものがありますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1 地域や社会への貢献につながるから     | 2 自分の知識や経験につながるから |
| 3 友人や仲間を増やすことにつながるから   | 4 生活のはりあいにつながるから  |
| 5 様々な情報を手に入れることにつながるから | 6 健康の維持につながるから    |
| 7 他に替わる人がいないから         | 8 何となく            |
| 9 その他（具体的に             | )                 |

**問5で「2 過去に活動したことがある」、「3 活動したことがない」とされた方におたずねします。**

付問5-4 現在、地域で活動をされていない理由として、どのようなものがありますか。次の中から当てはまる主な理由ひとつだけに○をつけてください。

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 時間がないから          | 2 経済的な余裕がないから    |
| 3 一緒に活動する仲間がないから   | 4 健康や体力面で自信がないから |
| 5 活動の内容や方法がわからないから | 6 移動の手段がないから     |
| 7 地域の人とのつきあいが面倒だから | 8 参加する気持ちがないから   |
| 9 家族の理解が得られないから    | 10 きっかけがないから     |
| 11 その他（具体的に        | )                |



	そう 思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	そう 思わない
・この地域は生活の場としてだんだん良くなる	1	2	3	4	5
・今後もこの地域に住み続けたい	1	2	3	4	5
・祭りなどの行事が少なくなった	1	2	3	4	5
・全体的にみて、この地域の住み心地は良い	1	2	3	4	5

### 【安心して暮らせるまちづくりなどについてうかがいます。】

問9 あなたが考える「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）」とは、どのような地域（まち）だと思いますか。次の中から**最も重要視しているものひとつだけに**○をつけてください。

- 1 地域活動にいろいろな人が参加しやすい地域（まち）
- 2 趣味活動・スポーツなどに取り組みやすい地域（まち）
- 3 福祉サービス\*が充実している地域（まち）
- 4 防災・安全対策が充実している地域（まち）
- 5 次世代を育む環境が充実している地域（まち）
- 6 ご近所同士で日頃から助け合うことができる地域（まち）
- 7 地域社会の一員であることを実感できる地域（まち）
- 8 暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域（まち）
- 9 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

#### ※ 福祉サービス

介護保険サービス、金銭管理、移送サービス、買物支援、福祉サービス利用支援などのことです。

問11、問12、付問13-2、問14での福祉サービスも同様の意味合いです。

問10 高齢者や障がいのある人（子ども）、引きこもり（不登校）の人、少し気がかりな人（子ども）など、支援を必要とする人や家庭に対し、地域で支えるためにあなたができることとして、どのようなことがありますか。次の中から**当てはまる番号すべてに**○をつけてください。

- 1 支援を必要とする人や、その家族への声かけと見守り\*
- 2 生活に関する情報をわかりやすく提供する
- 3 祭りや交流事業など、参加できる場への呼びかけ
- 4 困っている人を発見して、専門機関につなげる
- 5 ご近所で見守りなどの支え合い活動について話をする
- 6 自治会長、民生委員・児童委員、福祉員など見守りなどの支え合い活動について話をする
- 7 家事の手伝いをする
- 8 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

#### ※ 見守り

地域の中で手助けを必要としている人や気がかりな人を対象として、地域住民や民生委員・児童委員や福祉員などの地域福祉活動関係者が、「あいさつ」や「声かけ」、「生活の様子を気にかける」などといった活動を通じて、住民同士が共に支え合って暮らし続ける地域づくりを進める活動です。

問 11 「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる 地域（まち）づくり」を進めていくために、市や町の行政に期待する役割としてどのようなことがありますか。次の中から**最も重要視しているものひとつだけに**○をつけてください。

- 1 地域における福祉サービスの向上を図る
- 2 福祉に関するわかりやすい情報を提供する
- 3 地域活動への資金的な支援をもつとする
- 4 地域活動などを行う拠点を確保する
- 5 地域で活躍されている人や団体等の連携づくりを支援する
- 6 お互いに助け合うという意識を醸成する
- 7 福祉活動の意義と重要性をもっとお知らせする
- 8 福祉活動に携わる人の育成や支援する人を配置する
- 9 個人の趣味や活動を活かせる場所を提供する
- 10 困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる
- 11 その他（具体的に

**【福祉に関する情報についてうかがいます。】**

問 12 あなたは福祉に関する情報として、どのような情報が必要ですか。次の中から**当てはまる番号すべてに**○をつけてください。

- 1 福祉サービスの種類、相談機関に関する情報
- 2 福祉サービスの利用方法に関する情報
- 3 福祉サービスの苦情解決に関する情報
- 4 ボランティアに関する情報
- 5 福祉機器に関する情報
- 6 福祉の仕事に関する情報
- 7 福祉に関する研修・講習に関する情報
- 8 その他（具体的に
- 9 これまで福祉に関する情報を必要としたことはない ⇒ **問 13**にお答えください

⇒ **付問 12-1**にお答えください

**問 12 で「1 福祉サービスの種類、相談機関に関する情報」～「8 その他」とされた方におたずねします。**

付問 12-1 あなたは福祉に関する情報を、どこから入手していますか。次の中から**当てはまる番号すべてに**○をつけてください。

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1 福祉に関する広報紙・情報誌・チラシ | 2 パソコン・スマートフォン・タブレット |
| 3 テレビ・ラジオ           | 4 新聞・雑誌              |
| 5 民生委員・児童委員         | 6 福祉員                |
| 7 知り合い              | 8 市役所・町役場            |
| 9 公民館・交流センター        | 10 社会福祉協議会           |
| 11 福祉サービス事業者        | 12 地域包括支援センター        |
| 13 医療関係者（主治医など）     | 14 自治会長・町内会長         |
| 15 これまで入手したことはない    |                      |
| 16 その他（具体的に         |                      |

## 【社会福祉協議会などについてうかがいます。】

※ すべての方におたずねします。

問 13 あなたは、市や町の社会福祉協議会を知っていますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 名前も活動内容もよく知っている。
  - 2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない
  - 3 名前も活動内容も知らない ⇒ 問 14にお答えください。
- } ⇒ 次の付問 13-1・付問 13-2  
} にお答えください。

問 13 で「1 名前も活動内容もよく知っている」、「2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」とされた方におたずねします。

付問 13-1 あなたは、どのようにして市や町の社会福祉協議会を知りましたか。当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 社会福祉協議会の広報紙を見たことがある
- 2 新聞や地域の情報誌、テレビなどで見たことがある
- 3 家族や友人から話を聞いたことがある
- 4 福祉員から話を聞いたことがある
- 5 民生委員・児童委員から話を聞いたことがある
- 6 社会福祉協議会が主催する事業に参加したことがある
- 7 社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用したことがある
- 8 地域の活動やボランティア活動を通じて知った
- 9 その他（具体的に )

付問 13-2 あなたは、社会福祉協議会の仕事について、どのような印象を持っていますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところ
- 2 障がいのある人に関する支援をするところ
- 3 子どもに関する支援をするところ
- 4 ボランティア活動を支援するところ
- 5 暮らしの困りごとについて相談を受けるところ
- 6 福祉に関する研修会を実施するところ
- 7 福祉サービスを提供するところ
- 8 募金や寄附を集め、いろいろな事業を行っているところ
- 9 生活困窮者\*への生活支援を行っているところ
- 10 その他（具体的に )

※ 生活困窮者

「生活困窮者」とは、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある方をいいます。生活困窮者世帯は社会的孤立状態にあることが多く、地域で生活困窮状態にある方に気づき、相談対応等が求められています。国においても生活困窮者を支えるための取組が行われています。

**※ すべての方におたずねします。**

問 14 あなたは、今後、市や町の社会福祉協議会にどのような役割を期待しますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| 1 福祉サービスの提供               | 2 ボランティア活動の推進・支援   |
| 3 住民への働きかけ（見守り活動、仲間づくりなど） |                    |
| 4 住民の福祉意識の醸成              |                    |
| 5 困った時の相談支援               | 6 福祉に関する情報提供       |
| 7 生活困窮者への生活支援             | 8 地域で活動する団体等への資金援助 |
| 9 その他（具体的に                | ）                  |

問 15 あなたは、「福祉員」を知っていましたか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。（福祉員については問4の注を参照ください。）

- |                             |                  |
|-----------------------------|------------------|
| 1 名前も活動内容もよく知っていた           | } ⇒ 次の付問15-1にお答え |
| 2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らなかった |                  |
| 3 名前も活動内容も知らなかった            | ⇒ 問16にお答えください。   |

**問 15 で「1 名前も活動内容もよく知っていた」、「2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らなかった」とされた方におたずねします。**

付問 15-1 あなたは、これまで福祉員とどのような関わりがありましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 1 福祉員になったことがある                        |   |
| 2 福祉員の訪問を受けたことがある                     |   |
| 3 福祉員に相談したことがある                       |   |
| 4 見守り活動で一緒に活動したことがある                  |   |
| 5 ふれあい・いきいきサロンやふれあい交流活動に参加して関わったことがある |   |
| 6 社会福祉協議会が主催する事業に参加して関わったことがある        |   |
| 7 社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用して関わったことがある    |   |
| 8 関わったことがない                           |   |
| 9 その他（具体的に                            | ） |

**※ すべての方におたずねします。**

問 16 今後、「福祉員」に期待する役割としてどのようなことがありますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 1 ちょっとした困りごとの相談相手                 |   |
| 2 ひとり暮らし高齢者など支援を必要とする人への声かけや見守り活動 |   |
| 3 地域の行事や交流活動の運営・協力                |   |
| 4 福祉に関する情報の提供                     |   |
| 5 地域の福祉課題の発見役                     |   |
| 6 その他（具体的に                        | ） |

## 【災害時の備えについてうかがいます。】

問17 もし、あなたの地域に、次のような方がいたら、災害時に備えて、あなたはどのように取組ますか。次の中からもっとも当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

災害時に一人で避難することが難しいと思われる、一人暮らしの高齢者

- 1 自分で避難の手伝いをするつもりである
- 2 近所の人と一緒に避難の手伝いをするつもりである
- 3 自治会・町内会で話し合う
- 4 地区社会福祉協議会・まちづくり協議会で話し合う
- 5 NPOなどの支援団体を紹介する
- 6 地域包括支援センターなどの専門職に相談する
- 7 市役所の福祉関係課に相談する
- 8 市町社会福祉協議会に相談する
- 9 警察・消防に相談する
- 10 その他 ( )
- 11 特に対応しない

問18 あなたには、災害時に備えて家族・親族以外で、戸締まりや避難などのお手伝いを頼める方がいらっしゃいますか。次の中からもっとも当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 近所の人
- 2 友人
- 3 自治会関係者
- 4 民生委員・児童委員
- 5 福祉員
- 6 地区社会福祉協議会の関係者
- 7 市町社会福祉協議会の関係者
- 8 市町行政の関係者
- 9 職場の関係者
- 10 社会福祉施設などの関係者
- 11 その他 ( )
- 12 手伝いを頼みたいが、いない
- 13 自分でできるので、いない

**最後に、あなたご自身のことについておたずねします。**

調査結果を統計的に分析するために必要となりますので、すべての質問にお答えください。  
**当てはまる番号に○をつけてください。**

F 1 あなたの性別はどちらですか。

- 1 男性                      2 女性

F 2 あなたは、現在、おいくつですか。 **当てはまる番号に○をつけてください。**

- |            |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|
| 1 18～24 歳  | 2 25～29 歳  | 3 30～34 歳  | 4 35～39 歳  |
| 5 40～44 歳  | 6 45～49 歳  | 7 50～54 歳  | 8 55～59 歳  |
| 9 60～64 歳  | 10 65～69 歳 | 11 70～74 歳 | 12 75～79 歳 |
| 13 80～84 歳 | 14 85～89 歳 | 15 90～94 歳 | 16 95 歳以上  |

F 3 あなたが現在お住まいの地域はどこですか。 **お住まいの市町に○をつけてください。**

- |           |          |        |        |
|-----------|----------|--------|--------|
| 1 下関市     | 2 宇部市    | 3 山口市  | 4 萩市   |
| 5 防府市     | 6 下松市    | 7 岩国市  | 8 光市   |
| 9 長門市     | 10 柳井市   | 11 美祢市 | 12 周南市 |
| 13 山陽小野田市 | 14 周防大島町 | 15 和木町 | 16 上関町 |
| 17 田布施町   | 18 平生町   | 19 阿武町 |        |

F 4 現在のあなたの世帯は、次のどれですか。 **当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。**

- 1 ひとり暮らし
- 2 夫婦のみの世帯
- 3 夫婦と子どものみの世帯
- 4 高齢者（65歳以上）の親と未婚・離婚した子どものみの世帯
- 5 母親または父親と子どものみの世帯
- 6 三世代以上で暮らす世帯
- 7 その他の世帯

F 5 あなたの住んでおられるところは次のどれですか。 **当てはまる番号ひとつだけに○を付けてください。**

- |          |                                   |
|----------|-----------------------------------|
| 1 農村・漁村部 | 2 郊外住宅地                           |
| 3 町中の密集地 | 4 商店街                             |
| 5 工場街    | 6 その他（具体的に                      ) |

F 6 あなたの居住歴はどれですか。( )に年数を記入し、当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

現在地に住んでいる年数 ( ) 年

- 1 生まれてから同じ場所にずっと住んでいる
- 2 生まれはこの市町だが、今の場所とは違っている
- 3 生まれはこの市町だが、しばらく他所に出て、帰ってきた
- 4 生まれは他所だが、今の場所に来てからずっと住んでいる
- 5 生まれは他所で、ここで住むのも一時期だけである

F 7 あなたの主な移動手段は何ですか。当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 自動車、バイク
- 2 公共交通機関 (電車・バス・タクシー)
- 3 自転車
- 4 徒歩
- 5 その他 (具体的に )

F 8 あなたの現在のお仕事は次のどれですか。当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 農林漁業 (家族従業者を含む)
- 2 自営業 (商工サービス業・自由業 (家族従業者を含む) など)
- 3 常勤の被雇用者 (民間企業のサラリーマンや公務員など)
- 4 臨時・パートタイム
- 5 専業主婦・主夫
- 6 学生
- 7 無職
- 8 その他 (具体的に )

F 9 あなたの現在の暮らしの状況を総合的に見てどう感じていますか。当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1 大変苦しい    | 2 やや苦しい    |
| 3 普通       | 4 ややゆとりがある |
| 5 大変ゆとりがある |            |

F 10 あなたはこれまで地域福祉活動 (民生委員・児童委員、福祉員、ボランティア、婦人会、老人クラブなど) の経験がありますか。当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |      |      |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

福祉に関するご意見、ご要望などがありましたら、おしらせください。

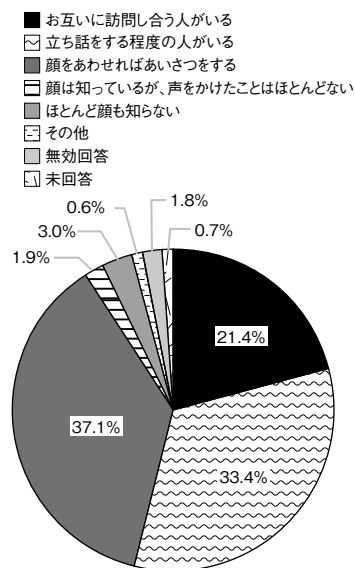
以上で質問はすべて終わりです。ご協力ありがとうございました。

## 2. 「福祉に関する県民意識等実態調査」結果（単純集計結果）

問1 あなたは、ご近所の人との程度のお付き合いをしていますか。

	度数	比率
1 お互いに訪問し合う人がある	462	21.4%
2 立ち話をする程度の人がある	721	33.4%
3 顔をあわせればあいさつをする	800	37.1%
4 顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない	42	1.9%
5 ほとんど顔も知らない	64	3.0%
6 その他	13	0.6%
無効回答	39	1.8%
未回答	15	0.7%
合計	2156	100.0%

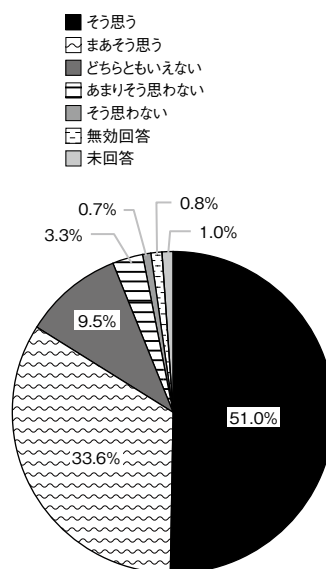
問1 あなたは、ご近所の人との程度のお付き合いをしていますか。



問2 あなたは、ご近所づきあいが必要だと思いますか。

	度数	比率
1 そう思う	1099	51.0%
2 まあそう思う	725	33.6%
3 どちらともいえない	205	9.5%
4 あまりそう思わない	71	3.3%
5 そう思わない	16	0.7%
無効回答	18	0.8%
未回答	22	1.0%
合計	2156	100.0%

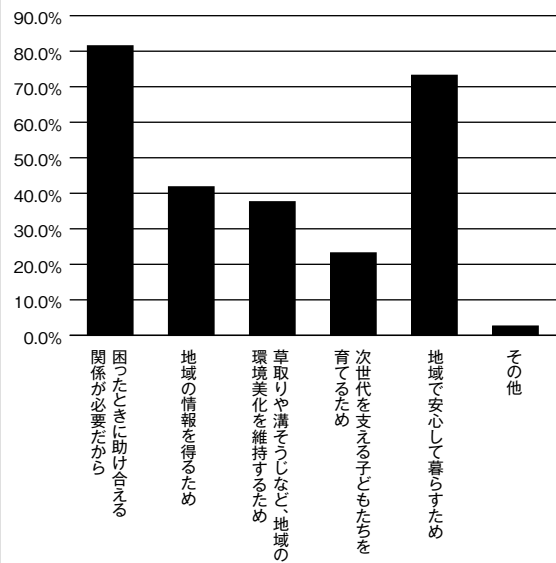
問2 あなたは、ご近所づきあいが必要だと思いますか。



付問2-1 なぜご近所づきあいが必要だと思いますか。

	度数	比率
1 困ったときに助け合える関係が必要だから	1486	81.5%
2 地域の情報を得るため	762	41.8%
3 草取りや溝そうじなど、地域の環境美化を維持するため	685	37.6%
4 次世代を支える子どもたちを育てるため	423	23.2%
5 地域で安心して暮らすため	1335	73.2%
6 その他	47	2.6%
未回答	21	

付問2-1 なぜご近所づきあいが必要だと思いますか。



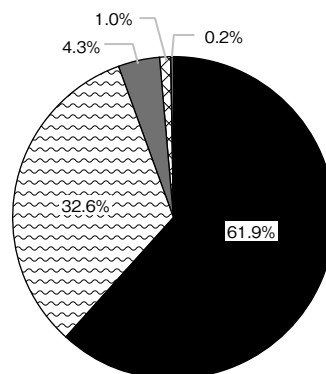
付問2-2 ご近所づきあいを維持・活発にするために必要なものについて、あなたはどのようにお考えですか。

・自ら進んで日頃からご近所同士のつながり（あいさつ等）を持つようにこころがけること

	度数	比率
1 そう思う	1085	61.9%
2 まあそう思う	572	32.6%
3 どちらともいえない	75	4.3%
4 あまりそう思わない	18	1.0%
5 そう思わない	4	0.2%
無効回答	0	
未回答	70	
合計	1824	100.0%

・自ら進んで日頃からご近所同士のつながり（あいさつ等）を持つようにこころがけること

- そう思う
- ▨ まあそう思う
- どちらともいえない
- ▨ あまりそう思わない
- そう思わない

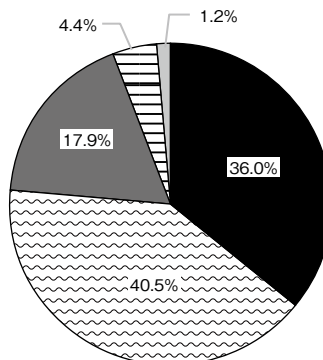


・自治会や町内会などが行う交流活動（季節行事等）に積極的に参加すること

	度数	比率
そう思う	622	36.0%
まあそう思う	701	40.5%
どちらともいえない	309	17.9%
あまりそう思わない	76	4.4%
そう思わない	21	1.2%
無効回答	0	
未回答	95	
合計	1824	100.0%

・自治会や町内会などが行う交流活動（季節行事等）に積極的に参加すること

■ そう思う  
 ▨ まあそう思う  
 ■ どちらともいえない  
 □ あまりそう思わない  
 □ そう思わない

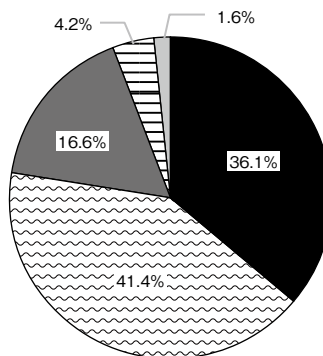


・近所づきあいで困った時に相談できる人間関係をつくること

	度数	比率
そう思う	626	36.1%
まあそう思う	718	41.4%
どちらともいえない	288	16.6%
あまりそう思わない	73	4.2%
そう思わない	28	1.6%
無効回答	1	
未回答	90	
合計	1824	99.9%

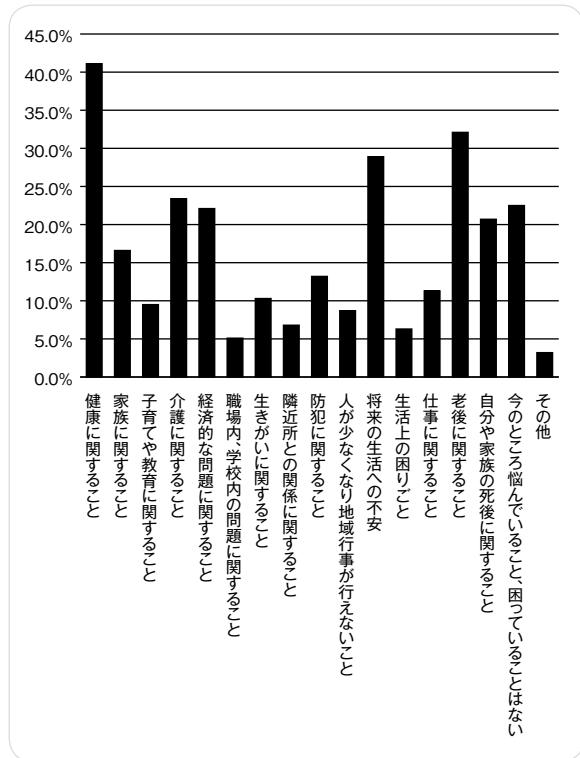
・近所づきあいで困った時に相談できる人間関係をつくること

■ そう思う  
 ▨ まあそう思う  
 ■ どちらともいえない  
 □ あまりそう思わない  
 □ そう思わない



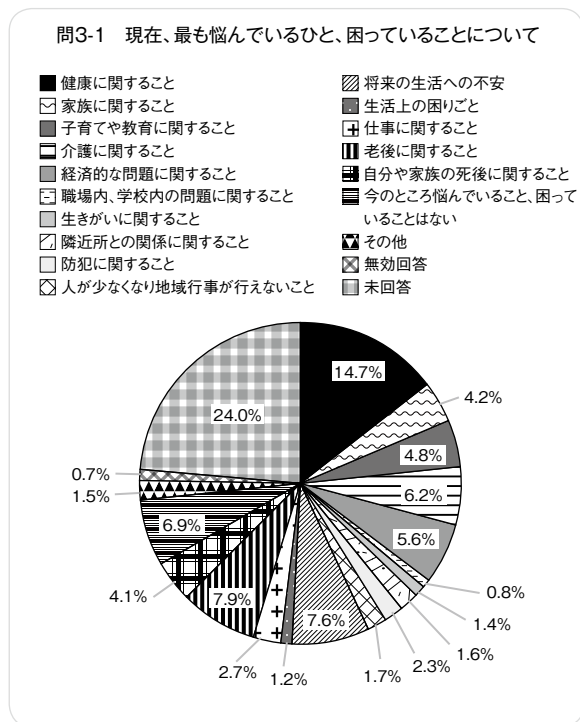
問3 あなた自身が現在、悩んでいること、困っていることは何ですか。

	度数	比率
1 健康に関すること	886	41.1%
2 家族に関すること	357	16.6%
3 子育てや教育に関すること	204	9.5%
4 介護に関すること	504	23.4%
5 経済的な問題に関すること	476	22.1%
6 職場内、学校内の問題に関すること	110	5.1%
7 生きがいに関すること	222	10.3%
8 隣近所との関係に関すること	146	6.8%
9 防犯に関すること	285	13.2%
10 人が少なくなり地域行事が行えないこと	187	8.7%
11 将来の生活への不安	623	28.9%
12 生活上の困りごと	135	6.3%
13 仕事に関すること	244	11.3%
14 老後に関すること	692	32.1%
15 自分や家族の死後に関すること	446	20.7%
16 今のところ悩んでいること、困っていることはない	486	22.5%
17 その他	68	3.2%
未回答	63	



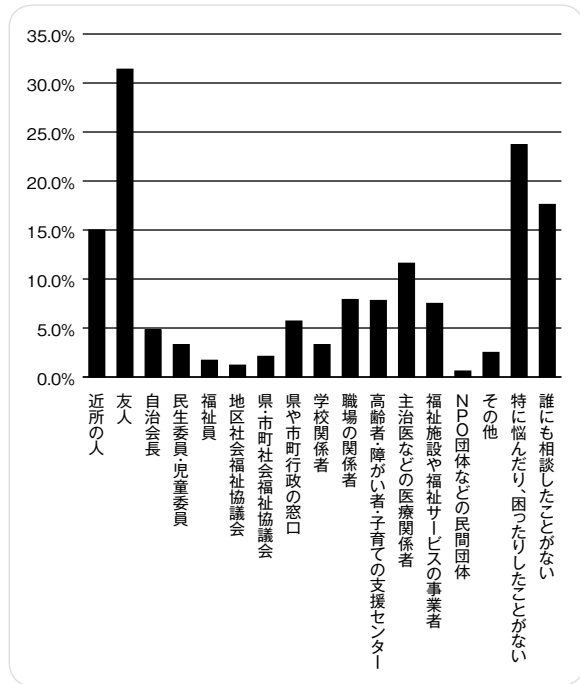
問3-1 現在、最も悩んでいるひと、困っていることについて

	度数	比率
1 健康に関すること	308	14.7%
2 家族に関すること	88	4.2%
3 子育てや教育に関すること	101	4.8%
4 介護に関すること	129	6.2%
5 経済的な問題に関すること	117	5.6%
6 職場内、学校内の問題に関すること	17	0.8%
7 生きがいに関すること	29	1.4%
8 隣近所との関係に関すること	33	1.6%
9 防犯に関すること	49	2.3%
10 人が少なくなり地域行事が行えないこと	36	1.7%
11 将来の生活への不安	159	7.6%
12 生活上の困りごと	26	1.2%
13 仕事に関すること	56	2.7%
14 老後に関すること	165	7.9%
15 自分や家族の死後に関すること	86	4.1%
16 今のところ悩んでいること、困っていることはない	145	6.9%
17 その他	32	1.5%
無効回答	15	0.7%
未回答	502	24.0%
合計	2093	100.0%



問4 あなたは、これまでに生活上の困りごとや家族の介護、子育てなどを経験する中で、個人や家族だけで解決しづらいときに、家族以外に相談したことがありますか。

	度数	比率
1 近所の人	323	15.0%
2 友人	678	31.4%
3 自治会長	103	4.8%
4 民生委員・児童委員	72	3.3%
5 福祉員	36	1.7%
6 地区社会福祉協議会	25	1.2%
7 県・市町社会福祉協議会	45	2.1%
8 県や市町行政の窓口	122	5.7%
9 学校関係者	71	3.3%
10 職場の関係者	171	7.9%
11 高齢者・障がい者・子育ての支援センター	169	7.8%
12 主治医などの医療関係者	250	11.6%
13 福祉施設や福祉サービスの事業者	161	7.5%
14 NPO団体などの民間団体	14	0.6%
15 その他	54	2.5%
16 特に悩んだり、困ったりしたことがない	512	23.7%
17 誰にも相談したことがない	380	17.6%
未回答	97	

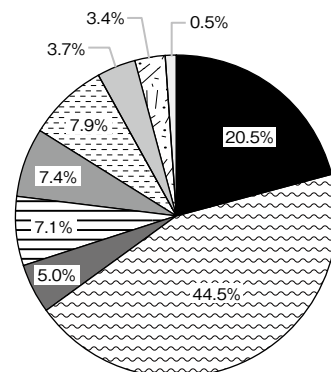


付問4-1 誰にも相談しない理由として、どのようなものがありますか。

	度数	比率
1 自分で解決できるから	78	20.5%
2 家族や親族への相談で解決できるから	169	44.5%
3 誰にも相談したくないから	19	5.0%
4 プライバシーが守られるか心配だから	27	7.1%
5 どこに相談すればよいかわからないから	28	7.4%
6 相談しても良い内容かどうかわからないから	30	7.9%
7 その他	14	3.7%
無効回答	13	3.4%
未回答	2	0.5%
合計	380	100.0%

付問4-1 誰にも相談しない理由として、どのようなものがありますか。

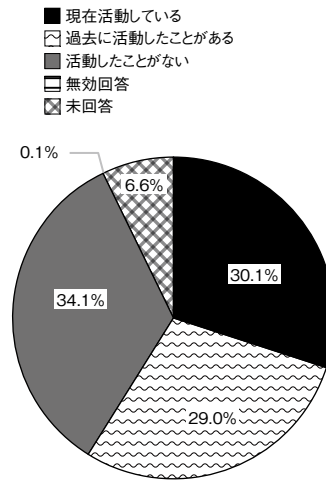
- 自分で解決できるから
- ▨ 家族や親族への相談で解決できるから
- 誰にも相談したくないから
- ▨ プライバシーが守られるか心配だから
- どこに相談すればよいかわからないから
- ▨ 相談しても良い内容かどうかわからないから
- その他
- ▨ 無効回答
- 未回答



問5 あなたは仕事以外に地域で活動されていますか。

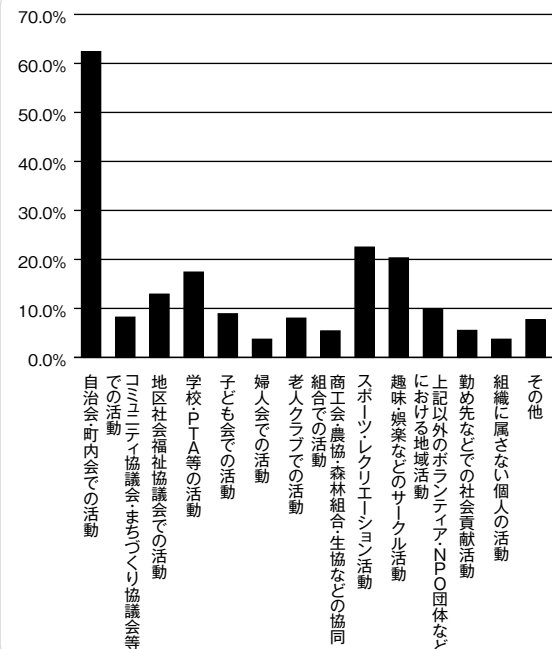
	度数	比率
1 現在活動している	649	30.1%
2 過去に活動したことがある	626	29.0%
3 活動したことがない	736	34.1%
無効回答	3	0.1%
未回答	142	6.6%
合計	2156	100.0%

問5 あなたは仕事以外に地域で活動されていますか。



付問5-1 あなたは地域でどのような活動をしていますか。

	度数	比率
1 自治会・町内会での活動	405	62.4%
2 コミュニティ協議会・まちづくり協議会等での活動	53	8.2%
3 地区社会福祉協議会での活動	77	11.9%
4 学校・PTA等の活動	113	17.4%
5 子ども会での活動	58	8.9%
6 婦人会での活動	24	3.7%
7 老人クラブでの活動	52	8.0%
8 商工会・農協・森林組合・生協などの協同組合での活動	35	5.4%
9 スポーツ・レクリエーション活動	146	22.5%
10 趣味・娯楽などのサークル活動	132	20.3%
11 上記以外のボランティア・NPO団体などにおける地域活動	64	9.9%
12 勤め先などでの社会貢献活動	36	5.5%
13 組織に属さない個人の活動	24	3.7%
14 その他	50	7.7%
未回答	3	

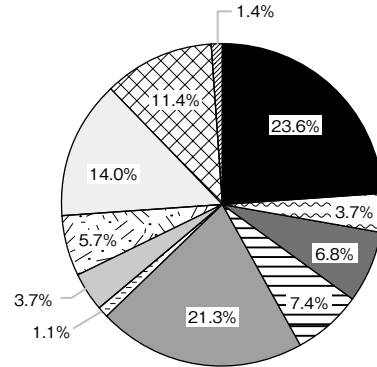


付問5-2 付問5-1の活動をされたきっかけはなんですか。

	度数	比率
1 地域や社会に貢献したかったから	153	23.6%
2 自分の知識や経験を活かしたかったから	24	3.7%
3 友人や仲間を増やしたかったから	44	6.8%
4 生活にはよりあいを持たせたかったから	48	7.4%
5 身近な人に誘われたから	138	21.3%
6 様々な情報を手に入れたかったから	7	1.1%
7 健康を維持したかったから	24	3.7%
8 何となく	37	5.7%
9 その他	91	14.0%
無効回答	74	11.4%
未回答	9	1.4%
合計	649	100.0%

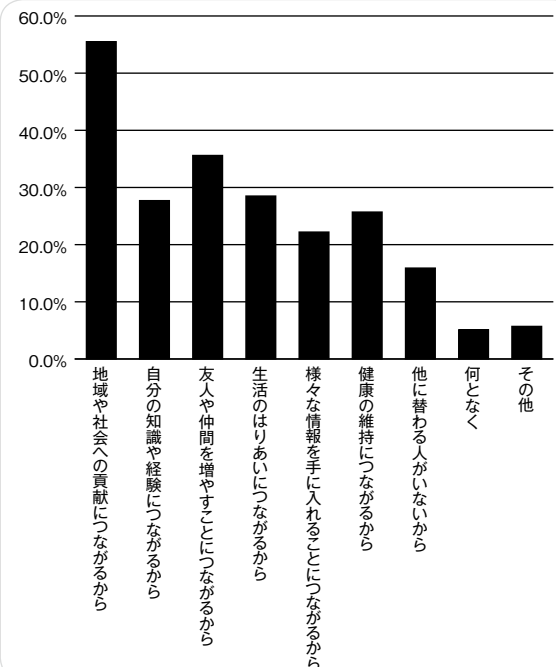
付問5-2 付問5-1の活動をされたきっかけはなんですか。

- 地域や社会に貢献したかったから
- ☒ 自分の知識や経験を活かしたかったから
- 友人や仲間を増やしたかったから
- ☒ 生活にはよりあいを持たせたかったから
- 身近な人に誘われたから
- ☒ 様々な情報を手に入れたかったから
- 健康を維持したかったから
- 何となく
- その他
- ☒ 無効回答
- ☒ 未回答



付問5-3 付問5-1の活動を続けている理由として、どのようなものがありますか。

	度数	比率
1 地域や社会への貢献につながるから	360	55.5%
2 自分の知識や経験につながるから	180	27.7%
3 友人や仲間を増やすことにつながるから	231	35.6%
4 生活のよりあいにつながるから	185	28.5%
5 様々な情報を手に入れることにつながるから	144	22.2%
6 健康の維持につながるから	167	25.7%
7 他に替わる人がいないから	103	15.9%
8 何となく	33	5.1%
9 その他	37	5.7%
未回答	13	

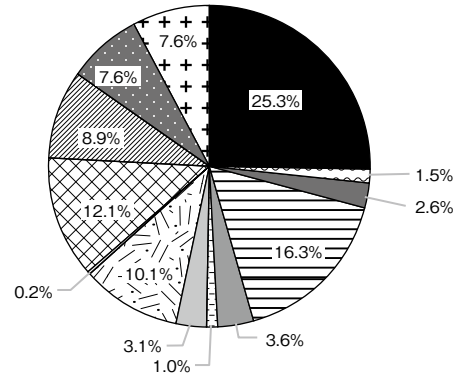


付問5-4 現在、地域で活動されていない理由として、どのようなものがありますか。

	度数	比率
1 時間がないから	344	25.3%
2 経済的な余裕がないから	21	1.5%
3 一緒に活動する仲間がないから	36	2.6%
4 健康や体力面で自信はないから	222	16.3%
5 活動の内容や方法がわからないから	49	3.6%
6 移動の手段がないから	13	1.0%
7 地域の人とのつきあいが面倒だから	42	3.1%
8 参加する気持ちがないから	138	10.1%
9 家族の理解が得られないから	3	0.2%
10 きっかけがないから	165	12.1%
11 その他	121	8.9%
無効回答	104	7.6%
未回答	104	7.6%
合計	1362	100.0%

付問5-4 現在、地域で活動されていない理由として、どのようなものがありますか。

- 時間がないから
- ☒ 経済的な余裕がないから
- 一緒に活動する仲間がないから
- ☐ 健康や体力面で自信はないから
- 活動の内容や方法がわからないから
- ☒ 移動の手段がないから
- 地域の人とのつきあいが面倒だから
- ☐ 参加する気持ちがないから
- ☐ 家族の理解が得られないから
- ☒ きっかけがないから
- ▨ その他
- 無効回答
- ☒ 未回答

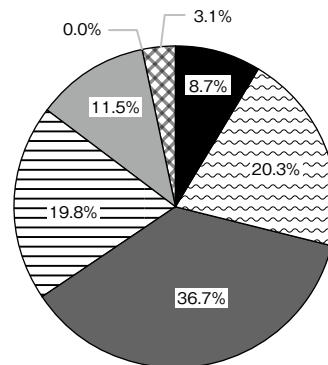


付問5-5 あなたは今後、地域の活動に参加しようと思いますか。

	度数	比率
1 そう思う	118	8.7%
2 まあそう思う	276	20.3%
3 どちらともいえない	500	36.7%
4 あまりそう思わない	269	19.8%
5 そう思わない	157	11.5%
無効回答	0	0.0%
未回答	42	3.1%
合計	1362	100.0%

付問5-5 あなたは今後、地域の活動に参加しようと思いますか。

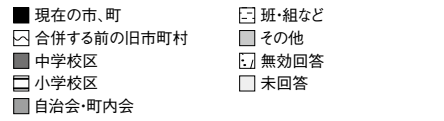
- そう思う
- ☒ まあそう思う
- どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- そう思わない
- 無効回答
- ☒ 未回答



問6 地域の支え合い活動を進めることを考えたときに、あなたが最初に思い浮かべる地域の範囲はどれでしょうか

	度数	比率
1 現在の市、町	347	16.1%
2 合併する前の旧市町村	67	3.1%
3 中学校区	26	1.2%
4 小学校区	176	8.2%
5 自治会・町内会	1226	56.9%
6 班・組など	185	8.6%
7 その他	32	1.5%
無効回答	22	1.0%
未回答	75	3.5%
合計	2156	100.0%

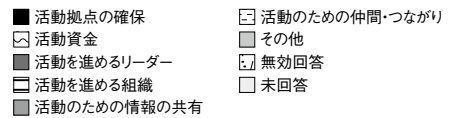
問6 地域の支え合い活動を進めることを考えたときに、あなたが最初に思い浮かべる地域の範囲はどれでしょうか



問7 地域で支え合うために、あなたは何が最も大切な条件だと思いますか。

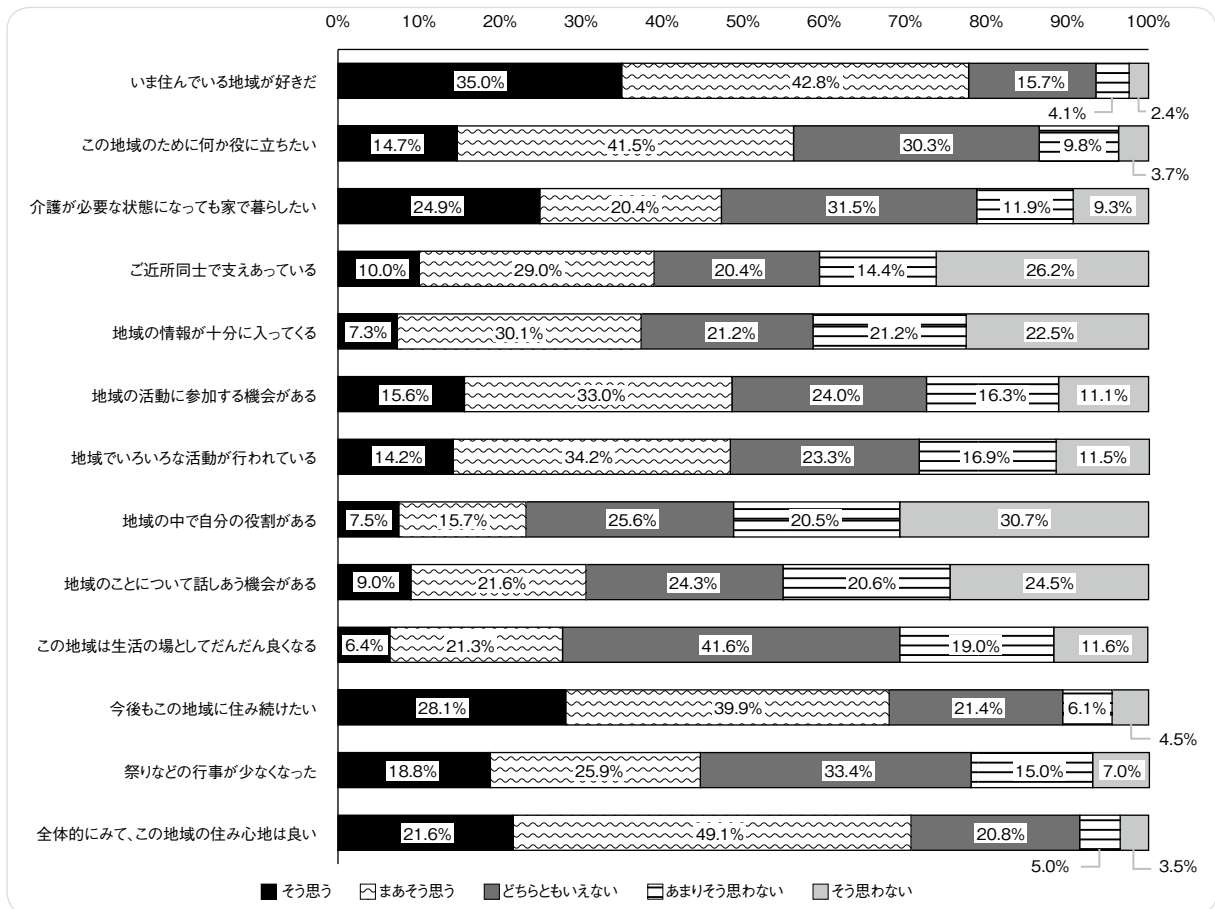
	度数	比率
1 活動拠点の確保	70	3.2%
2 活動資金	107	5.0%
3 活動を進めるリーダー	350	16.2%
4 活動を進める組織	362	16.8%
5 活動のための情報の共有	220	10.2%
6 活動のための仲間・つながり	851	39.5%
7 その他	45	2.1%
無効回答	34	1.6%
未回答	117	5.4%
合計	2156	100.0%

問7 地域で支え合うために、あなたは何が最も大切な条件だと思いますか。



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。

	そう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無効回答	未回答	合計
いま住んでいる地域が好きだ	740 35.0%	904 42.8%	331 15.7%	87 4.1%	51 2.4%	4	39	2156
この地域のために何か役に立ちたい	303 14.7%	858 41.5%	627 30.3%	203 9.8%	76 3.7%	0	89	2156
介護が必要な状態になっても家で暮らしたい	524 24.9%	474 20.4%	663 31.5%	251 11.9%	195 9.3%	3	46	2156
ご近所同士で支えあっている	241 10.0%	698 29.0%	491 20.4%	346 14.4%	631 26.2%	0	111	2518
地域の情報が十分に入ってくる	165 7.3%	676 30.1%	477 21.2%	422 21.2%	505 22.5%	1	85	2331
地域の活動に参加する機会がある	319 15.6%	676 33.0%	491 24.0%	334 16.3%	228 11.1%	7	101	2156
地域でいろいろな活動が行われている	291 14.2%	701 34.2%	477 23.3%	346 16.9%	236 11.5%	2	103	2156
地域の中で自分の役割がある	155 7.5%	322 15.7%	527 25.6%	422 20.5%	631 30.7%	1	98	2156
地域のことについて話しあう機会がある	186 9.0%	446 21.6%	502 24.3%	426 20.6%	505 24.5%	0	91	2156
この地域は生活の場としてだんだん良くなる	131 6.4%	436 21.3%	850 41.6%	388 19.0%	238 11.6%	1	111	2155
今後もこの地域に住み続けたい	580 28.1%	825 39.9%	443 21.4%	127 6.1%	92 4.5%	4	85	2156
祭りなどの行事が少なくなった	379 18.8%	523 25.9%	675 33.4%	302 15.0%	141 7.0%	2	134	2156
全体的にみて、この地域の住み心地は良い	444 21.6%	1010 49.1%	428 20.8%	102 5.0%	73 3.5%	2	97	2156

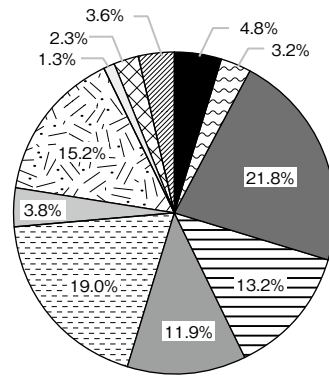


問9 あなたが考える「誰もが安心して心豊かに暮らしていることができる地域（まち）」とは、どのような地域（まち）だと思いますか。

	度数	比率
1 地域活動にいろいろな人が参加しやすい地域	104	4.8%
2 趣味活動・スポーツなどに取り組みやすい地域	68	3.2%
3 福祉サービスが充実している地域	469	21.8%
4 防災・安全対策が充実している地域	284	13.2%
5 次世代を育む環境が充実している地域	257	11.9%
6 ご近所同士で日頃から助け合えることができる地域	410	19.0%
7 地域社会の一員であることを実感できる地域	82	3.8%
8 暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域	327	15.2%
9 その他	27	1.3%
無効回答	50	2.3%
未回答	78	3.6%
合計	2156	100.0%

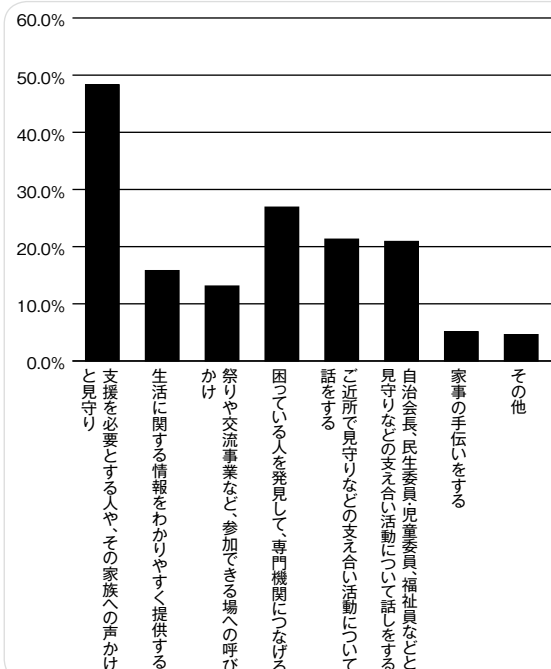
問9 あなたが考える「誰もが安心して心豊かに暮らしていることができる地域（まち）」とは、どのような地域（まち）だと思いますか。

- 地域活動にいろいろな人が参加しやすい地域
- ▨ 趣味活動・スポーツなどに取り組みやすい地域
- 福祉サービスが充実している地域
- ▨ 防災・安全対策が充実している地域
- 次世代を育む環境が充実している地域
- ▨ ご近所同士で日頃から助け合えることができる地域
- ▨ 地域社会の一員であることを実感できる地域
- ▨ 暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域
- その他
- 無効回答
- ▨ 未回答



問10 高齢者や障害のある人（子ども）、引きこもり（不登校）の人、少し気がかりな人（子ども）など、支援を必要とする人や家庭に対し、地域で支えるためにあなたができることとして、どのようなことがありますか。

	度数	比率
1 支援を必要とする人や、その家族への声かけと見守り	1041	48.3%
2 生活に関する情報をわかりやすく提供する	340	15.8%
3 祭りや交流事業など、参加できる場への呼びかけ	283	13.1%
4 困っている人を発見して、専門機関につなげる	579	26.9%
5 ご近所で見守りなどの支え合い活動について話をする	460	21.3%
6 自治会長、民生委員・児童委員、福祉員などに見守りなどの支え合い活動について話しをする	451	20.9%
7 家事の手伝いをする	109	5.1%
8 その他	100	4.6%
未回答	174	

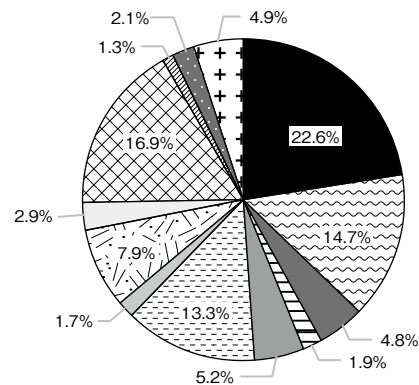


問11 「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域づくり」を進めていくために、市や町の行政に期待する役割としてどのようなことがありますか。

	度数	比率
1 地域における福祉サービスの向上を図る	488	22.6%
2 福祉に関するわかりやすい情報を提供する	316	14.7%
3 地域活動への資金的な支援をもっとする	103	4.8%
4 地域活動などを行う拠点を確保する	40	1.9%
5 地域で活躍されている人や団体等の連携づくりを支援する	112	5.2%
6 お互いに助け合うという意識を醸成する	287	13.3%
7 福祉活動の意義と重要性をもっとお知らせする	36	1.7%
8 福祉活動に携わる人の育成や支援をする人を配置する	170	7.9%
9 個人の趣味や活動を活かせる場所を提供する	63	2.9%
10 困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる	364	16.9%
11 その他	27	1.3%
無効回答	45	2.1%
未回答	105	4.9%
合計	2156	100.0%

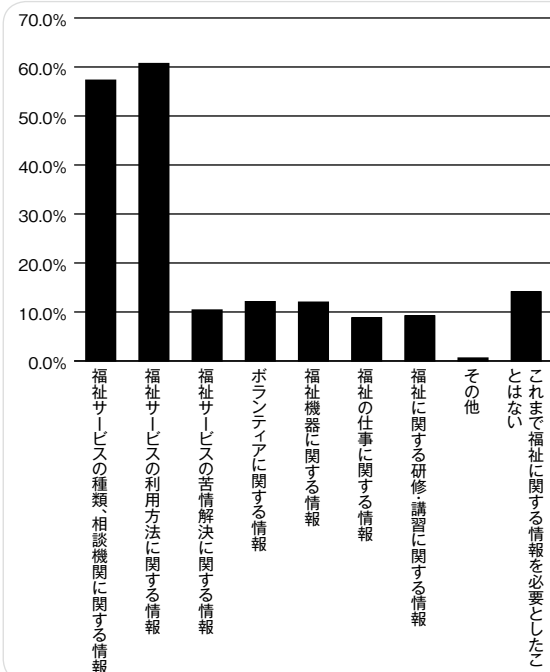
問11 「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域づくり」を進めていくために、市や町の行政に期待する役割としてどのようなことがありますか。

- 地域における福祉サービスの向上を図る
- 福祉に関するわかりやすい情報を提供する
- 地域活動への資金的な支援をもっとする
- 地域活動などを行う拠点を確保する
- 地域で活躍されている人や団体等の連携づくりを支援する
- お互いに助け合うという意識を醸成する
- 福祉活動の意義と重要性をもっとお知らせする
- 福祉活動に携わる人の育成や支援をする人を配置する
- 個人の趣味や活動を活かせる場所を提供する
- 困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる
- その他
- 無効回答
- 未回答



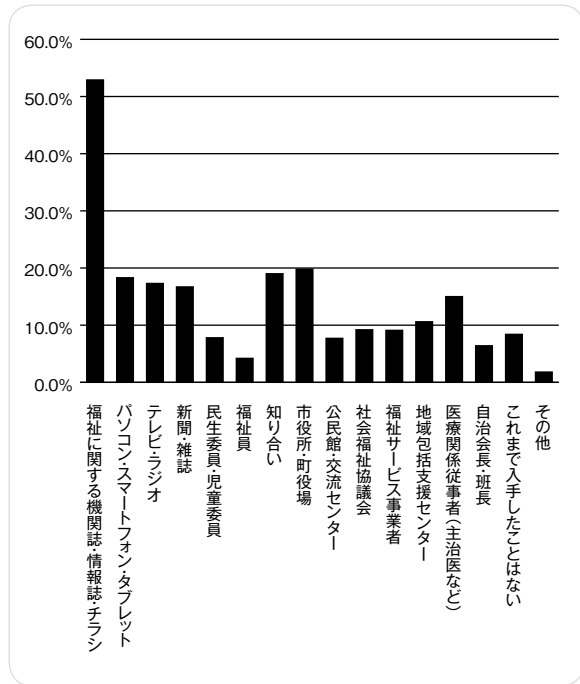
問12 あなたは福祉に関する情報について、どのような情報が必要ですか。

	度数	比率
1 福祉サービスの種類、相談機関に関する情報	1235	57.3%
2 福祉サービスの利用方法に関する情報	1308	60.7%
3 福祉サービスの苦情解決に関する情報	225	10.4%
4 ボランティアに関する情報	261	12.1%
5 福祉機器に関する情報	258	12.0%
6 福祉の仕事に関する情報	189	8.8%
7 福祉に関する研修・講習に関する情報	199	9.2%
8 その他	13	0.6%
9 これまで福祉に関する情報を必要としたことはない	303	14.1%
未回答	120	



付問12-1 あなたは福祉に関する情報を、どこから入手していますか。

	度数	比率
1 福祉に関する機関誌・情報誌・チラシ	917	52.9%
2 パソコン・スマートフォン・タブレット	317	18.3%
3 テレビ・ラジオ	300	17.3%
4 新聞・雑誌	289	16.7%
5 民生委員・児童委員	135	7.8%
6 福祉員	72	4.2%
7 知り合い	329	19.0%
8 市役所・町役場	344	19.8%
9 公民館・交流センター	134	7.7%
10 社会福祉協議会	160	9.2%
11 福祉サービス事業者	157	9.1%
12 地域包括支援センター	184	10.6%
13 医療関係従事者（主治医など）	260	15.0%
14 自治会長・班長	111	6.4%
15 これまで入手したことはない	146	8.4%
16 その他	32	1.8%
未回答	129	

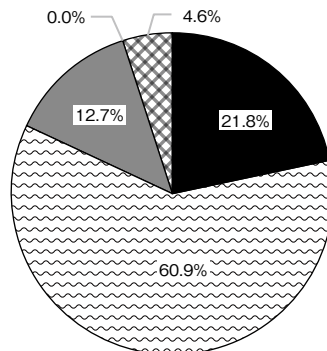


問13 あなたは、市や町の社会福祉協議会を知っていますか。

	度数	比率
1 名前も活動内容もよく知っている。	469	21.8%
2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	1314	60.9%
3 名前も活動内容も知らない	273	12.7%
無効回答	0	0.0%
未回答	100	4.6%
合計	2156	100.0%

問13 あなたは、市や町の社会福祉協議会を知っていますか。

- 名前も活動内容もよく知っている。
- ▨ 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない
- 名前も活動内容も知らない
- 無効回答
- ⊠ 未回答

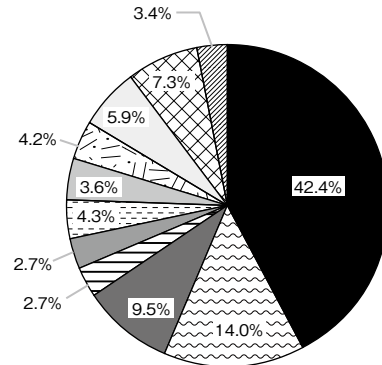


付問13-1 あなたは、どのようにして市や町の社会福祉協議会を知りましたか。

	度数	比率
1 社会福祉協議会の広報紙を見たことがある	756	42.4%
2 新聞や地域の情報誌、テレビなどで見たことがある	250	14.0%
3 家族や友人から話を聞いたことがある	169	9.5%
4 福祉員から話を聞いたことがある	48	2.7%
5 民生委員・児童委員から話を聞いたことがある	49	2.7%
6 社会福祉協議会が主催する事業に参加したことがある	76	4.3%
7 社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用したことがある	65	3.6%
8 地域の活動やボランティア活動を通じて知った	74	4.2%
9 その他	105	5.9%
無効回答	130	7.3%
未回答	61	3.4%
合計	1783	100.0%

付問13-1 あなたは、どのようにして市や町の社会福祉協議会を知りましたか。

- 社会福祉協議会の広報紙を見たことがある
- ☒ 新聞や地域の情報誌、テレビなどで見たことがある
- 家族や友人から話を聞いたことがある
- ☐ 福祉員から話を聞いたことがある
- 民生委員・児童委員から話を聞いたことがある
- ☒ 社会福祉協議会が主催する事業に参加したことがある
- ☐ 社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用したことがある
- ☒ 地域の活動やボランティア活動を通じて知った
- ☐ その他
- ☒ 無効回答
- ☒ 未回答

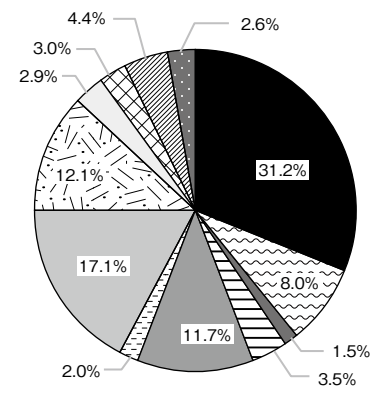


付問13-2 あなたは、社会福祉協議会の仕事について、どのような印象を持っていますか。

	度数	比率
1 高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところ	557	31.2%
2 障がいのある人に関する支援をするところ	143	8.0%
3 子どもに関する支援をするところ	26	1.5%
4 ボランティア活動を支援するところ	62	3.5%
5 暮らしの困りごとについて相談を受けるところ	208	11.7%
6 福祉に関する研修会を実施するところ	35	2.0%
7 福祉サービスを提供するところ	305	17.1%
8 募金や寄附を集め、いろいろな事業を行っているところ	216	12.1%
9 生活困窮者への生活支援を行っているところ	52	2.9%
10 その他	53	3.0%
無効回答	79	4.4%
未回答	47	2.6%
合計	1783	100.0%

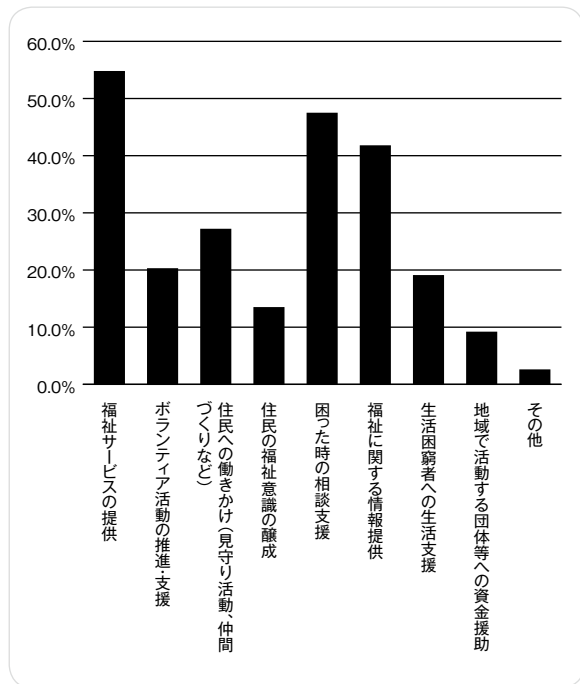
付問13-2 あなたは、社会福祉協議会の仕事について、どのような印象を持っていますか。

- 高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところ
- ☒ 障がいのある人に関する支援をするところ
- 子どもに関する支援をするところ
- ☐ ボランティア活動を支援するところ
- 暮らしの困りごとについて相談を受けるところ
- ☒ 福祉に関する研修会を実施するところ
- ☐ 福祉サービスを提供するところ
- ☒ 募金や寄附を集め、いろいろな事業を行っているところ
- ☐ 生活困窮者への生活支援を行っているところ
- ☒ その他
- ☒ 無効回答
- ☒ 未回答



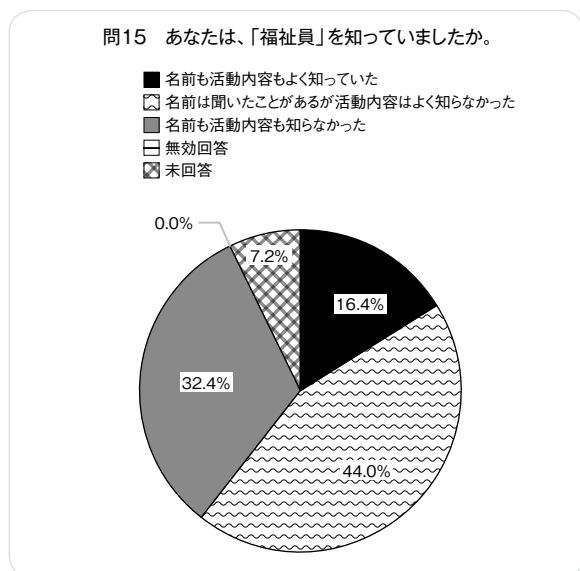
問14 あなたは、今後、市や町の社会福祉協議会にどのような役割を期待しますか。

	度数	比率
1 福祉サービスの提供	1180	54.7%
2 ボランティア活動の推進・支援	436	20.2%
3 住民への働きかけ（見守り活動、仲間づくりなど）	584	27.1%
4 住民の福祉意識の醸成	288	13.4%
5 困った時の相談支援	1021	47.4%
6 福祉に関する情報提供	900	41.7%
7 生活困窮者への生活支援	410	19.0%
8 地域で活動する団体等への資金援助	196	9.1%
9 その他	53	2.5%
未回答	119	



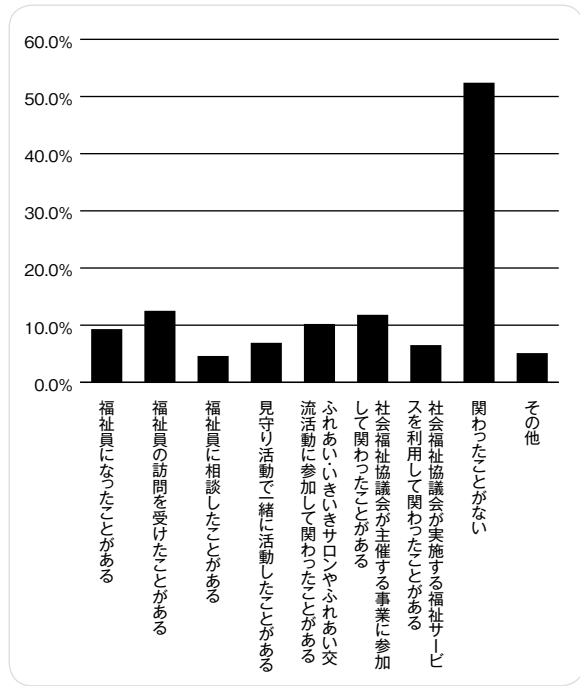
問15 あなたは、「福祉員」を知っていましたか。

	度数	比率
1 名前も活動内容もよく知っていた	353	16.4%
2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らなかった	949	44.0%
3 名前も活動内容も知らなかった	698	32.4%
無効回答	0	0.0%
未回答	156	7.2%
合計	2156	100.0%



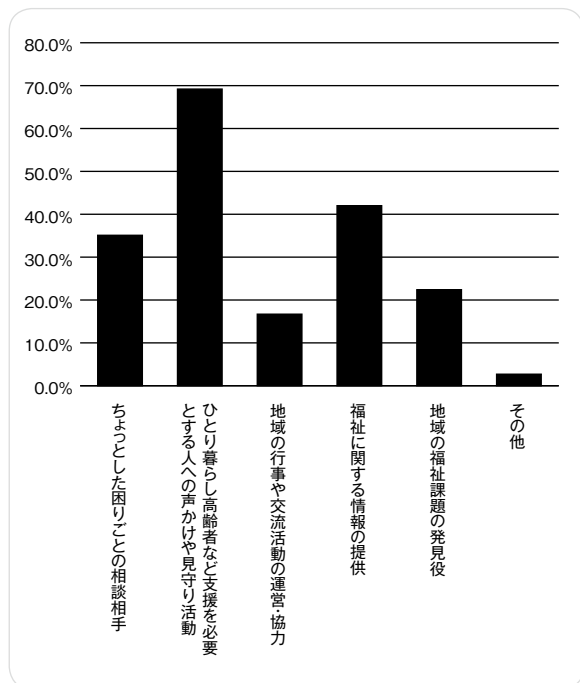
付問15-1 あなたは、これまで福祉員とどのような関わりがありましたか。

	度数	比率
1 福祉員になったことがある	120	9.2%
2 福祉員の訪問を受けたことがある	162	12.4%
3 福祉員に相談したことがある	58	4.5%
4 見守り活動と一緒に活動したことがある	89	6.8%
5 ふれあい・いきいきサロンやふれあい交流活動に参加して関わったことがある	131	10.1%
6 社会福祉協議会が主催する事業に参加して関わったことがある	152	11.7%
7 社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用して関わったことがある	83	6.4%
8 関わったことがない	681	52.3%
9 その他	65	5.0%
未回答	45	



問16 今後、「福祉員」に期待する役割としてどのようなことがありますか。

	度数	比率
1 ちょっとした困りごとの相談相手	756	35.1%
2 ひとり暮らし高齢者など支援を必要とする人への声かけや見守り活動	1493	69.2%
3 地域の行事や交流活動の運営・協力	360	16.7%
4 福祉に関する情報の提供	906	42.0%
5 地域の福祉課題の発見役	482	22.4%
6 その他	58	2.7%
未回答	132	

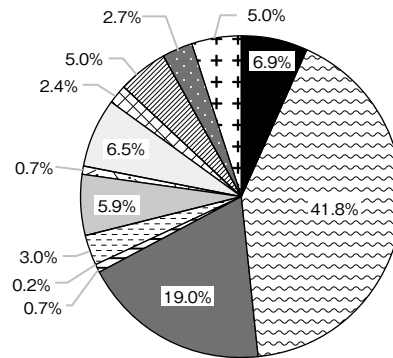


問17 もし、あなたの地域に、次のような方がいたら、災害時に備えて、あなたはどのように取組ますか。  
災害時に一人で避難することが難しいと思われる、一人暮らしの高齢者

	度数	比率
1 自分で避難の手伝いをするつもりである	149	6.9%
2 近所の人と一緒に避難の手伝いをするつもりである	902	41.8%
3 自治会・町内会で話し合う	409	19.0%
4 地区社会福祉協議会・まちづくり協議会で話し合う	16	0.7%
5 NPOなどの支援団体を紹介する	5	0.2%
6 地域包括支援センターなどの専門職に相談する	64	3.0%
7 市役所の福祉関係課に相談する	128	5.9%
8 市町社会福祉協議会に相談する	16	0.7%
9 警察・消防に相談する	141	6.5%
10 その他	51	2.4%
11 特に対応しない	108	5.0%
無効回答	59	2.7%
未回答	108	5.0%
合計	2156	100.0%

問17 もし、あなたの地域に災害時に一人で避難することが難しいと思われる、一人暮らしの高齢者の方がいたら、災害時に備えて、あなたはどのように取組ますか。

- 自分で避難の手伝いをするつもりである
- ▣ 近所の人と一緒に避難の手伝いをするつもりである
- 自治会・町内会で話し合う
- ▣ 地区社会福祉協議会・まちづくり協議会で話し合う
- NPOなどの支援団体を紹介する
- ▣ 地域包括支援センターなどの専門職に相談する
- 市役所の福祉関係課に相談する
- ▣ 市町社会福祉協議会に相談する
- 警察・消防に相談する
- ▣ その他
- ▨ 特に対応しない
- 無効回答
- ▣ 未回答

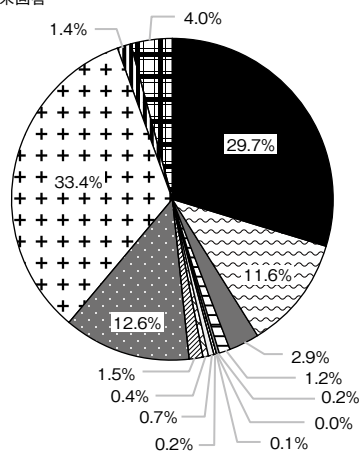


問18 あなたには、災害時に備えて家族・親族以外で、戸締まりや避難などのお手伝いを頼める方がいらっしゃいますか。

	度数	比率
1 近所の人	640	29.7%
2 友人	250	11.6%
3 自治会関係者	63	2.9%
4 民生委員・児童委員	26	1.2%
5 福祉員	4	0.2%
6 地区社会福祉協議会の関係者	0	0.0%
7 市町社会福祉協議会の関係者	3	0.1%
8 市町行政の関係者	4	0.2%
9 職場の関係者	16	0.7%
10 社会福祉施設などの関係者	8	0.4%
11 その他	32	1.5%
12 手伝いを頼みたいが、いない	272	12.6%
13 自分でできるので、いない	720	33.4%
無効回答	31	1.4%
未回答	87	4.0%
合計	2156	100.0%

問18 あなたには、災害時に備えて家族・親族以外で、戸締まりや避難などのお手伝いを頼める方がいらっしゃいますか。

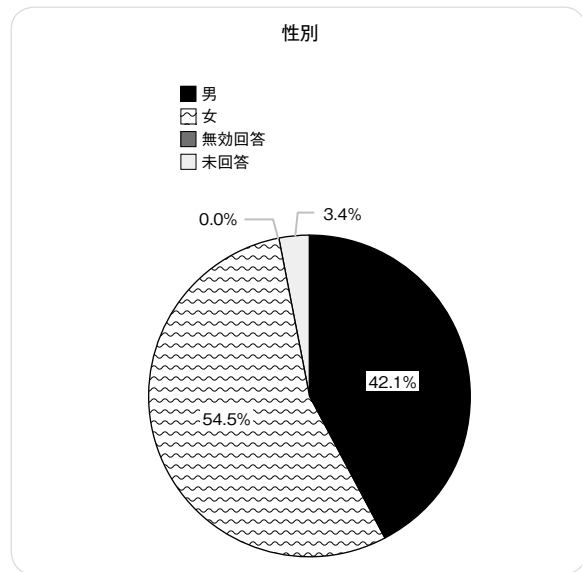
- 近所の人
- ▣ 友人
- 自治会関係者
- 民生委員・児童委員
- 福祉員
- ▣ 地区社会福祉協議会の関係者
- ▣ 市町社会福祉協議会の関係者
- ▣ 市町行政の関係者
- ▣ 職場の関係者
- ▣ 社会福祉施設などの関係者
- ▣ その他
- 手伝いを頼みたいが、いない
- ▣ 自分でできるので、いない
- 無効回答
- ▣ 未回答



最後に、あなた自身のことについておたずねします。

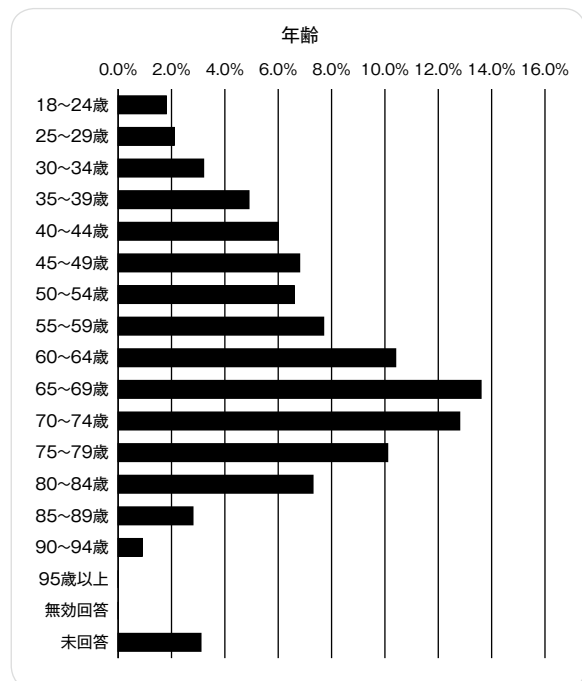
F1 性別

	度数	比率
男	907	42.1%
女	1175	54.5%
無効回答	0	0.0%
未回答	74	3.4%
合計	2156	100.0%



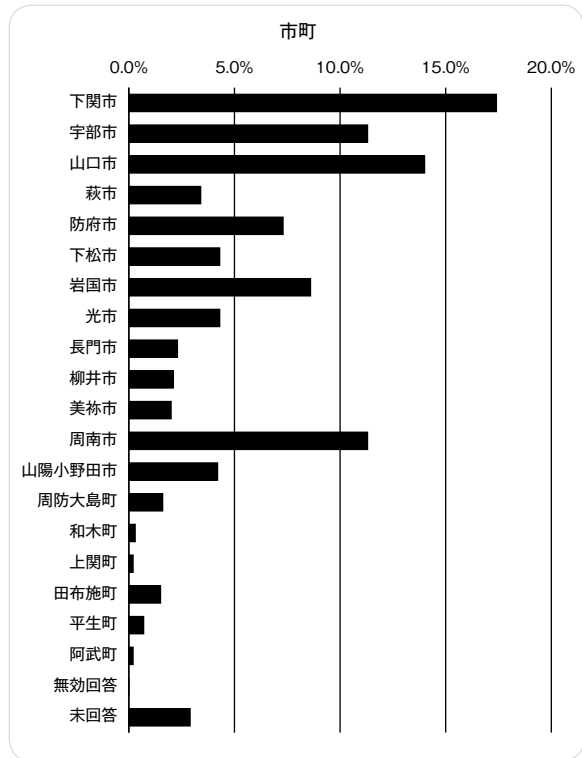
F2 年齢

	度数	比率
18～24歳	39	1.8%
25～29歳	45	2.1%
30～34歳	68	3.2%
35～39歳	105	4.9%
40～44歳	129	6.0%
45～49歳	147	6.8%
50～54歳	143	6.6%
55～59歳	165	7.7%
60～64歳	225	10.4%
65～69歳	293	13.6%
70～74歳	275	12.8%
75～79歳	217	10.1%
80～84歳	158	7.3%
85～89歳	61	2.8%
90～94歳	19	0.9%
95歳以上	1	0.0%
無効回答	0	0.0%
未回答	66	3.1%
合計	2156	100.0%



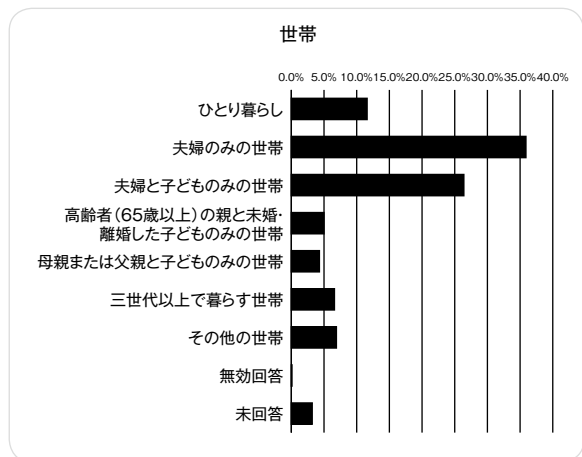
F3 お住まいの市町

	度数	比率
下関市	375	17.4%
宇部市	243	11.3%
山口市	302	14.0%
萩市	74	3.4%
防府市	158	7.3%
下松市	92	4.3%
岩国市	186	8.6%
光市	93	4.3%
長門市	49	2.3%
柳井市	45	2.1%
美祿市	44	2.0%
周南市	243	11.3%
山陽小野田市	91	4.2%
周防大島町	35	1.6%
和木町	6	0.3%
上関町	4	0.2%
田布施町	32	1.5%
平生町	16	0.7%
阿武町	5	0.2%
無効回答	0	0.0%
未回答	63	2.9%
合計	2156	100.0%



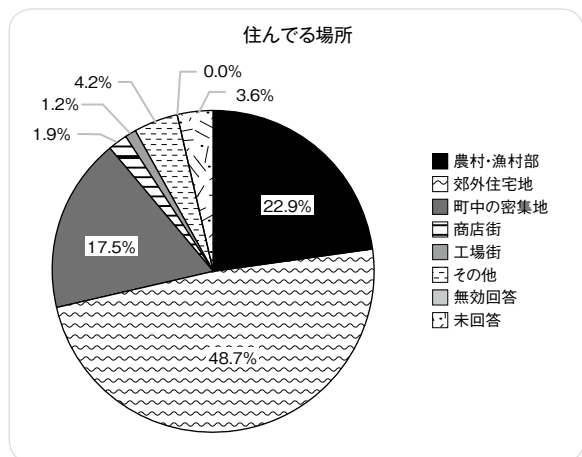
F4 世帯

	度数	比率
ひとり暮らし	250	11.6%
夫婦のみの世帯	773	35.9%
夫婦と子どものみの世帯	570	26.4%
高齢者（65歳以上）の親と未婚・離婚した子どものみの世帯	107	5.0%
母親または父親と子どものみの世帯	92	4.3%
三世代以上で暮らす世帯	143	6.6%
その他の世帯	149	6.9%
無効回答	2	0.1%
未回答	70	3.2%
合計	2156	100.0%



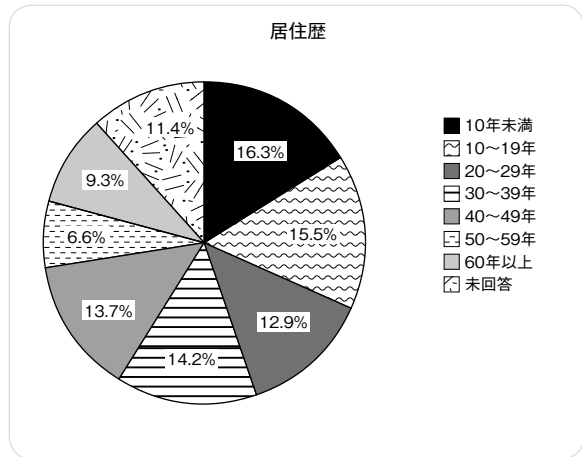
F5 住んでる場所

	度数	比率
農村・漁村部	494	22.9%
郊外住宅地	1049	48.7%
町中の密集地	378	17.5%
商店街	41	1.9%
工場街	25	1.2%
その他	90	4.2%
無効回答	1	0.0%
未回答	78	3.6%
合計	2156	100.0%

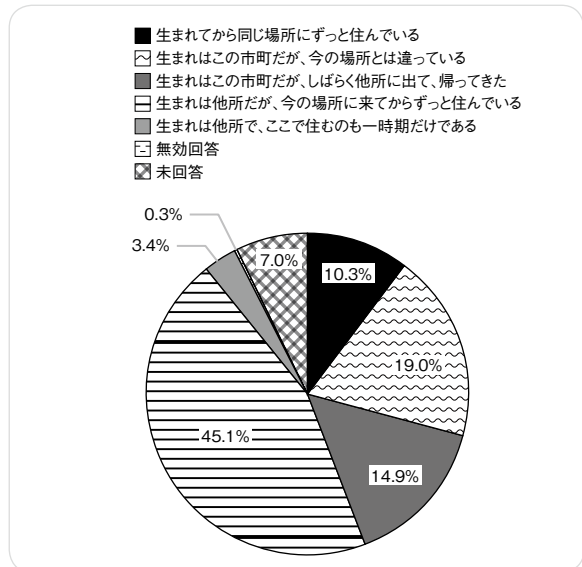


F6 居住歴

	度数	比率
10年未満	352	16.3%
10～19年	334	15.5%
20～29年	279	12.9%
30～39年	306	14.2%
40～49年	295	13.7%
50～59年	143	6.6%
60年以上	201	9.3%
未回答	246	11.4%
合計	2156	100.0%

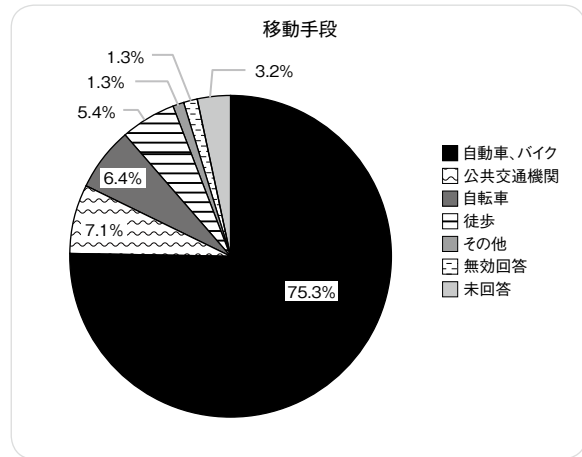


	度数	比率
生まれてから同じ場所にずっと住んでいる	221	10.3%
生まれはこの市町だが、今の場所とは違っている	410	19.0%
生まれはこの市町だが、しばらく他所に出て、帰ってきた	321	14.9%
生まれは他所だが、今の場所に来てからずっと住んでいる	972	45.1%
生まれは他所で、ここで住むのも一時期だけである	74	3.4%
無効回答	7	0.3%
未回答	151	7.0%
合計	2156	100.0%



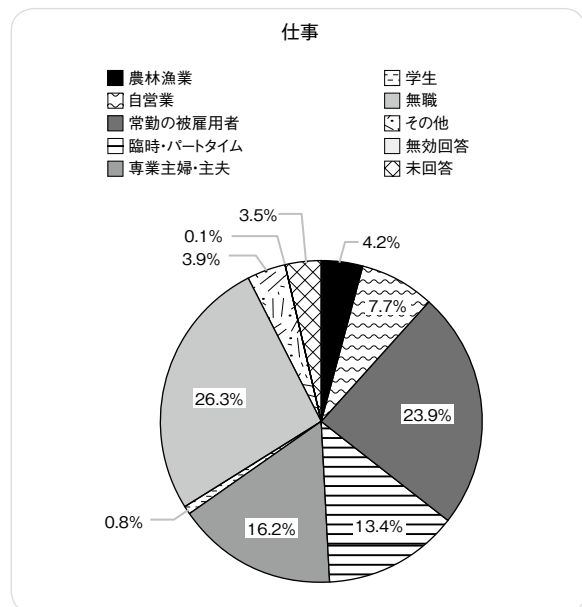
F7 移動手段

	度数	比率
自動車、バイク	1623	75.3%
公共交通機関	152	7.1%
自転車	138	6.4%
徒歩	117	5.4%
その他	27	1.3%
無効回答	29	1.3%
未回答	70	3.2%
合計	2156	100.0%



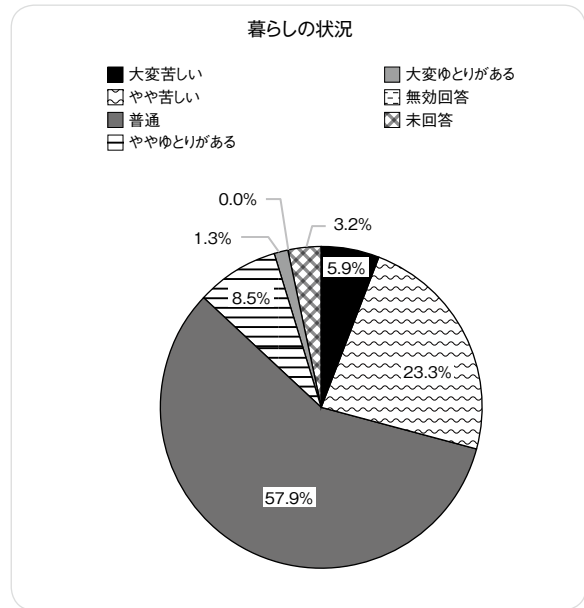
F8 仕事

	度数	比率
農林漁業	91	4.2%
自営業	165	7.7%
常勤の被雇用者	516	23.9%
臨時・パートタイム	289	13.4%
専業主婦・主夫	349	16.2%
学生	17	0.8%
無職	566	26.3%
その他	85	3.9%
無効回答	3	0.1%
未回答	75	3.5%
合計	2156	100.0%



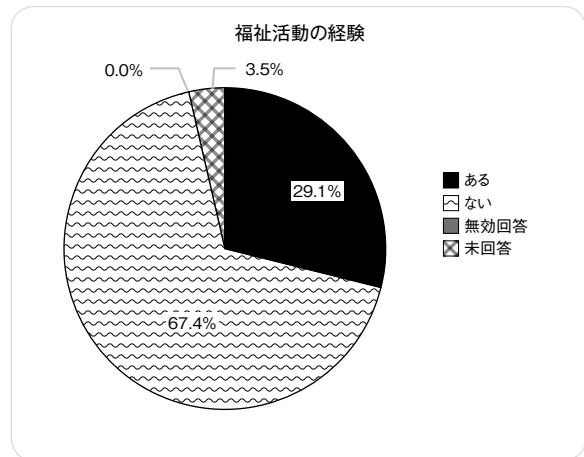
F9 暮らしの状況

	度数	比率
大変苦しい	128	5.9%
やや苦しい	502	23.3%
普通	1248	57.9%
ややゆとりがある	183	8.5%
大変ゆとりがある	27	1.3%
無効回答	0	0.0%
未回答	68	3.2%
合計	2156	100.0%



F10 福祉活動の経験

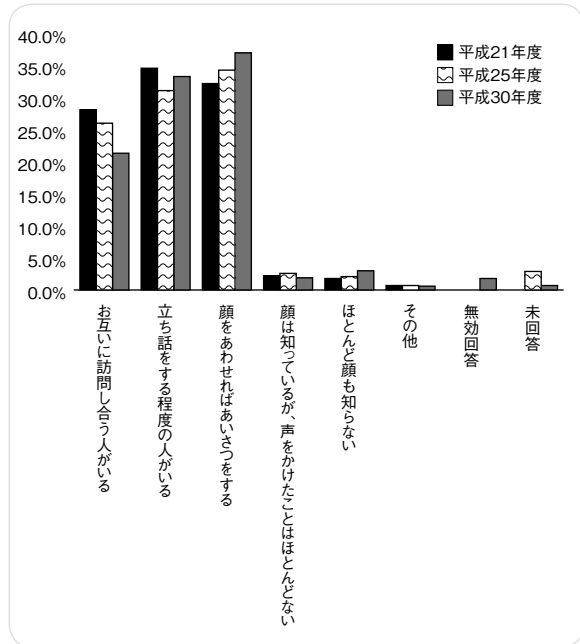
	度数	比率
ある	628	29.1%
ない	1453	67.4%
無効回答	0	0.0%
未回答	75	3.5%
合計	2156	100.0%



### 3. 「福祉に関する県民意識等実態調査」結果（経年比較）

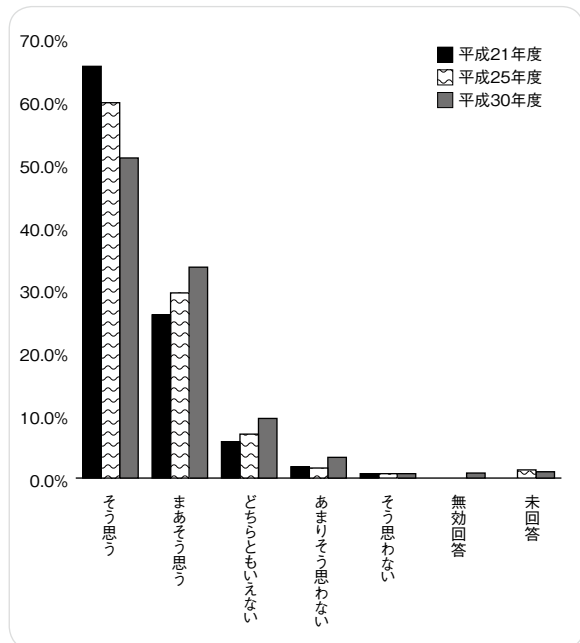
問1 あなたは、ご近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。  
（択一回答）

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
お互いに訪問し合う人がいる	28.2%	26.1%	21.4%
立ち話をする程度の人がある	34.7%	31.2%	33.4%
顔をあわせればあいさつをする	32.3%	34.4%	37.1%
顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない	2.2%	2.6%	1.9%
ほとんど顔も知らない	1.8%	2.1%	3.0%
その他	0.7%	0.7%	0.6%
無効回答			1.8%
未回答		2.9%	0.7%



問2 あなたは、ご近所づきあいが必要だと思いますか。（択一回答）

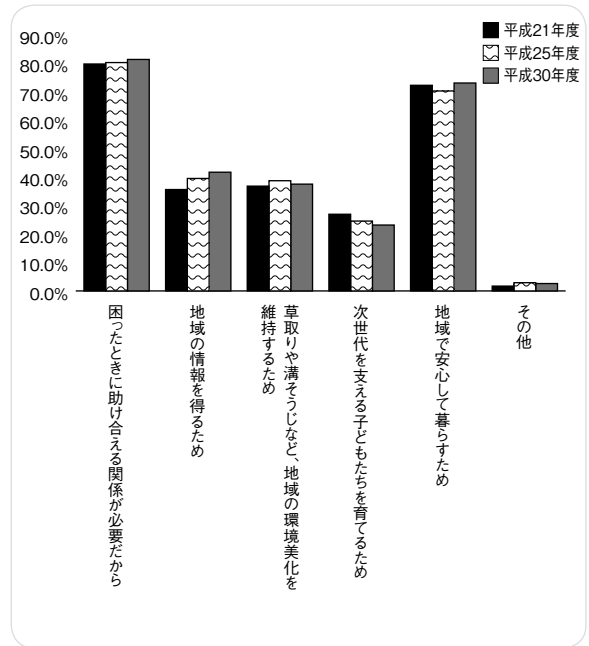
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	65.6%	59.8%	51.0%
まあそう思う	26.0%	29.5%	33.6%
どちらともいえない	5.8%	7%	9.5%
あまりそう思わない	1.8%	1.6%	3.3%
そう思わない	0.7%	0.7%	0.7%
無効回答			0.8%
未回答		1.3%	1.0%



付問2-1 なぜご近所づきあいが必要だと思いますか。(複数回答可)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
困ったときに助け合える関係が必要だから	79.9%	80.4%	81.5%
地域の情報を得るため	35.7%	39.6%	41.8%
草取りや溝そうじなど、地域の環境美化を維持するため	36.9%	38.8%	37.6%
次世代を支える子どもたちを育てるため	27.0%	24.6%	23.2%
地域で安心して暮らすため	72.4%	70.4%	73.2%
その他	1.7%	2.9%	2.6%

※有効回収数からの比率

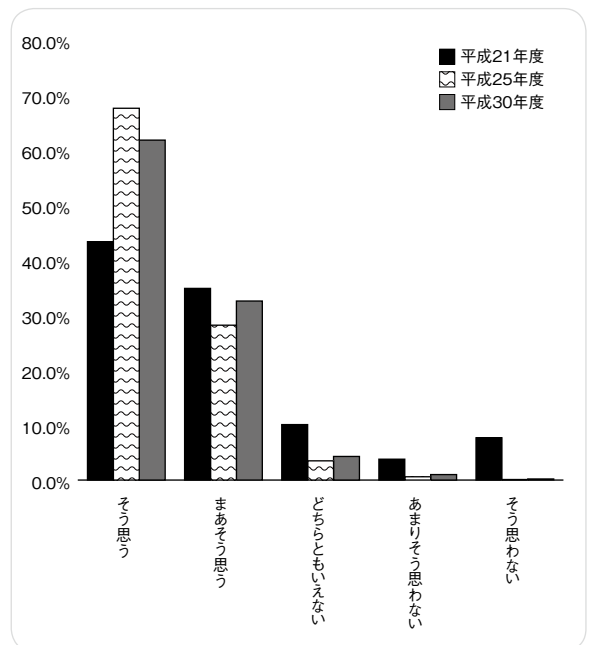


付問2-2 ご近所づきあいを維持・活発にするために必要なものについて、あなたはどのようにお考えですか。(択一回答)

・自ら進んで日頃からご近所同士のつながり(あいさつ等)を持つようにこころがけること

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	43.4%	67.7%	61.9%
まあそう思う	34.9%	28.2%	32.6%
どちらともいえない	10.1%	3.5%	4.3%
あまりそう思わない	3.8%	0.6%	1.0%
そう思わない	7.7%	0.1%	0.2%

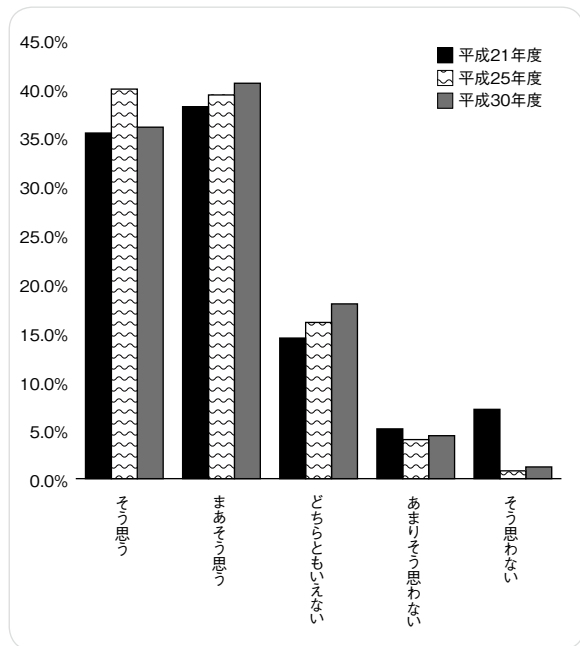
※有効回収数からの比率



付問2-2 ご近所づきあいを維持・活発にするために必要なものについて、あなたはどのようにお考えですか。(択一回答)  
 ・自治会や町内会などが行う交流活(季節行事等)に積極的に参加すること

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	35.4%	39.9%	36.0%
まあそう思う	38.1%	39.3%	40.5%
どちらともいえない	14.4%	16%	17.9%
あまりそう思わない	5.1%	4.0%	4.4%
そう思わない	7.1%	0.8%	1.2%

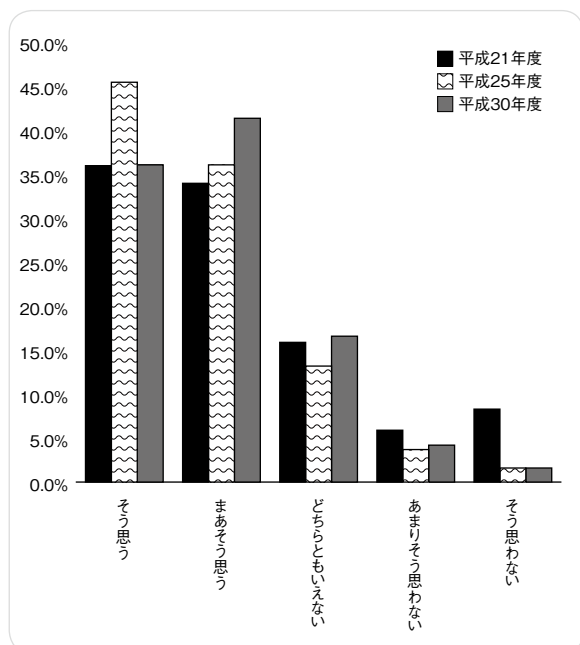
※有効回収数からの比率



付問2-2 ご近所づきあいを維持・活発にするために必要なものについて、あなたはどのようにお考えですか。(択一回答)  
 ・近所づきあいで困った時に相談できる人間関係をつくること

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	36.0%	45.5%	36.1%
まあそう思う	34.0%	36.1%	41.4%
どちらともいえない	15.9%	13.2%	16.6%
あまりそう思わない	5.9%	3.7%	4.2%
そう思わない	8.3%	1.6%	1.6%

※有効回収数からの比率



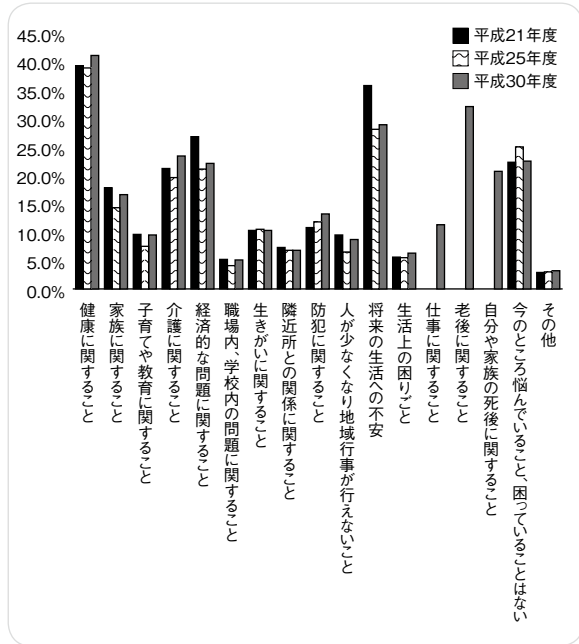
問3 あなた自身が現在、悩んでいること、困っていることは何ですか。  
(複数回答可)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
健康に関すること	39.3%	38.9%	41.1%
家族に関すること	17.8%	14.3%	16.6%
子育てや教育に関すること	9.6%	7.5%	9.5%
介護に関すること	21.2%	19.6%	23.4%
経済的な問題に関すること	26.8%	21.1%	22.1%
職場内、学校内の問題に関すること	5.2%	4.1%	5.1%
生きがいに関すること	10.3%	10.5%	10.3%
隣近所との関係に関すること	7.3%	6.8%	6.8%
防犯に関すること	10.8%	11.8%	13.2%
人が少なくなり地域行事が行えないこと	9.5%	6.5%	8.7%
将来の生活への不安	35.8%	28.1%	28.9%
生活上の困りごと	5.6%	5.5%	6.3%
仕事に関すること			11.3%
老後に関すること			32.1%
自分や家族の死後に関すること			20.7%
今のところ悩んでいること、困っていることはない	22.3%	25.0%	22.5%
その他	2.9%	3.0%	3.2%

※未回答

※有効回収数からの比率

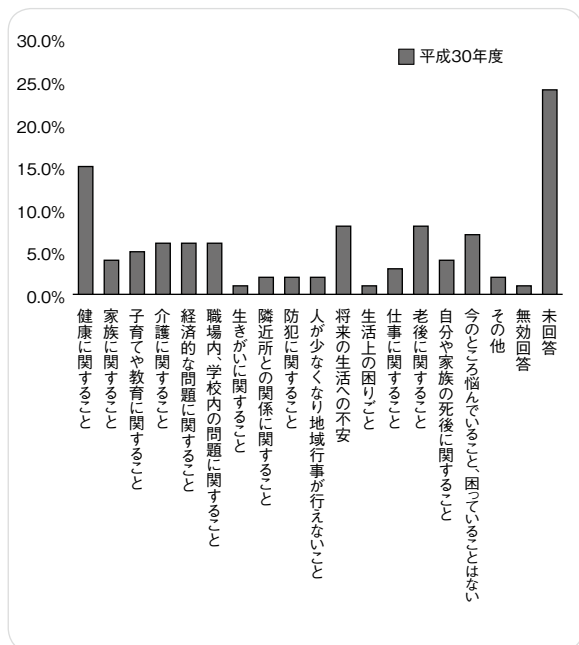
※回答番号13～15は平成30年度新規回答



問3-1 現在、最も悩んでいること、困っていることについて (択一回答)

	平成30年度
健康に関すること	15.0%
家族に関すること	4.0%
子育てや教育に関すること	5.0%
介護に関すること	6.0%
経済的な問題に関すること	6.0%
職場内、学校内の問題に関すること	6.0%
生きがいに関すること	1.0%
隣近所との関係に関すること	2.0%
防犯に関すること	2.0%
人が少なくなり地域行事が行えないこと	2.0%
将来の生活への不安	8.0%
生活上の困りごと	1.0%
仕事に関すること	3.0%
老後に関すること	8.0%
自分や家族の死後に関すること	4.0%
今のところ悩んでいること、困っていることはない	7.0%
その他	2.0%
無効回答	1.0%
未回答	24.0%

※新規設問



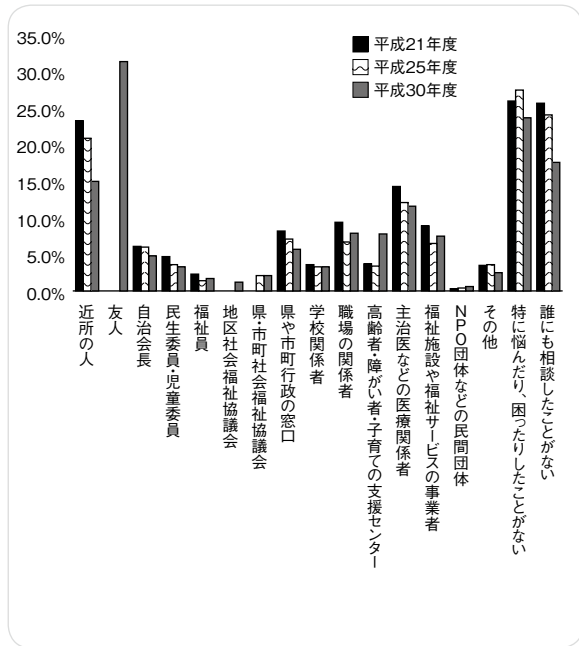
問4 あなたは、これまでに生活上の困りごとや家族の介護、子育てなどを経験する中で、個人や家族だけで解決しづらいときに、家族以外に相談したことがありますか。(複数回答可)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
近所の人	23.3%	20.9%	15.0%
友人			31.4%
自治会長	6.1%	6.0%	4.8%
民生委員・児童委員	4.7%	3.6%	3.3%
福祉員	2.3%	1.4%	1.7%
地区社会福祉協議会			1.2%
県・市町社会福祉協議会		2.1%	2.1%
県や市町行政の窓口	8.2%	7.1%	5.7%
学校関係者	3.6%	3.3%	3.3%
職場の関係者	9.4%	6.7%	7.9%
高齢者・障がい者・子育ての支援センター	3.7%	3.4%	7.8%
主治医などの医療関係者	14.3%	12.1%	11.6%
福祉施設や福祉サービスの事業者	8.9%	6.5%	7.5%
NPO団体などの民間団体	0.3%	0.4%	0.6%
その他	3.5%	3.6%	2.5%
特に悩んだり、困ったりしたことがない	26.0%	27.5%	23.7%
誰にも相談したことがない	25.7%	24.1%	17.6%

※有効回収数からの比率

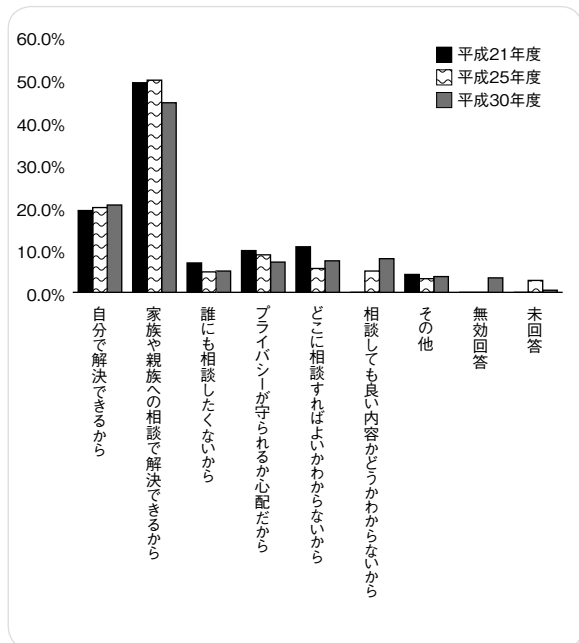
※回答番号2、6は新規回答

※平成25年度「社会福祉協議会」は回答番号7に集約



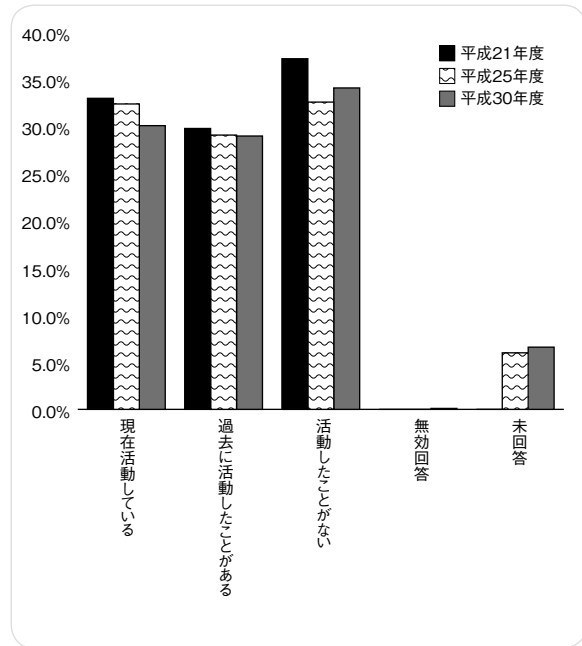
付問4-1 誰にも相談しない理由として、どのようなものがありますか。(択一回答)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
自分で解決できるから	19.2%	19.9%	20.5%
家族や親族への相談で解決できるから	49.2%	49.8%	44.5%
誰にも相談したくないから	6.9%	4.8%	5.0%
プライバシーが守られるか心配だから	9.8%	8.8%	7.1%
どこに相談すればよいかわからないから	10.7%	5.6%	7.4%
相談しても良い内容かどうかわからないから		5.0%	7.9%
その他	4.2%	3.2%	3.7%
無効回答			3.4%
未回答		2.8%	0.5%



問5 あなたは仕事以外に地域で活動されていますか。(択一回答)

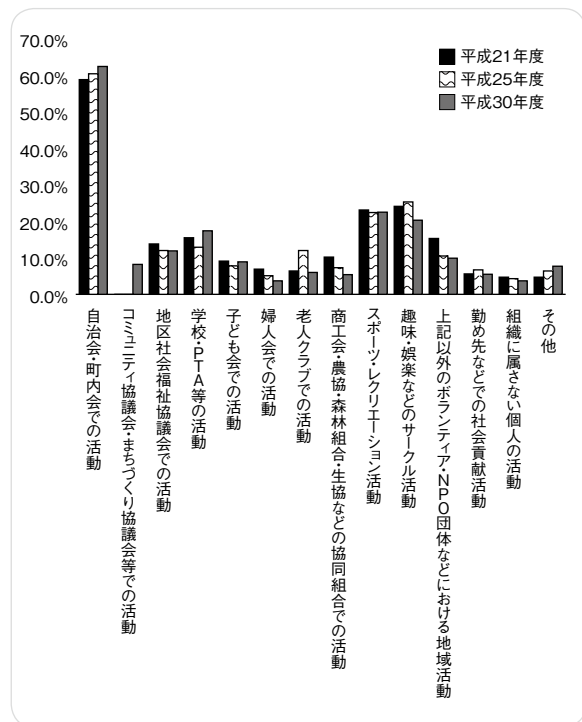
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
現在活動している	33.0%	32.4%	30.1%
過去に活動したことがある	29.8%	29.1%	29.0%
活動したことがない	37.2%	32.6%	34.1%
無効回答			0.1%
未回答		6.0%	6.6%



付問5-1 あなたは地域でどのような活動をしていますか。(複数回答可)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
自治会・町内会での活動	58.8%	60.4%	62.4%
コミュニティ協議会・まちづくり協議会等での活動			8.2%
地区社会福祉協議会での活動	13.8%	12.0%	11.9%
学校・PTA等の活動	15.5%	12.9%	17.4%
子ども会での活動	9.1%	7.8%	8.9%
婦人会での活動	6.9%	5.1%	3.7%
老人クラブでの活動	6.4%	12.0%	6.0%
商工会・農協・森林組合・生協などの協同組合での活動	10.2%	7.3%	5.4%
スポーツ・レクリエーション活動	23.1%	22.4%	22.5%
趣味・娯楽などのサークル活動	24.1%	25.3%	20.3%
上記以外のボランティア・NPO団体などにおける地域活動	15.3%	10.5%	9.9%
勤め先などでの社会貢献活動	5.6%	6.7%	5.5%
組織に属さない個人の活動	4.7%	4.3%	3.7%
その他	4.7%	6.4%	7.7%

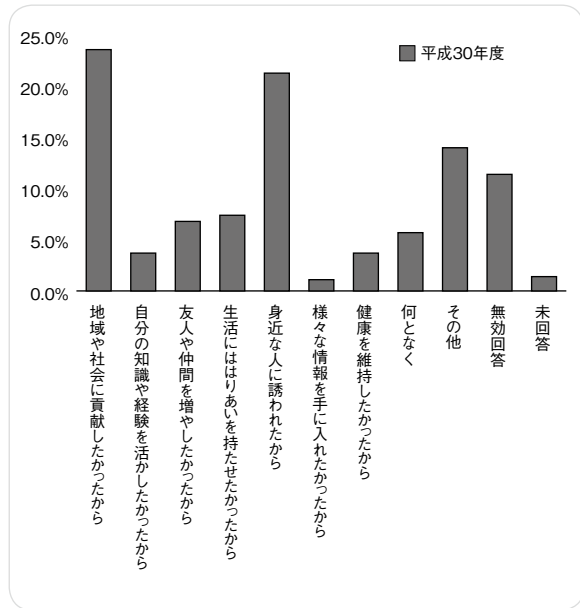
※有効回収数からの比率  
 ※回答番号2は新規回答



付問5-2 付問5-1の活動をされたきっかけはなんですか。(択一回答)

	平成30年度
地域や社会に貢献したかったから	23.6%
自分の知識や経験を活かしたかったから	3.7%
友人や仲間を増やしたかったから	6.8%
生活にははりあいを持たせたかったから	7.4%
身近な人に誘われたから	21.3%
様々な情報を手に入れたかったから	1.1%
健康を維持したかったから	3.7%
何となく	5.7%
その他	14.0%
無効回答	11.4%
未回答	1.4%

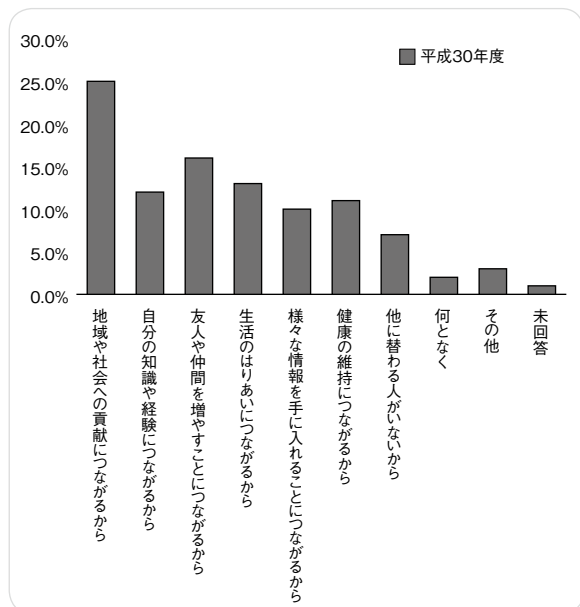
※新規設問



付問5-3 付問5-1の活動を続けている理由として、どのようなものがありますか。(複数回答可)

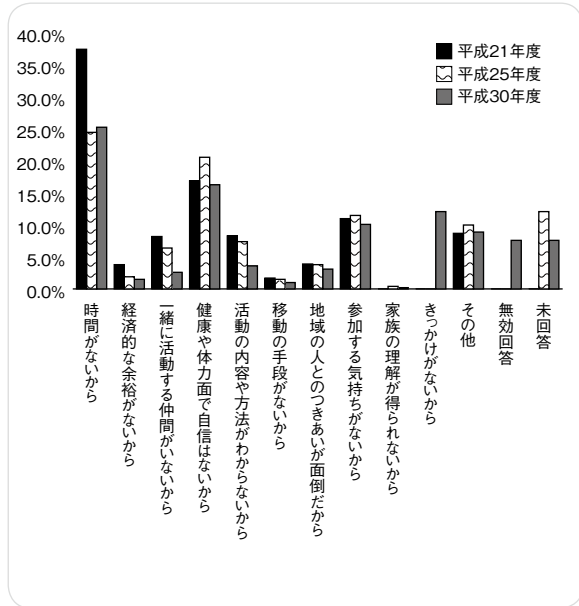
	平成30年度
地域や社会への貢献につながるから	25.0%
自分の知識や経験につながるから	12.0%
友人や仲間を増やすことにつながるから	16.0%
生活のはりあいにつながるから	13.0%
様々な情報を手に入れることにつながるから	10.0%
健康の維持につながるから	11.0%
他に替わる人がいないから	7.0%
何となく	2.0%
その他	3.0%
未回答	1.0%

※平成30年度からの新規設問



付問5-4 現在、地域で活動されていない理由として、どのようなものがありますか。(択一回答)

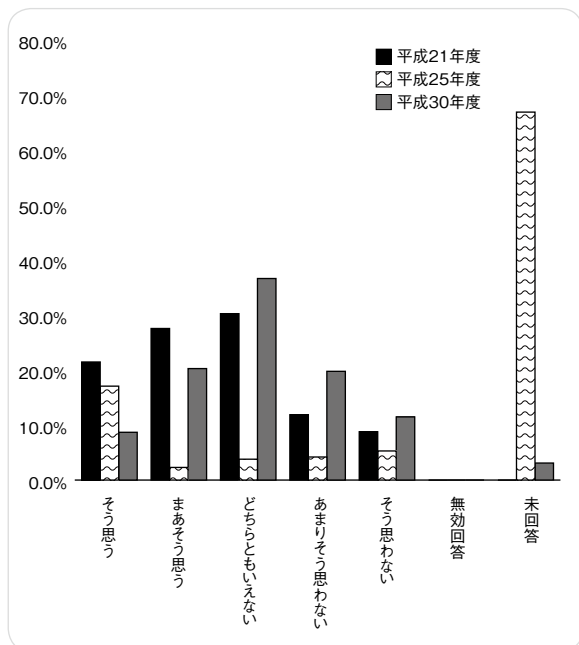
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
時間がないから	37.5%	24.5%	25.3%
経済的な余裕がないから	3.8%	1.9%	1.5%
一緒に活動する仲間がないから	8.2%	6.4%	2.6%
健康や体力面で自信はないから	16.9%	20.6%	16.3%
活動の内容や方法がわからないから	8.3%	7.4%	3.6%
移動の手段がないから	1.7%	1.5%	1.0%
地域の人のつきあいが面倒だから	3.9%	3.8%	3.1%
参加する気持ちがないから	11.0%	11.5%	10.1%
家族の理解が得られないから		0.4%	0.2%
きっかけがないから			12.1%
その他	8.7%	10.0%	8.9%
無効回答			7.6%
未回答		12.1%	7.6%



付問5-5 あなたは今後、地域の活動に参加しようと思いますか。

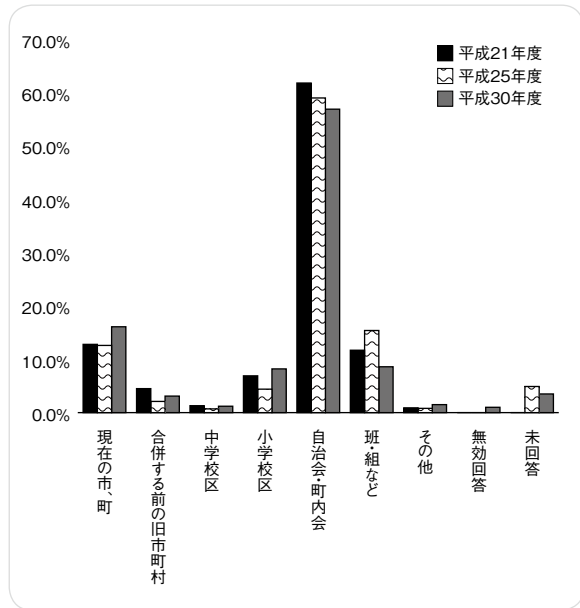
(択一回答)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	21.5%	17.1%	8.7%
まあそう思う	27.6%	2.3%	20.3%
どちらともいえない	30.3%	3.8%	36.7%
あまりそう思わない	11.9%	4.2%	19.8%
そう思わない	8.8%	5.3%	11.5%
無効回答			0.0%
未回答		67.3%	3.1%



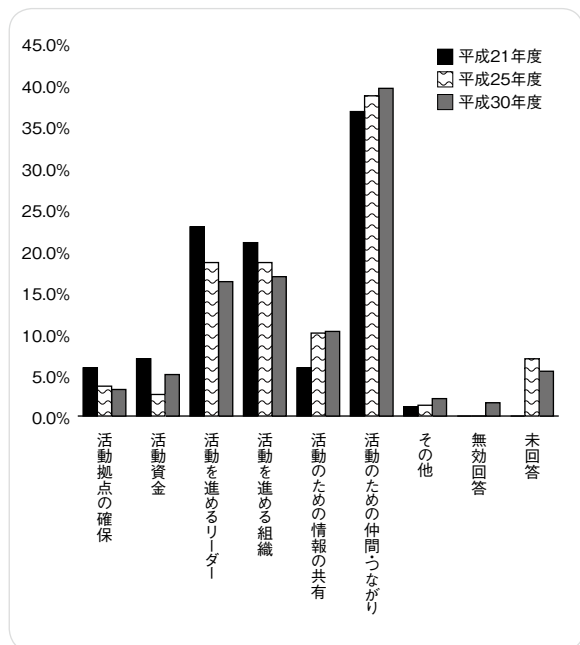
問6 地域の支え合い活動を進めることを考えたときに、あなたが最初に思い浮かべる地域の範囲はどれでしょうか。(択一回答)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
現在の市、町	12.8%	12.6%	16.1%
合併する前の旧市町村	4.5%	2.1%	3.1%
中学校区	1.3%	0.7%	1.2%
小学校区	6.9%	4.4%	8.2%
自治会・町内会	61.8%	59.0%	56.9%
班・組など	11.7%	15.4%	8.6%
その他	0.9%	0.8%	1.5%
無効回答			1.0%
未回答		4.9%	3.5%



問7 地域で支え合うために、あなたは何が最も大切な条件だと思いますか。(択一回答)

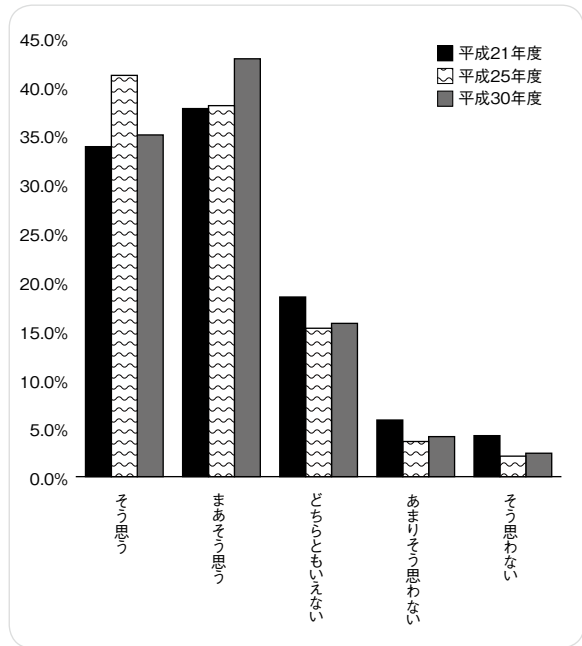
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
活動拠点の確保	5.8%	3.6%	3.2%
活動資金	6.9%	2.6%	5.0%
活動を進めるリーダー	22.8%	18.5%	16.2%
活動を進める組織	20.9%	18.5%	16.8%
活動のための情報の共有	5.8%	10.0%	10.2%
活動のための仲間・つながり	36.7%	38.6%	39.5%
その他	1.1%	1.3%	2.1%
無効回答			1.6%
未回答		6.9%	5.4%



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
いま住んでいる地域が好きだ

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	33.8%	41.1%	35.0%
まあそう思う	37.7%	38.0%	42.8%
どちらともいえない	18.4%	15.2%	15.7%
あまりそう思わない	5.8%	3.6%	4.1%
そう思わない	4.2%	2.1%	2.4%

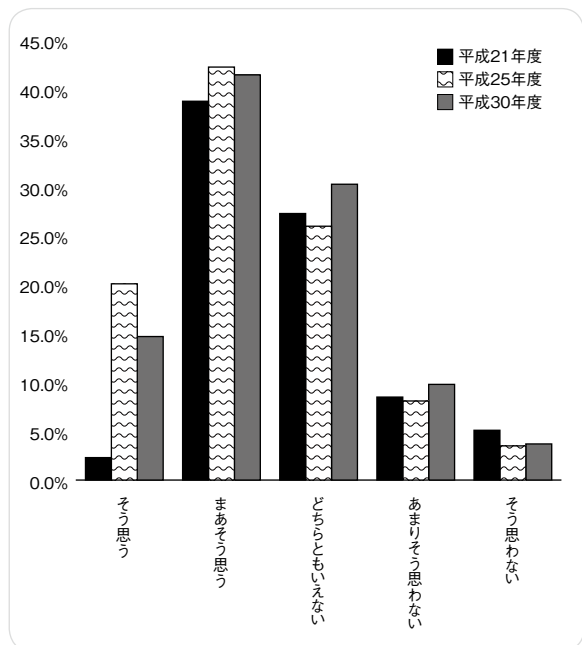
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
この地域のために何か役に立ちたい

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	2.3%	20.1%	14.7%
まあそう思う	38.8%	42.3%	41.5%
どちらともいえない	27.3%	26.0%	30.3%
あまりそう思わない	8.5%	8.1%	9.8%
そう思わない	5.1%	3.5%	3.7%

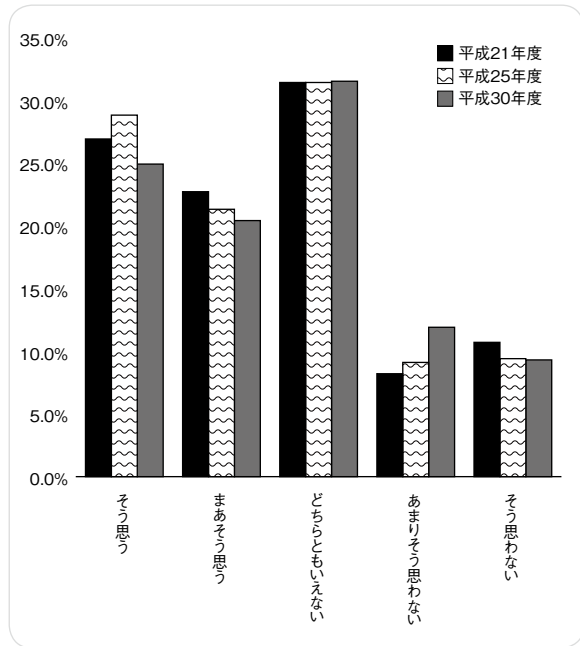
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
介護が必要な状態になっても家で暮らしたい

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	26.9%	28.8%	24.9%
まあそう思う	22.7%	21.3%	20.4%
どちらともいえない	31.4%	31.4%	31.5%
あまりそう思わない	8.2%	9.1%	11.9%
そう思わない	10.7%	9.4%	9.3%

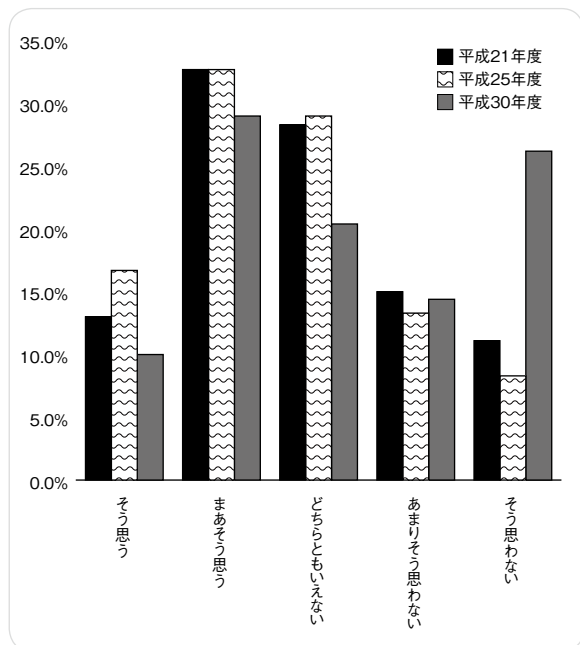
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
ご近所同士で支えあっている

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	13.0%	16.7%	10.0%
まあそう思う	32.7%	32.7%	29.0%
どちらともいえない	28.3%	29.0%	20.4%
あまりそう思わない	15.0%	13.3%	14.4%
そう思わない	11.1%	8.3%	26.2%

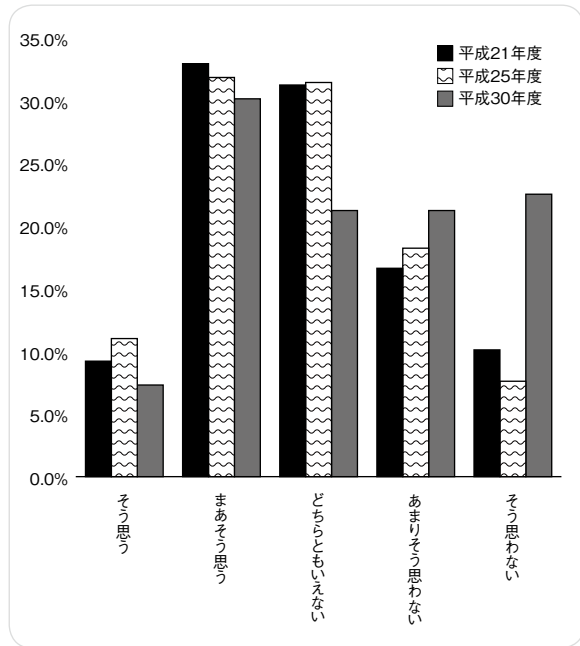
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
地域の情報が十分に入ってくる

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	9.2%	11.0%	7.3%
まあそう思う	32.9%	31.8%	30.1%
どちらともいえない	31.2%	31.4%	21.2%
あまりそう思わない	16.6%	18.2%	21.2%
そう思わない	10.1%	7.6%	22.5%

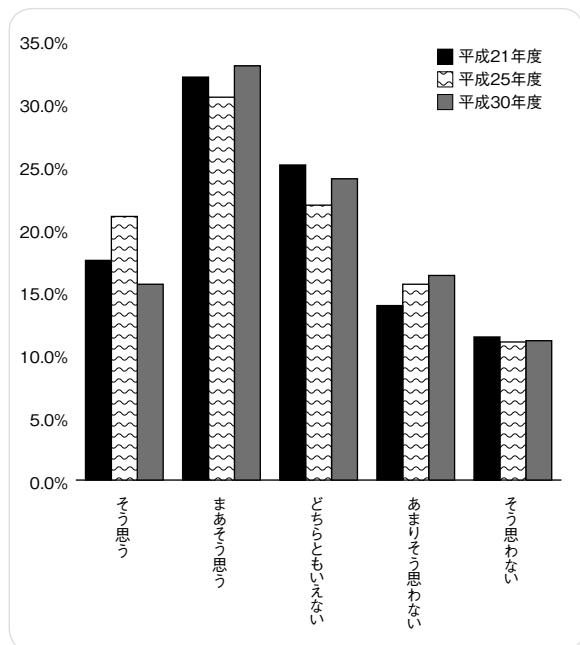
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
地域の活動に参加する機会がある

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	17.5%	21.0%	15.6%
まあそう思う	32.1%	30.5%	33.0%
どちらともいえない	25.1%	21.9%	24.0%
あまりそう思わない	13.9%	15.6%	16.3%
そう思わない	11.4%	11.0%	11.1%

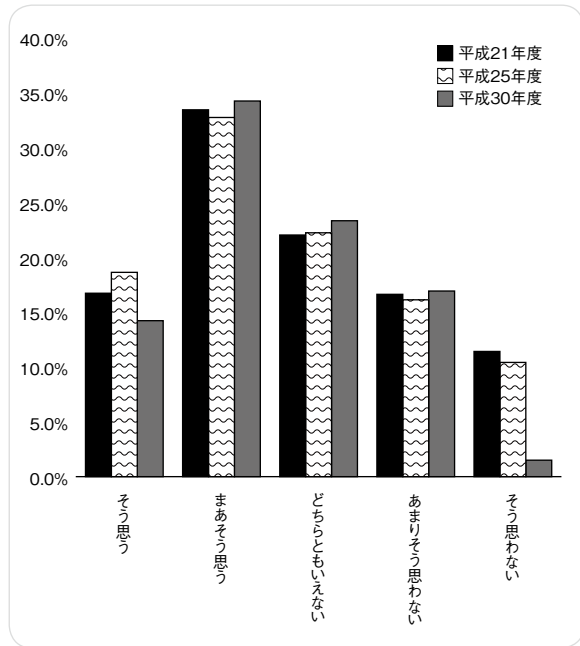
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
地域でいろいろな活動が行われている

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	16.7%	18.6%	14.2%
まあそう思う	33.4%	32.7%	34.2%
どちらともいえない	22.0%	22.2%	23.3%
あまりそう思わない	16.6%	16.1%	16.9%
そう思わない	11.4%	10.4%	1.5%

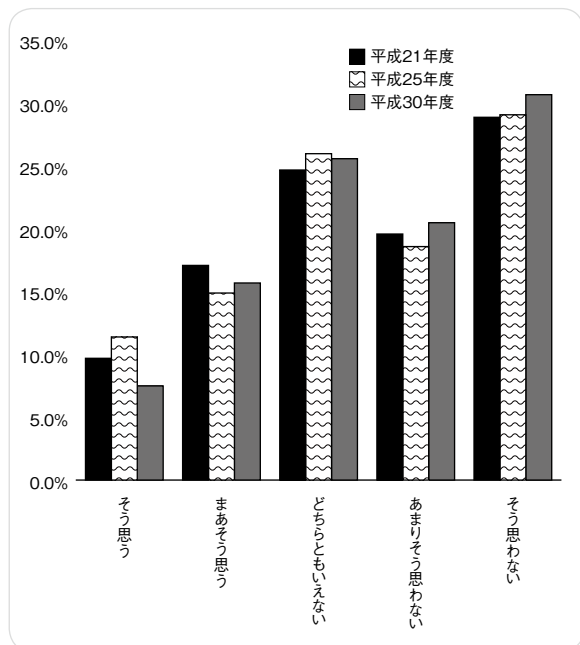
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
地域の中で自分の役割がある

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	9.7%	11.4%	7.5%
まあそう思う	17.1%	14.9%	15.7%
どちらともいえない	24.7%	26.0%	25.6%
あまりそう思わない	19.6%	18.6%	20.5%
そう思わない	28.9%	29.1%	30.7%

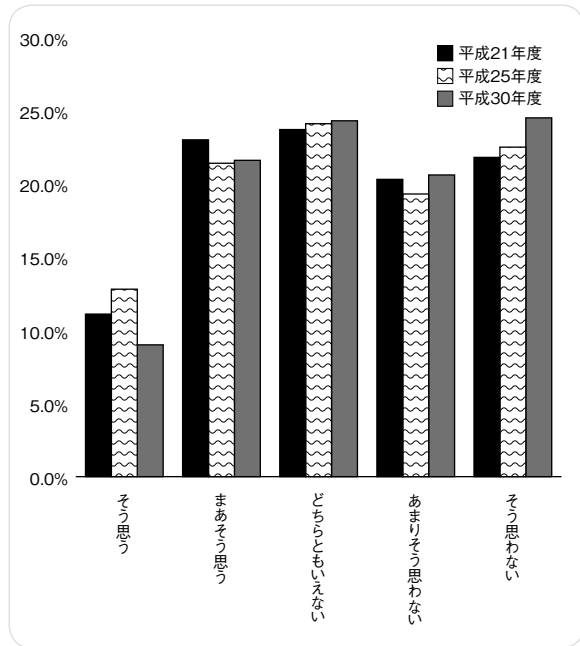
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
地域のことについて話しあう機会がある

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	11.1%	12.8%	9.0%
まあそう思う	23.0%	21.4%	21.6%
どちらともいえない	23.7%	24.1%	24.3%
あまりそう思わない	20.3%	19.3%	20.6%
そう思わない	21.8%	22.5%	24.5%

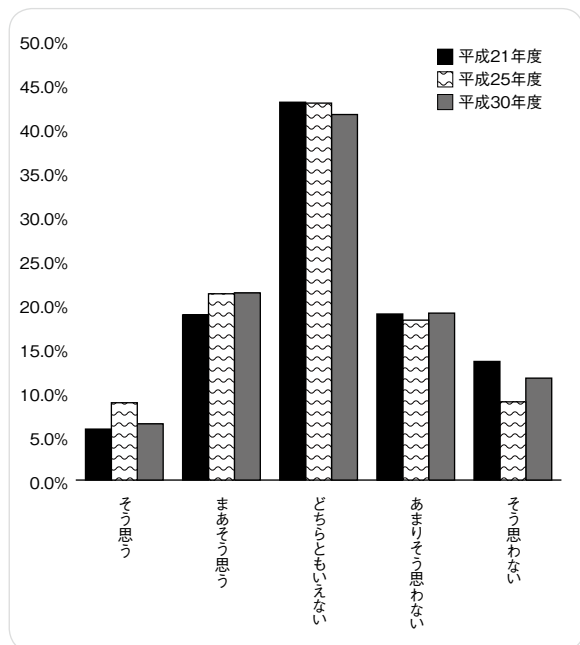
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
この地域は生活の場としてだんだん良くなる

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	5.8%	8.8%	6.4%
まあそう思う	18.8%	21.2%	21.3%
どちらともいえない	43.0%	42.9%	41.6%
あまりそう思わない	18.9%	18.2%	19.0%
そう思わない	13.5%	8.9%	11.6%

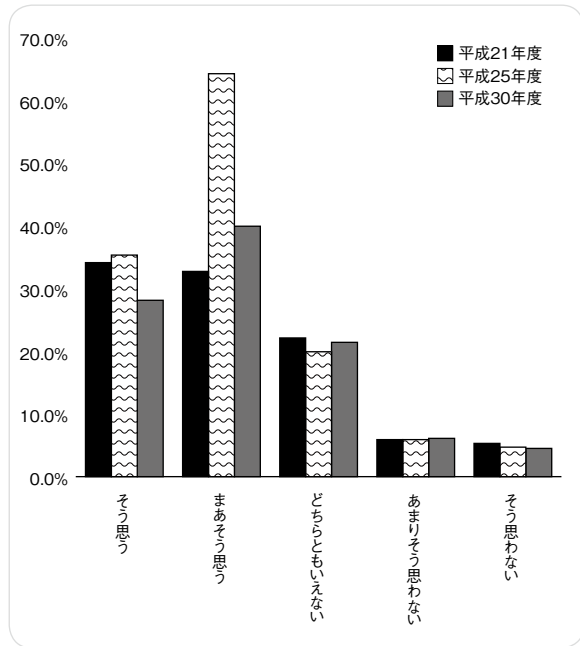
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
今後もこの地域に住み続けたい

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
そう思う	34.1%	35.3%	28.1%
まあそう思う	32.7%	64.2%	39.9%
どちらともいえない	22.1%	19.9%	21.4%
あまりそう思わない	5.9%	5.9%	6.1%
そう思わない	5.3%	4.7%	4.5%

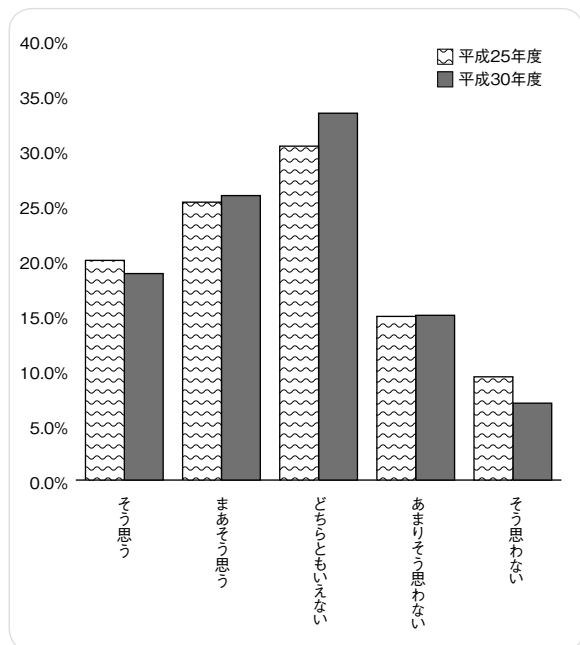
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
祭りなどの行事が少なくなった

	平成25年度	平成30年度
そう思う	20.0%	18.8%
まあそう思う	25.3%	25.9%
どちらともいえない	30.4%	33.4%
あまりそう思わない	14.9%	15.0%
そう思わない	9.4%	7.0%

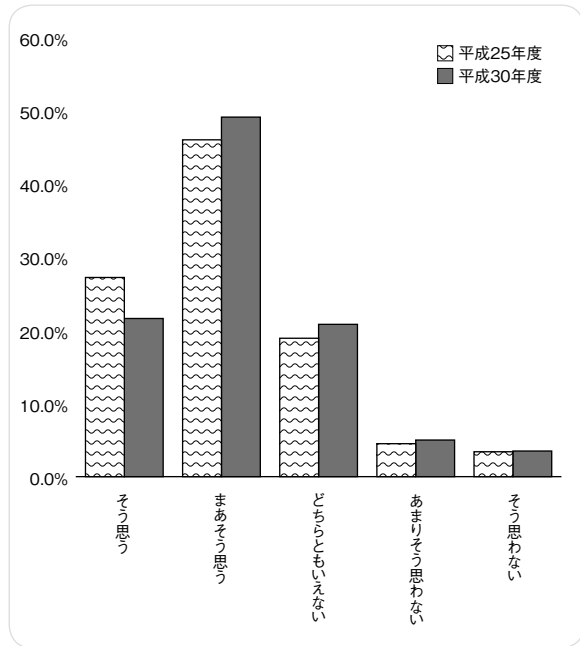
※平成25年度からの設問  
※有効回収数からの比率



問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。(択一回答)  
全体的にみて、この地域の住み心地は良い

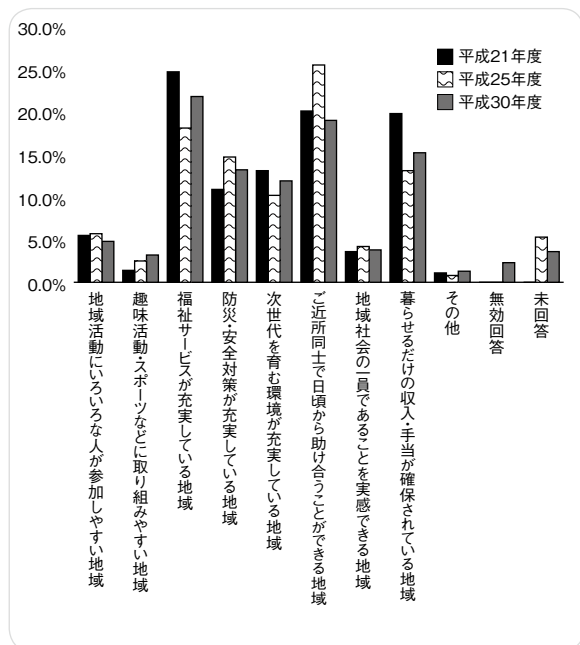
	平成25年度	平成30年度
そう思う	27.2%	21.6%
まあそう思う	46.0%	49.1%
どちらともいえない	18.9%	20.8%
あまりそう思わない	4.5%	5.0%
そう思わない	3.4%	3.5%

※平成25年度からの設問  
※有効回収数からの比率



問9 あなたが考える「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域(まち)」とは、どのような地域(まち)だと思いますか。(択一回答)

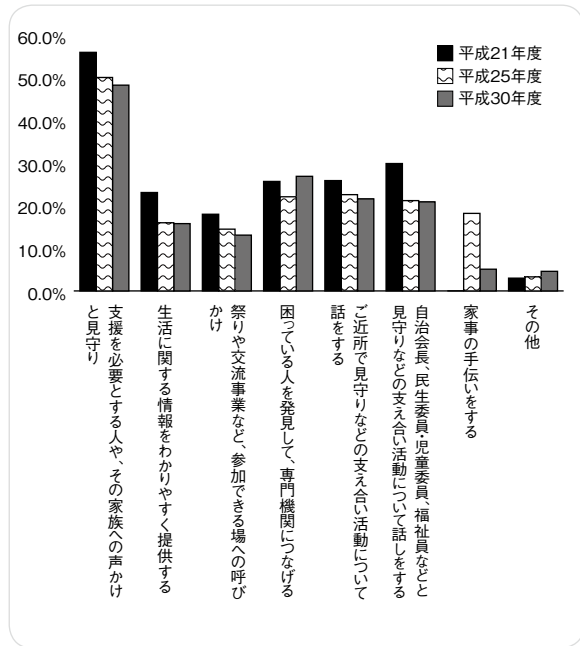
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
地域活動にいろいろな人が参加しやすい地域	5.5%	5.7%	4.8%
趣味活動・スポーツなどに取り組みやすい地域	1.4%	2.5%	3.2%
福祉サービスが充実している地域	24.7%	18.1%	21.8%
防災・安全対策が充実している地域	10.9%	14.7%	13.2%
次世代を育む環境が充実している地域	13.1%	10.2%	11.9%
ご近所同士で日頃から助け合うことができる地域	20.1%	25.5%	19.0%
地域社会の一員であることを実感できる地域	3.6%	4.2%	3.8%
暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域	19.8%	13.1%	15.2%
その他	1.1%	0.8%	1.3%
無効回答			2.3%
未回答		5.3%	3.6%



問10 高齢者や障害のある人（子ども）、引きこもり（不登校）の人、少し気がかりな人（子ども）など、支援を必要とする人や家庭に対し、地域で支えるためにあなたができることとして、どのようなことがありますか。（複数回答可）

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
支援を必要とする人や、その家族への声かけと見守り	56.0%	50.1%	48.3%
生活に関する情報をわかりやすく提供する	23.1%	16.0%	15.8%
祭りや交流事業など、参加できる場への呼びかけ	18.0%	14.5%	13.1%
困っている人を発見して、専門機関につなげる	25.7%	22.1%	26.9%
ご近所で見守りなどの支え合い活動について話す	25.9%	22.6%	21.6%
自治会長、民生委員・児童委員、福祉員などとの支え合い活動について話しをする	29.9%	21.2%	20.9%
家事の手伝いをする		18.2%	5.1%
その他	3.0%	3.3%	4.6%

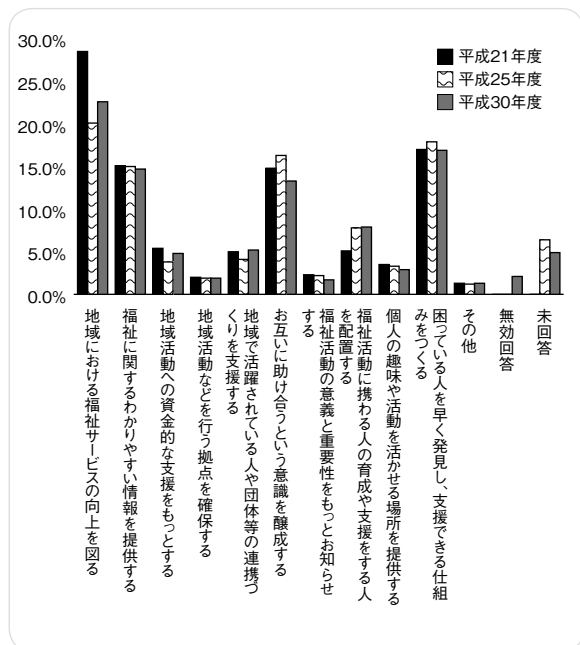
※有効回収数からの比率  
※平成30年度からの新規設問



問11 「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域づくり」を進めていくために、市や町の行政に期待する役割としてどのようなことがありますか。（択一回答）

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
地域における福祉サービスの向上を図る	28.5%	20.1%	22.6%
福祉に関するわかりやすい情報を提供する	15.1%	15.0%	14.7%
地域活動への資金的な支援をもつとする	5.4%	3.8%	4.8%
地域活動などを行う拠点を確保する	2.0%	1.9%	1.9%
地域で活躍されている人や団体等の連携づくりを支援する	5.0%	4.1%	5.2%
お互いに助け合うという意識を醸成する	14.8%	16.3%	13.3%
福祉活動の意義と重要性をもっとお知らせする	2.3%	2.2%	1.7%
福祉活動に携わる人の育成や支援をする人を配置する	5.1%	7.8%	7.9%
個人の趣味や活動を活かせる場所を提供する	3.5%	3.3%	2.9%
困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる	17.0%	17.9%	16.9%
その他	1.3%	1.2%	1.3%
無効回答			2.1%
未回答		6.4%	4.9%

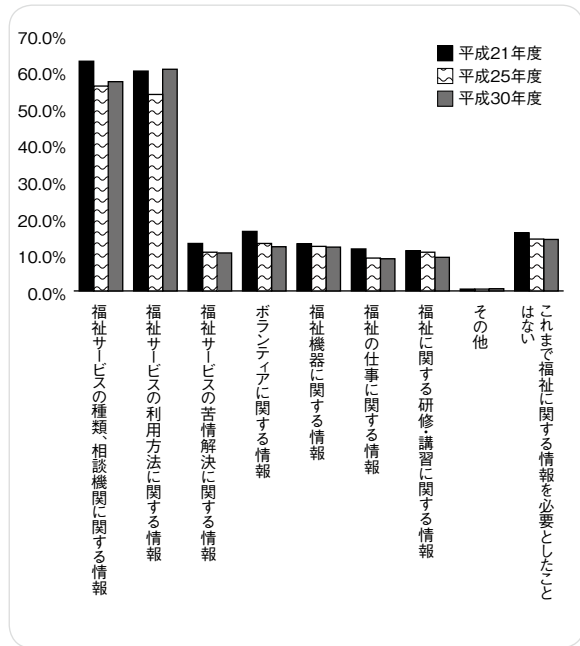
※平成30年度からの新規設問



問12 あなたは福祉に関する情報について、どのような情報が必要ですか。(複数回答可)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
福祉サービスの種類、相談機関に関する情報	62.9%	56.1%	57.3%
福祉サービスの利用方法に関する情報	60.2%	53.8%	60.7%
福祉サービスの苦情解決に関する情報	13.0%	10.6%	10.4%
ボランティアに関する情報	16.3%	13.0%	12.1%
福祉機器に関する情報	12.9%	12.2%	12.0%
福祉の仕事に関する情報	11.5%	9.0%	8.8%
福祉に関する研修・講習に関する情報	11.0%	10.6%	9.2%
その他	0.5%	0.5%	0.6%
これまで福祉に関する情報を必要としたことはない	15.9%	14.2%	14.1%

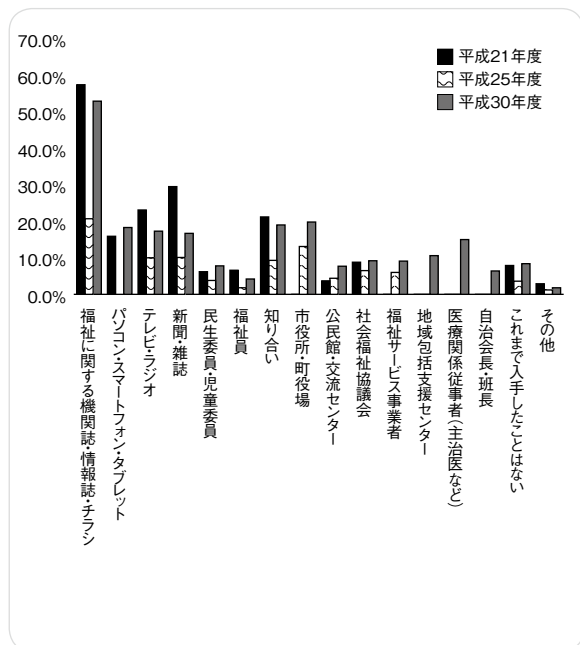
※有効回収数からの比率  
 ※平成30年度からの新規設問



付問12-1 あなたは福祉に関する情報を、どこから入手していますか。(複数回答可)

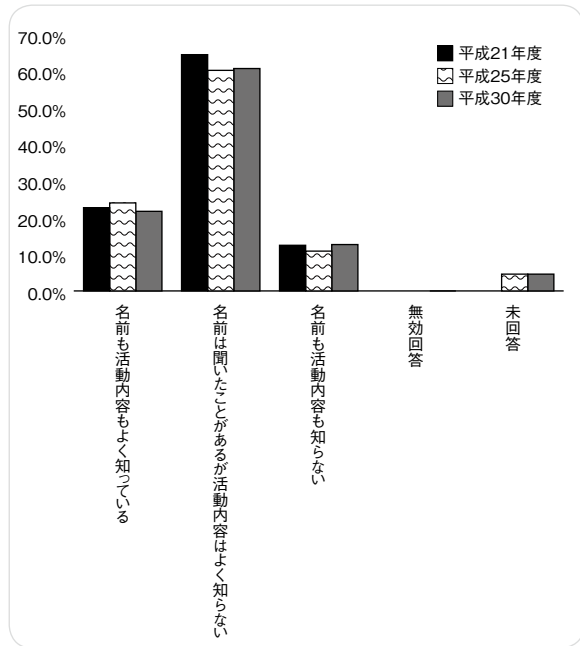
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
福祉に関する機関誌・情報誌・チラシ	57.4%	20.7%	52.9%
パソコン・スマートフォン・タブレット	15.9%		18.3%
テレビ・ラジオ	23.1%	10.0%	17.3%
新聞・雑誌	29.5%	10.1%	16.7%
民生委員・児童委員	6.2%	3.8%	7.8%
福祉員	6.6%	1.8%	4.2%
知り合い	21.2%	9.3%	19.0%
市役所・町役場		13.1%	19.8%
公民館・交流センター	3.7%	4.4%	7.7%
社会福祉協議会	8.8%	6.5%	9.2%
福祉サービス事業者		6.0%	9.1%
地域包括支援センター			10.6%
医療関係従事者(主治医など)			15.0%
自治会長・班長			6.4%
これまで入手したことはない	7.9%	3.6%	8.4%
その他	2.9%	1.2%	1.8%

※有効回収数からの比率



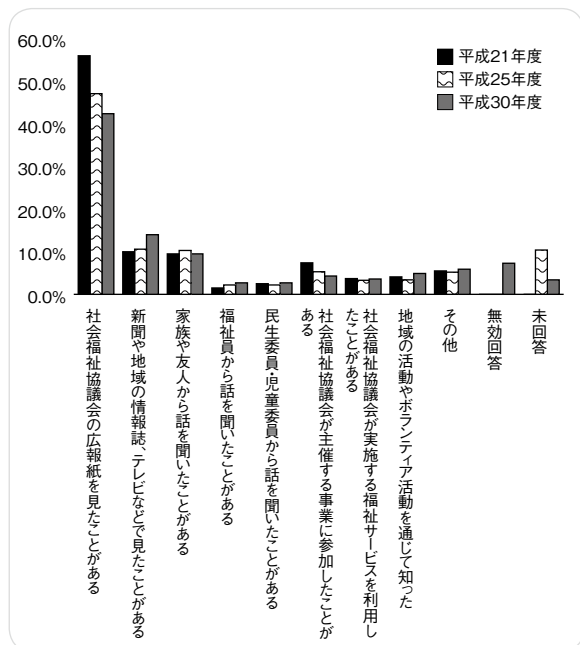
問13 あなたは、市や町の社会福祉協議会を知っていますか。(択一回答)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
名前も活動内容もよく知っている	22.8%	24.1%	21.8%
名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	64.7%	60.4%	60.9%
名前も活動内容も知らない	12.5%	10.9%	12.7%
無効回答			0.0%
未回答		4.6%	4.6%



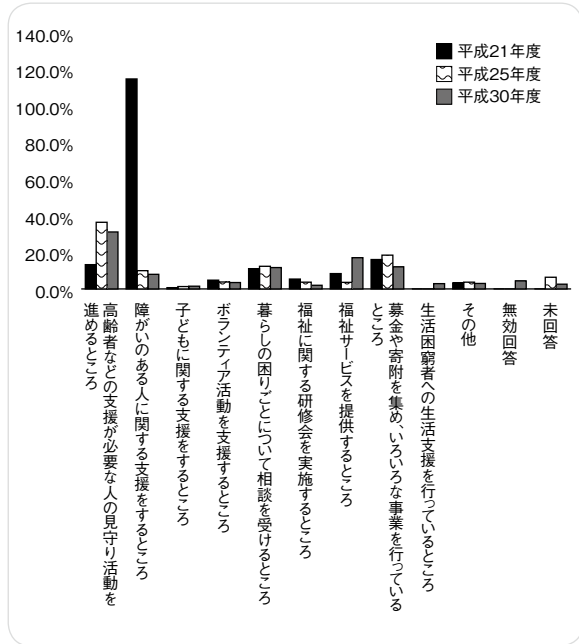
付問13-1 あなたは、どのようにして市や町の社会福祉協議会を知りましたか。(択一回答)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
社会福祉協議会の広報紙を見たことがある	56.0%	47.1%	42.4%
新聞や地域の情報誌、テレビなどで見たことがある	10.0%	10.6%	14.0%
家族や友人から話を聞いたことがある	9.5%	10.3%	9.5%
福祉員から話を聞いたことがある	1.5%	2.2%	2.7%
民生委員・児童委員から話を聞いたことがある	2.5%	2.2%	2.7%
社会福祉協議会が主催する事業に参加したことがある	7.4%	5.3%	4.3%
社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用したことがある	3.7%	3.3%	3.6%
地域の活動やボランティア活動を通じて知った	4.1%	3.4%	4.9%
その他	5.5%	5.2%	5.9%
無効回答			7.3%
未回答		10.4%	3.4%



付問13-2 あなたは、社会福祉協議会の仕事について、どのような印象を持っていますか。(択一回答)

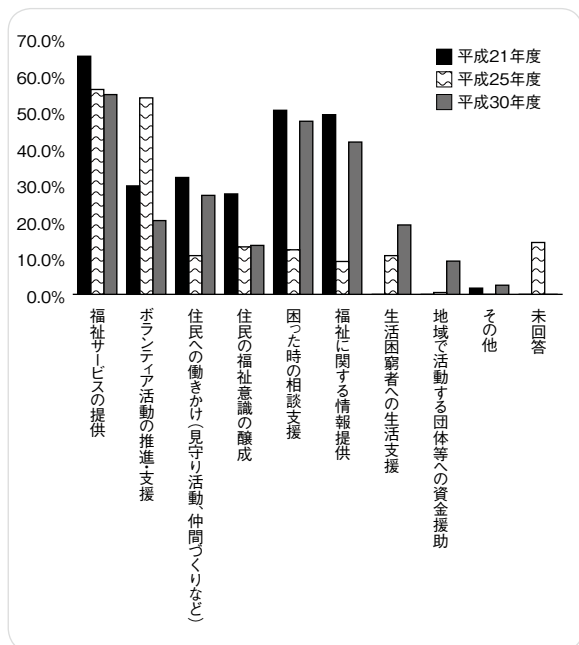
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところ	13.3%	36.5%	31.2%
障がいのある人に関する支援をするところ	115.0%	10.0%	8.0%
子どもに関する支援をするところ	0.7%	1.3%	1.5%
ボランティア活動を支援するところ	4.8%	3.8%	3.5%
暮らしの困りごとについて相談を受けるところ	11.1%	12.4%	11.7%
福祉に関する研修会を実施するところ	5.4%	3.7%	2.0%
福祉サービスを提供するところ	8.4%	3.6%	17.1%
募金や寄附を集め、いろいろな事業を行っているところ	16.1%	18.5%	12.1%
生活困窮者への生活支援を行っているところ			2.9%
その他	3.3%	3.7%	3.0%
無効回答			4.4%
未回答		6.4%	2.6%



問14 あなたは、今後、市や町の社会福祉協議会にどのような役割を期待しますか。(複数回答可)

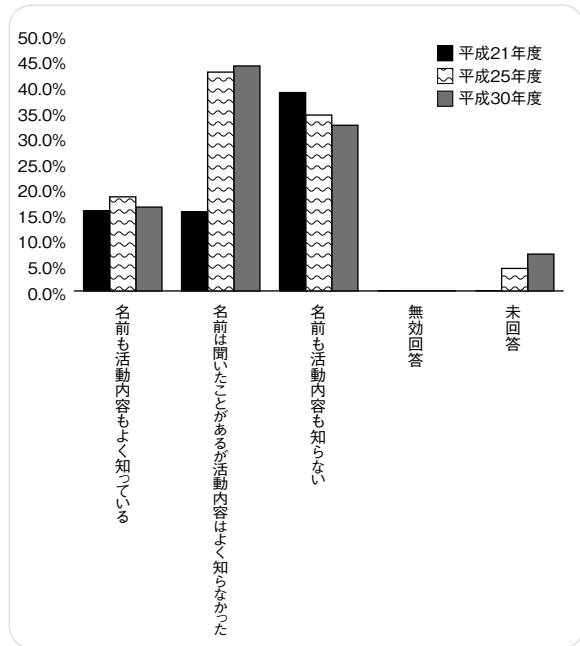
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
福祉サービスの提供	65.2%	56.1%	54.7%
ボランティア活動の推進・支援	29.7%	53.8%	20.2%
住民への働きかけ(見守り活動、仲間づくりなど)	32.0%	10.6%	27.1%
住民の福祉意識の醸成	27.5%	13.0%	13.4%
困った時の相談支援	50.4%	12.2%	47.4%
福祉に関する情報提供	49.2%	9.0%	41.7%
生活困窮者への生活支援		10.6%	19.0%
地域で活動する団体等への資金援助		0.5%	9.1%
その他	1.7%		2.5%
未回答		14.2%	

※有効回収数からの比率



問15 あなたは、「福祉員」を知っていましたか。(択一回答)

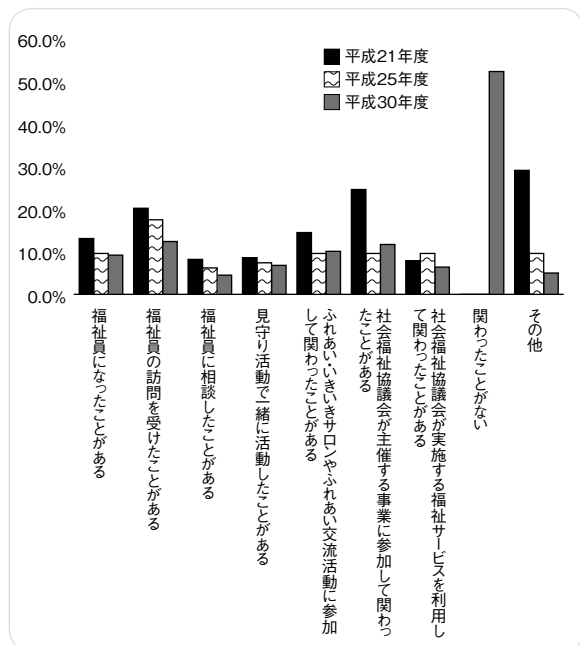
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
名前も活動内容もよく知っていた	15.7%	18.4%	16.4%
名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らなかった	45.5%	42.8%	44.0%
名前も活動内容も知らなかった	38.8%	34.4%	32.4%
無効回答			0.0%
未回答		4.4%	7.2%



付問15-1 あなたは、これまで福祉員とどのような関わりがありましたか。(複数回答可)

	平成21年度	平成25年度	平成30年度
福祉員になったことがある	13.1%	9.6%	9.2%
福祉員の訪問を受けたことがある	20.2%	17.5%	12.4%
福祉員に相談したことがある	8.2%	6.2%	4.5%
見守り活動と一緒に活動したことがある	8.6%	7.4%	6.8%
ふれあい・いきいきサロンやふれあい交流活動に参加して関わったことがある	14.5%	9.6%	10.1%
社会福祉協議会が主催する事業に参加して関わったことがある	24.6%	9.6%	11.7%
社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用して関わったことがある	7.9%	9.6%	6.4%
関わったことがない			52.3%
その他	29.1%	9.6%	5.0%

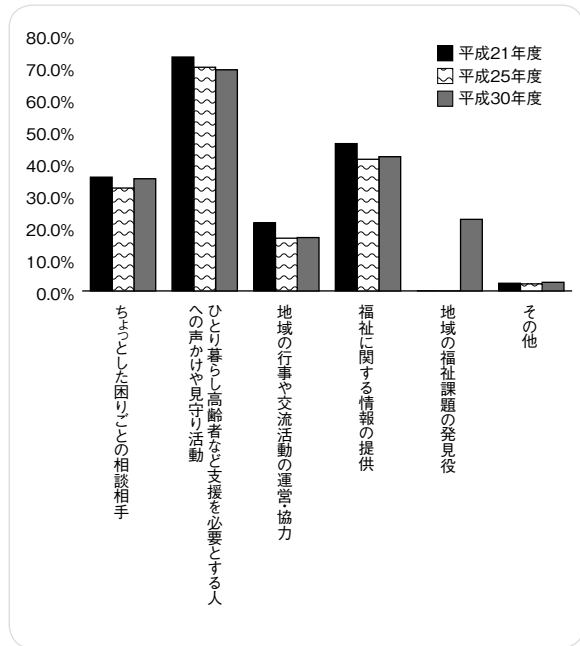
※有効回収数からの比率



問16 今後、「福祉員」に期待する役割としてどのようなことがありますか。(複数回答可)

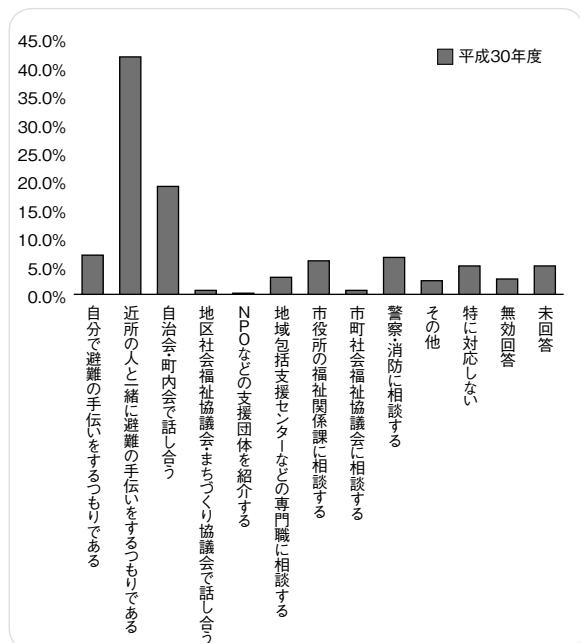
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
ちょっとした困りごとの相談相手	35.6%	32.2%	35.1%
ひとり暮らし高齢者など支援を必要とする人への声かけや見守り活動	73.2%	70.0%	69.2%
地域の行事や交流活動の運営・協力	21.3%	16.5%	16.7%
福祉に関する情報の提供	46.1%	41.2%	42.0%
地域の福祉課題の発見役			22.4%
その他	2.4%	2.2%	2.7%

※有効回収数からの比率



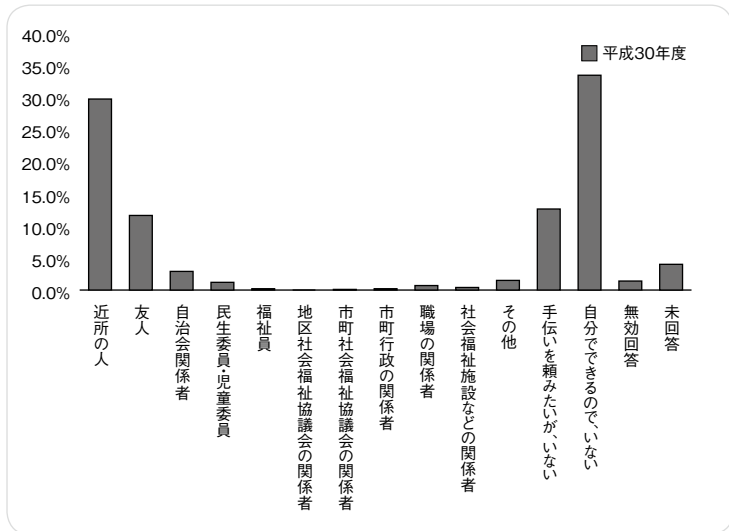
問17 もし、あなたの地域に、次のような方がいたら、災害時に備えて、あなたはどのように取組みますか。(択一回答)

	比率
自分で避難の手伝いをするつもりである	6.9%
近所の人と一緒に避難の手伝いをするつもりである	41.8%
自治会・町内会で話し合う	19.0%
地区社会福祉協議会・まちづくり協議会で話し合う	0.7%
NPOなどの支援団体を紹介する	0.2%
地域包括支援センターなどの専門職に相談する	3.0%
市役所の福祉関係課に相談する	5.9%
市町社会福祉協議会に相談する	0.7%
警察・消防に相談する	6.5%
その他	2.4%
特に対応しない	5.0%
無効回答	2.7%
未回答	5.0%



問18 あなたには、災害時に備えて家族・親族以外で、戸締まりや避難などのお手伝いを頼める方がいらっしゃいますか。(択一回答)

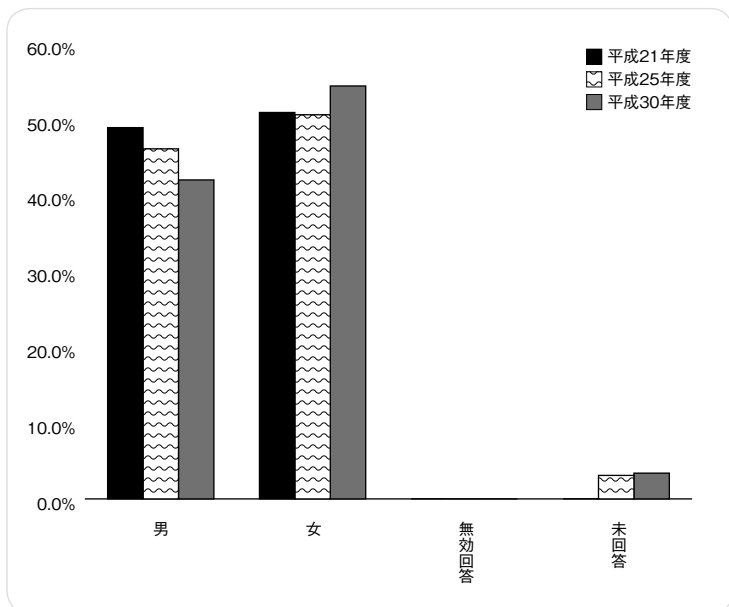
	比率
近所の人	29.7%
友人	11.6%
自治会関係者	2.9%
民生委員・児童委員	1.2%
福祉員	0.2%
地区社会福祉協議会の関係者	0.0%
市町社会福祉協議会の関係者	0.1%
市町行政の関係者	0.2%
職場の関係者	0.7%
社会福祉施設などの関係者	0.4%
その他	1.5%
手伝いを頼みたいが、いない	12.6%
自分でできるので、いない	33.4%
無効回答	1.4%
未回答	4.0%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。  
(択一回答)

F1 性別

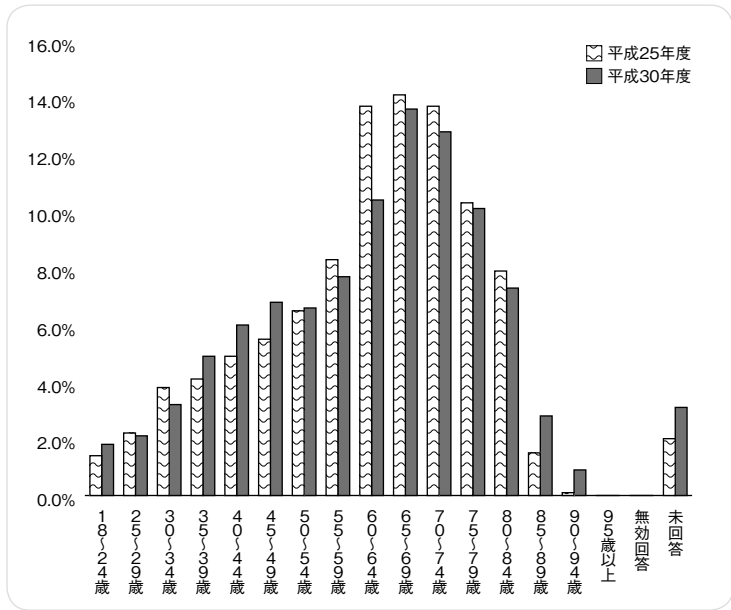
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
男	49%	46.2%	42.1%
女	51%	50.7%	54.5%
無効回答			0.0%
未回答		3.1%	3.4%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。  
(択一回答)

F2 年齢

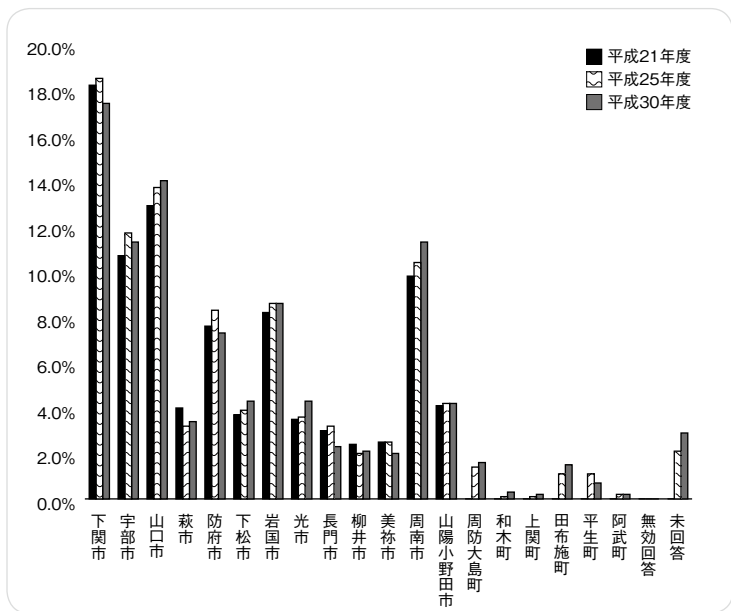
	平成25年度	平成30年度
18～24歳	1.4%	1.8%
25～29歳	2.2%	2.1%
30～34歳	3.8%	3.2%
35～39歳	4.1%	4.9%
40～44歳	4.9%	6.0%
45～49歳	5.5%	6.8%
50～54歳	6.5%	6.6%
55～59歳	8.3%	7.7%
60～64歳	13.7%	10.4%
65～69歳	14.1%	13.6%
70～74歳	13.7%	12.8%
75～79歳	10.3%	10.1%
80～84歳	7.9%	7.3%
85～89歳	1.5%	2.8%
90～94歳	0.1%	0.9%
95歳以上	0.0%	0.0%
無効回答		0.0%
未回答	2.0%	3.1%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。  
(択一回答)

F3 お住まいの市町

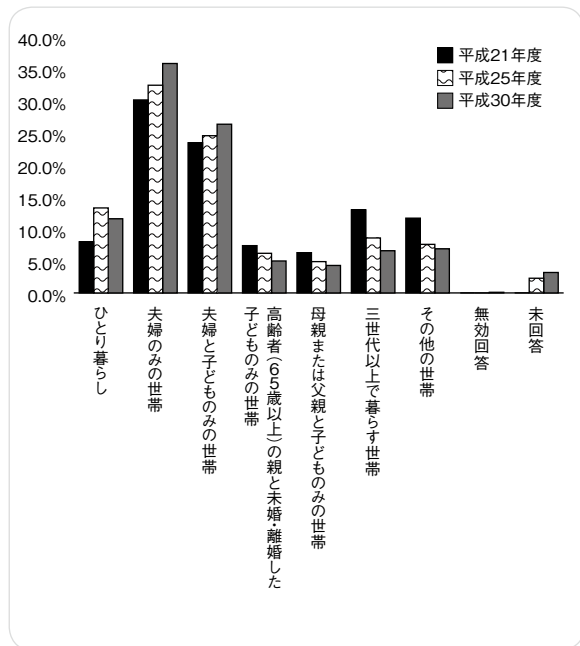
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
下関市	18.2%	18.5%	17.4%
宇部市	10.7%	11.7%	11.3%
山口市	12.9%	13.7%	14.0%
萩市	4.0%	3.2%	3.4%
防府市	7.6%	8.3%	7.3%
下松市	3.7%	3.9%	4.3%
岩国市	8.2%	8.6%	8.6%
光市	3.5%	3.6%	4.3%
長門市	3.0%	3.2%	2.3%
柳井市	2.4%	2.0%	2.1%
美祿市	2.5%	2.5%	2.0%
周南市	9.8%	10.4%	11.3%
山陽小野田市	4.1%	4.2%	4.2%
周防大島町		1.4%	1.6%
和木町		0.1%	0.3%
上関町		0.1%	0.2%
田布施町		1.1%	1.5%
平生町		1.1%	0.7%
阿武町		0.2%	0.2%
無効回答			0.0%
未回答		2.1%	2.9%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。(択一回答)

F4 世帯

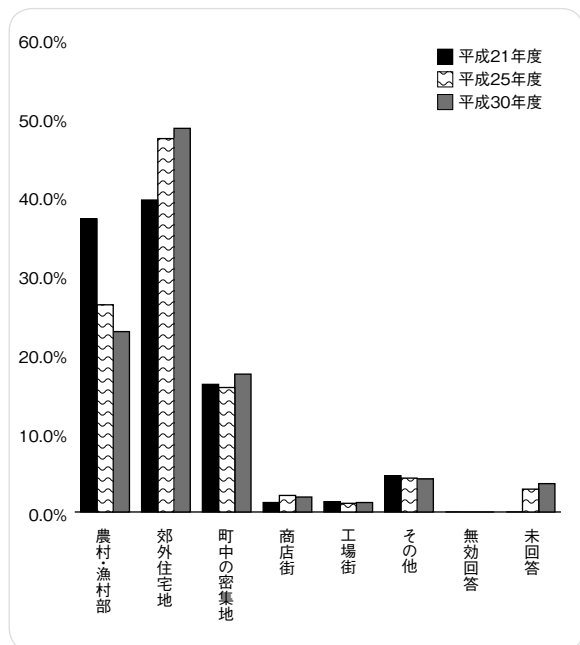
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
ひとり暮らし	8.0%	13.3%	11.6%
夫婦のみの世帯	30.2%	32.5%	35.9%
夫婦と子どもだけの世帯	23.5%	24.6%	26.4%
高齢者(65歳以上)の親と未婚・離婚した子どもだけの世帯	7.4%	6.2%	5.0%
母親または父親と子どもだけの世帯	6.3%	4.9%	4.3%
三世代以上で暮らす世帯	13.0%	8.6%	6.6%
その他の世帯	11.7%	7.6%	6.9%
無効回答			0.1%
未回答		2.3%	3.2%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。(択一回答)

F5 住んでる場所

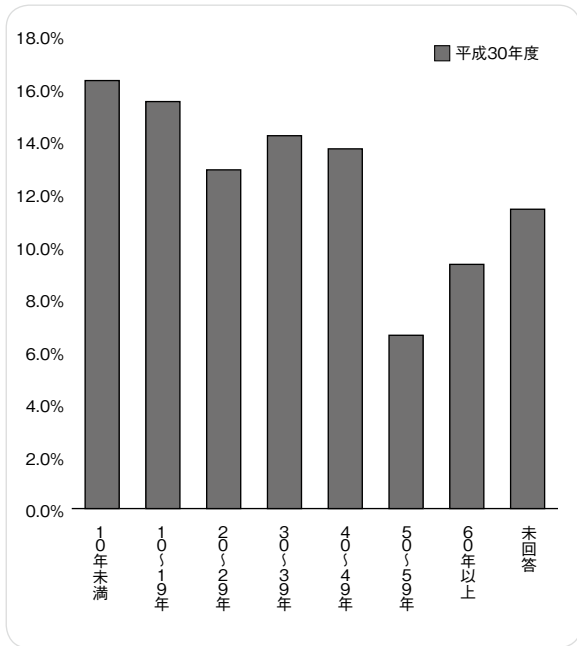
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
農村・漁村部	37.2%	26.3%	22.9%
郊外住宅地	39.6%	47.4%	48.7%
町中の密集地	16.2%	15.8%	17.5%
商店街	1.2%	2.1%	1.9%
工場街	1.3%	1.1%	1.2%
その他	4.6%	4.3%	4.2%
無効回答			0.0%
未回答		2.9%	3.6%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。(択一回答)

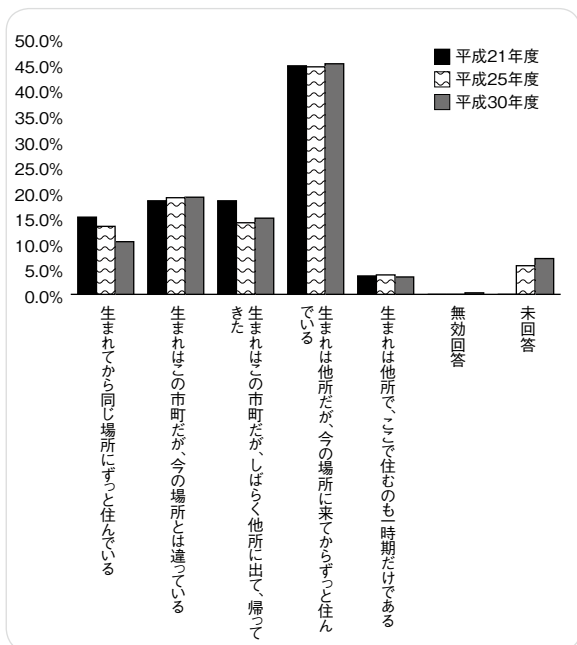
F6 居住歴

居住年数	平成30年度
10年未満	16.3%
10～19年	15.5%
20～29年	12.9%
30～39年	14.2%
40～49年	13.7%
50～59年	6.6%
60年以上	9.3%
未回答	11.4%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。(択一回答)

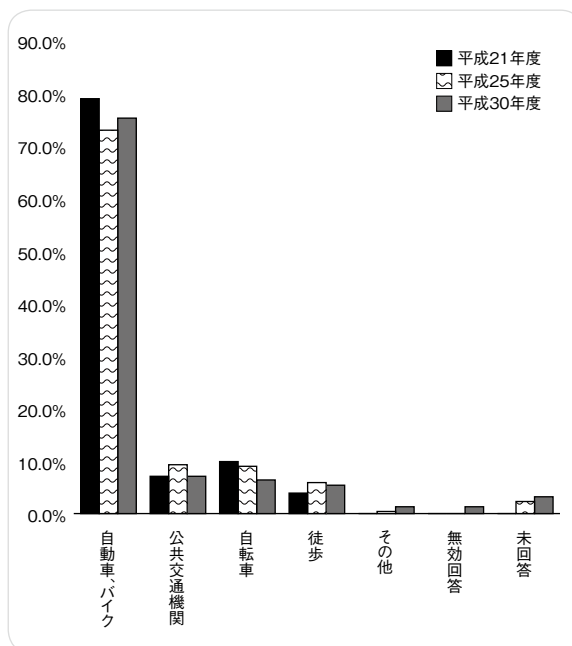
居住年数	平成21年度	平成25年度	平成30年度
生まれてから同じ場所にずっと住んでいる	15.1%	13.3%	10.3%
生まれはこの市町だが、今の場所とは違っている	18.3%	18.9%	19.0%
生まれはこの市町だが、しばらく他所に出て、帰ってきた	18.3%	14.0%	14.9%
生まれは他所だが、今の場所に来てからずっと住んでいる	44.7%	44.5%	45.1%
生まれは他所で、ここで住むのも一時期だけである	3.6%	3.8%	3.4%
無効回答			0.3%
未回答		5.6%	7.0%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。(択一回答)

F7 移動手段

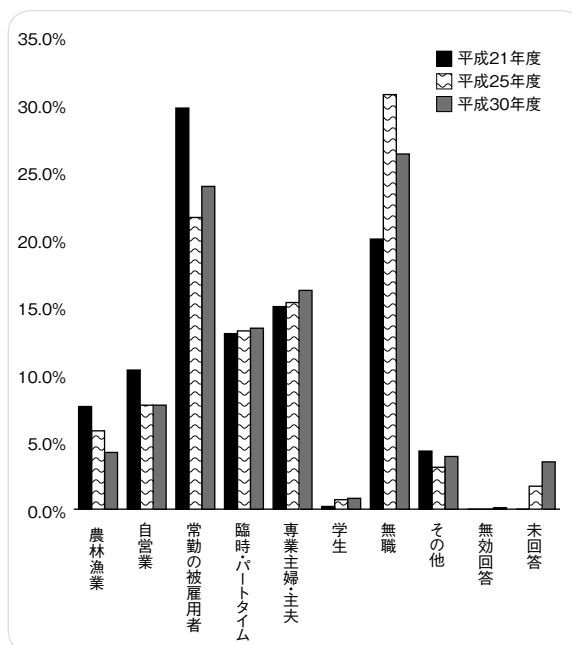
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
自動車、バイク	79.0%	73.0%	75.3%
公共交通機関	7.1%	9.3%	7.1%
自転車	9.9%	9.0%	6.4%
徒歩	3.9%	5.9%	5.4%
その他		0.4%	1.3%
無効回答			1.3%
未回答		2.3%	3.2%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。(択一回答)

F8 現在の仕事

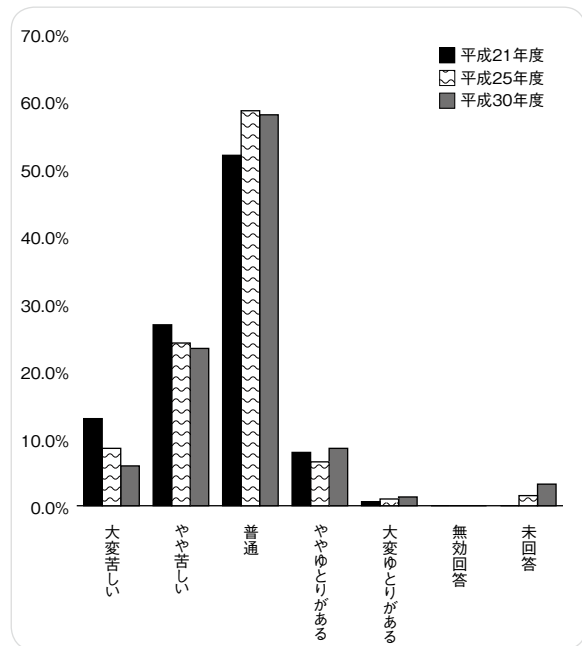
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
農林漁業	7.6%	5.8%	4.2%
自営業	10.3%	7.7%	7.7%
常勤の被雇用者	29.7%	21.6%	23.9%
臨時・パートタイム	13.0%	13.2%	13.4%
専業主婦・主夫	15.0%	15.3%	16.2%
学生	0.2%	0.7%	0.8%
無職	20.0%	30.7%	26.3%
その他	4.3%	3.1%	3.9%
無効回答			0.1%
未回答		1.7%	3.5%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。(択一回答)

F9 現在の暮らしの状況

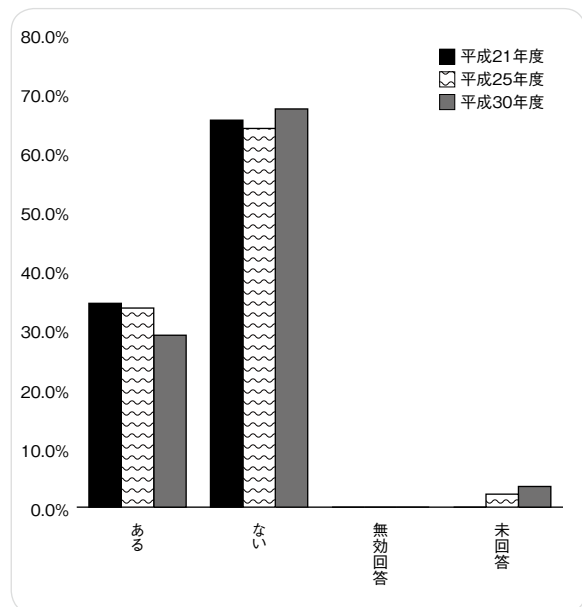
	平成21年度	平成25年度	平成30年度
大変苦しい	12.9%	8.5%	5.9%
やや苦しい	26.8%	24.1%	23.3%
普通	51.9%	58.5%	57.9%
ややゆとりがある	7.9%	6.5%	8.5%
大変ゆとりがある	0.6%	1.0%	1.3%
無効回答		0.0%	0.0%
未回答		1.5%	3.2%



最後に、あなた自身のことについておたずねします。(択一回答)

F10 地域福祉活動の経験

居住年数	平成21年度	平成25年度	平成30年度
ある	34.5%	33.7%	29.1%
ない	65.5%	64.1%	67.4%
無効回答		0.0%	0.0%
未回答		2.2%	3.5%



#### 4. 「県民福祉意識等に関する調査研究委員会」協議経過 等

平成29年度

##### 【第1回】

- ・日時：平成29年7月10日（月）
- ・内容：委員会の目的及び運営について  
県民福祉意識等実態調査について

##### 【第2回】

- ・日時：平成29年10月23日（月）
- ・内容：平成30年度 調査票（案）について

##### 【第3回】

- ・日時：平成30年1月29日（月）
- ・内容：平成30年度 調査票（案）について

平成30年度

##### 【第1回】

- ・日時：平成30年11月5日（月）
- ・内容：平成30年度 福祉に関する県民意識調査について  
今後の進め方について

##### 【第2回】

- ・日時：平成31年1月21日（月）
- ・内容：2018年度 福祉に関する県民意識調査 報告書（案）について  
2023年度 福祉に関する県民意識調査について

県民福祉意識等に関する調査研究委員会 委員名簿

平成29年6月1日～平成31年3月31日

	所 属	役 職	氏 名
委 員 長	九州大学大学院人間環境学研究院	教授	高野 和良
副委員長	山口県立大学社会福祉学部	教授	坂本 俊彦
委 員	山口県民生委員児童委員協議会	常任理事	河村 正男
委 員	秋月地区社会福祉協議会（周南市）	会長	吉村 佑一
委 員	社会福祉法人 平生町社会福祉協議会	総務企画部長	榎本 朋子
委 員	社会福祉法人 山口市社会福祉協議会	主幹	中村 敬紀
委 員	山口県健康福祉部厚政課地域保健福祉班	班長	本永 将雄

※所属及び役職は委員に就任当時のものを掲載しております。

【事務局】

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会  
 企画総務部 兼 地域福祉部 部 長 岡村 昌一郎  
 地域福祉部 副 部 長 大河原 修  
 地域福祉部 地域福祉班 主 任 主 事 遠藤 真由美  
 “ “ 専 門 職 嘱 託 河内 由布

発行：平成31年（2019年）3月  
発行者：社会福祉法人 山口県社会福祉協議会  
〒753-0072  
山口県山口市大手町9-6  
TEL 083-924-2828  
FAX 083-924-2847  
印刷：株式会社マルニ